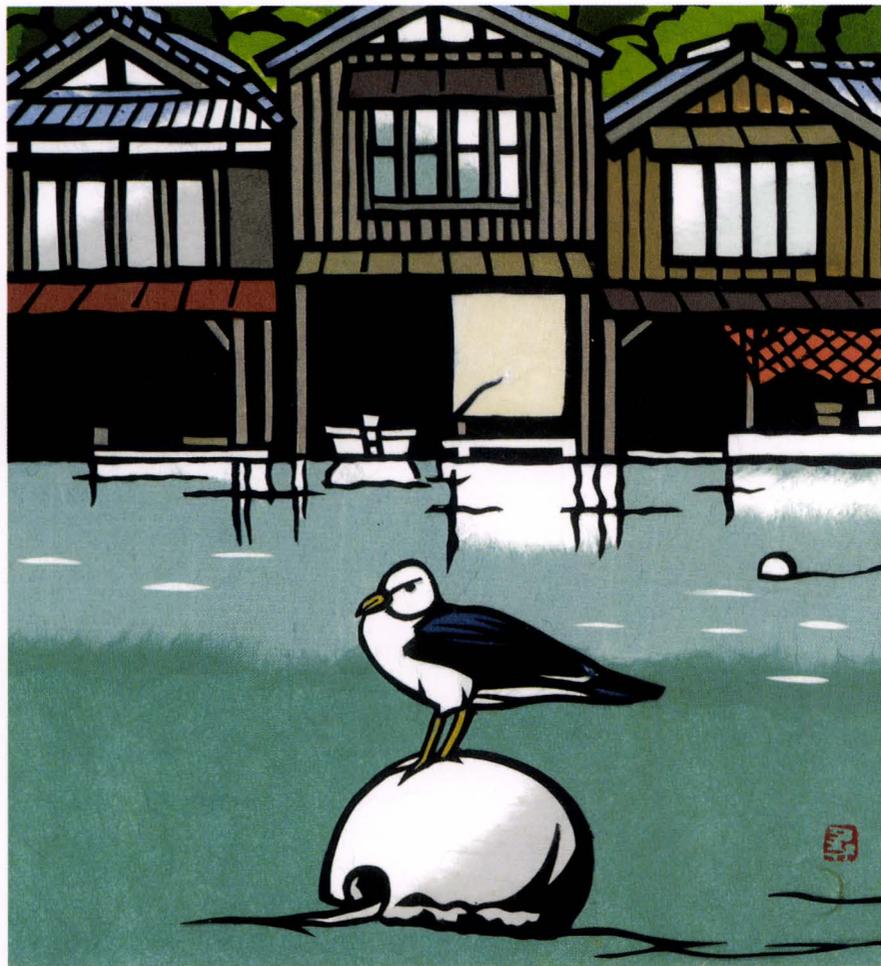


# 川柳塔

令和五年九月一日発行（毎月一日発行）  
創刊大正十三年 通卷一一五六号



日川協加盟

No.1156

九月号

川柳塔 発刊のご案内

「川柳塔」は大正十三年の「川柳雑誌」創刊から数えて、令和六年で百周年を迎えます。これを記念して合同句集「川柳塔」を発刊致します。合同句集は昭和四十九年以来十年ごとに刊行し、今回は平成二十六年に続く第六集となります。同人・誌友はもちろん、一般の方々のご参加も歓迎致します。一人でも多くのお申し込みを心からお願ひ申し上げます。川柳塔社

☆刊行 令和六年七月一日発行

☆締切 令和六年一月三十一日(水)

☆体裁 B6判・ハードカバー・上製本  
八〇〇頁(予定)

☆参加費 五千円(句集一冊呈・送料込み)

☆掲載句 一人 十五句(自選)

☆申込 所定用紙に掲載句(平成二十六年以降の発表句、または未発表句)を記入し、左記川柳塔事務所へお申込み下さい。

なお、参加費は同封の払込用紙でお願ひします。

☆送付先 〒543-0052

大阪市天王寺区大道一―一四―一七

花野ビル二〇一号

川柳塔社 合同句集係 宛

TEL・FAX (〇六) 六七七九―三四九〇

# 良い川柳とは何か。

膨大な川柳作品と長年対峙してきた著者が古今東西の優れた句を掘り起こし、現代的なエッセンスを加えて導く、「知っておきたい名句」532句。

# 秀句

良い川柳から学ぶ

# 条件

新家完司・著

秀句到達への  
最短距離!



A5判ソフトカバー・288頁  
定価(本体1,700円+税)  
ISBN978-4-8237-1084-1

【注文は葉書かFAXにて。支払いは到着後で可。

〒689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万597 新家完司 FAX 0858-52-2449]

## 雨の尾道ひとり旅

小島 蘭 幸

7月3日、朝から雨が降っていましたが私は尾道千光寺、文学公園へと車を走らせました。自宅を出発して約50分、千光寺山頂の駐車場へ車を停めて、右手に傘、左手にはお供えを入れたバッグを提げて、いざ千光寺、文学公園へ。坂を上り、下り、石段を上ると千光寺です。千光寺では献灯をして、来年度の第30回川柳塔まつり・創立100周年記念川柳大会が無事開催出来ますようにとお祈りしました。

千光寺からやっとの思いで文学公園に着くと汗びっしょりでした。東屋で暫く休憩をして、麻生路郎・葎乃ご夫妻の比翼の句碑に、川柳塔7月号とお酒を供えて記念の写真を撮りました。7月6日は路郎忌句会ですとご報告をして句碑にワンカップを注いでいると、どこからか一羽の雀が飛んで来ました。

文学公園から国道へ出ると、海からの風がやさし

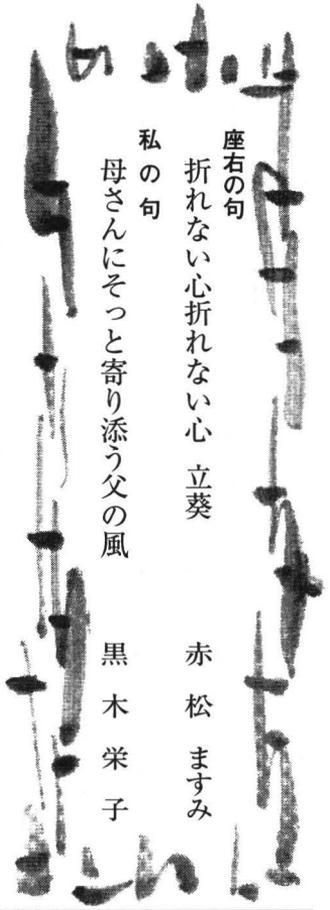
く吹いていました。本通りを駅へ向かって歩いて行くくと、林美美子の銅像と石碑がありました。テレビで林美美子の特集をしていましたので是非行ってみたかったです。

本日の記念に何か思い出の品を買いたいなあと思いつながら商店街をぶらぶらしていると土産物店、洋品店……。それぞれ絵画が飾ってありました。絵のタイトル、作者、値段まで書いてありました。気になる絵がありましたので洋品店の主人に聞くと、本通り商店街が協力して、尾道ゆかりの絵画展を開催しているとのことでした。協会の責任者に電話して下さり、旅の人ならばということ、絵画展終了を待たず、一枚の絵を買うことが出来ました。タイトルは「向島・高見山を見て」、作者は「川辺和洋画伯」です。路郎が幼少時代に過ごした向島、美しい絵は、今までで一番の記念品になりました。

ロープウェイで千光寺山頂へ。土産物店で絵ハガキを買って、休憩所で水を一本飲み干しました。とても楽しく充実した雨の尾道ひとり旅でした。

その日ぐらしも軒に雀がこぼるよ

路郎



座右の句

折れない心折れない心 立葵

赤松 ますみ

私の句

母さんにそつと寄り添う父の風

黒木 栄子

# 川柳塔 九月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「ウミネコ・伊根」

■巻頭言 雨の尾道ひとり旅……………小島 蘭 幸 ……(1)

川柳を作る意味……………藤村 亜成 ……(2)

川柳塔(同人吟)……………小島 蘭 幸 選 ……(4)

蒔草の花⑨……………野 沢 省 悟 ……(36)

英語 de Senryu ⑩……………吉村 侑久代 ……(37)

誹風柳多留一二篇研究 37……………(38)

自選集……………(40)

句集の森……………八木 摩 天 郎 ……(43)

温故知新……………(43)

水煙抄……………川上 大 輪 選 ……(44)

橘高薫風句集『肉眼』……………(59)

愛染帖……………新家 完 司 選 ……(60)

## 川柳を作る意味

藤村 亜成

亡父、亜鈍が川柳教の布教者なら、私は一信者に過ぎない。その信者の立場から亜鈍の伝えようとする川柳を皆様にも伝える。昭和三十六年『詩川柳考』を發刊して以後十五年余その延長としてL章理論を打ち立てた。L章のLとはLOVE(愛) LIFE(生) LIVE(住)を基盤とした現代川柳の3要素としその頭文字をとったものだとする。その3Lの構図や解釈についての詳細はここでは省くが、現代詩の持つ詩的観念と川柳の特性である散文性、川柳的現実とが相俟って現代川柳は成り立つというのである。

### 人生と川柳 高鷲 亜鈍

人生を語ることは川柳を語ることで  
人生を考えることは川柳を考えることで  
人生を記録するために川柳を作りましょう  
今日を大切に昨日を省み明日を希う  
愛ゆえに明るく美しく真実に  
そんな人生でありたい  
そんな川柳でありたい

檸檬抄「記号」……………	鈴木いさお・川本真理子共選……………	(64)
一路集〔合〕……………	寺本 実選……………	(68)
〔含〕……………	加藤江里子選……………	(69)
初歩教室「積む」……………	水野 黒兎……………	(70)
川柳塔鑑賞……………	片山かずお……………	(72)
水煙抄鑑賞……………	大石 洋子……………	(74)
せんりゅう飛行船 <sup>㊤</sup> ……………	新家 完司……………	(75)
インスピレーション・ナビ 印象吟……………	大西 泰世……………	(76)
八月本社句会……………	……………	(78)
各地柳壇（佳句地十選／後藤宏之・黒田茂代）……………	……………	(83)
九月各地句会案内……………	……………	(96)
柳界展望……………	……………	(98)
■編集後記（ひとこと／近兼敦子）……………	道夫・じゅん子・勝弘……………	(100)

座右の句

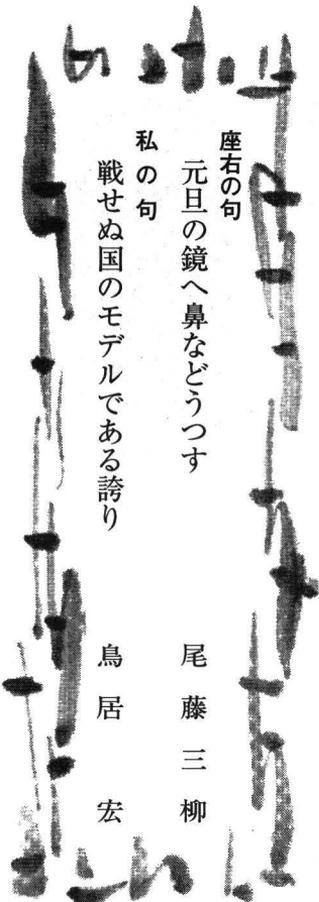
元旦の鏡へ鼻などうつす

尾 藤 三 柳

私の句

戦せぬ国のモデルである誇り

鳥 居 宏



右の詩は垂鈍のし章の概念が如実に顕現したものと言える。まるで川柳教の讚美歌のようだが、川柳することで必然的に豊かな、充実した人生が送れることを強調した川柳賛歌だと言えよう。ここにある「愛ゆえに明るく美しく真実に」の愛は真・善・美を包含する愛であり、西欧精神のもつ基督教的ヒューマニズムであり、ロマンチズムとかりアリズム思想を指している、「詩川柳考」の序文に述べられている。

今日（住・リアル）昨日から明日へと続く（生・人生・ロマン）そして右に述べた愛（カオス・宇宙の意思）とキーワードが全て入っている。詩川柳考を展開する基底となつた路郎師の句「酒とろりとろり大空の心かも」「君見たまへ蒨葎草が伸びてゐる」のように酔うほどに伸び伸びと拡がり澄み渡る解放感、青々と伸びるほうれん草を見た時の感動に、穿ち、ユーモア、軽みの要素はみられない。命ある句とはまさにこのような句ではなからうか。川柳に挫折感を覚え迷い悩んだとき私がそうであつたようにこの詩を思い出すがよい。貴方もきっと川柳をする意味を理解し、そして川柳の呪縛から解放されたれなくなることだらう。

# 川柳塔

小島蘭幸選

堺市 栗原道夫

ぎっくり腰の理由は罪のない話

鉛筆のかつて骨折した記憶

安静のベッドで恋を読み耽る

病院の窓から電線も愛し

自分らしさとは何だっけコルセット

何もかも流せるんです天の川

鳥取県 斉尾くにこ

上品な釘の刺しかたとほけかた

胸中の振り子をゆらすのは瑣末

さりげなくされど本気のありがとう

親友と言った自分に照れながら

涙のむ黙の背中に貰い泣き

次ページへ仲良く生きていきましょ

大阪市 平井美智子

真夜中の月の涙を見ましたか

老人の役をもらって舞台袖

雨の日の金平糖に棘がない

淋しさを薄める水を飲んで

初期化した私に射してくる朝日

朝顔が笑った顔で咲いている

土佐清水市 辻内次根

まだ明日があると思っっている惰眠

少し酔って弟に電話する

曖昧な記憶を思い出している

ほんやるすることが多くなってきた

何所までも追ってくるのは負の部分

贅沢は言わずもりもり食べている

各務原市 喜多村正儀

鍵盤で探るシヨパンの詩の音色

悲しみを埋める大きな砂時計

手を焼いた一語が詫びにくる夜中

引き出しの奥から行ける秘密基地

ギブアップする気などない腹脛

仕上りの遅い余生の深い色

貝塚市 吉道 あかね

貧しさも今健康の麦ごはん  
生かされて診察券が増えてゆく  
長生きに痛い痒いという付録  
惚けぬようびつくり水をかけている  
出掛けるに体力気力いる猛暑  
おしゃべりで半分楽になる涙

堺市 内藤 憲彦

世直しはモツタイナイの気持ちから  
駅出ると赤い提灯揺れていた  
バタンキュー僕はしあわせなんです  
もう一本あと一本で座が和む  
ぶらぶらり楽しみながら老いてゆく  
大人ですがごめんなさいはまだ言えぬ

藤井寺市 鈴木 いさお

不発弾抱いて句会をあとにする  
悩みごと山ほどあってよく眠る  
どこからが晩年だろういま傘寿  
勤勉で真面目でつまらない人だ  
豆ご飯待っているから早よ帰ろ  
中道とはどっちつかずということか

大阪府 谷口 義

コロナなんかなかった頃の話です  
負けたらあかんで怪我したらあかんで  
いにしえのカバンを持ってリハビリへ

とり合えず洗濯物は入れておく  
横綱が休んでぼっと灯が消える  
朝顔を最前列に並び替え

唐津市 坂本 蜂朗

郵便受け亡き父母の名も書いておく  
老い二人また長い袖寒い梅雨  
一族の最長老という痛さ  
妻の指示に従い今日も生きています

妻の顔八十越えて父親似

大病院すぐ傍にある有利不利

刺身のつまなれど大根のプライド

河内長野市 坂野 澄子

定位置は空気を交えるピエロ役  
あつぱれと褒めてもらった事もなし

ずれ具合ほどよくなった夫婦独楽

未知数の命を抱いた生卵

支え合う手の優しさが老いの杖

笠岡市 藤井 智史

好きという無限ループに侵される  
おきあがりこぼしの介護現場から

怒らない4LDKの心

一日を覚醒させるシャワー浴び

ストレスの開放旨い酒を呑む

「薬」の編集作業終えて酒

三原市 笹重耕三

海の見える家で足腰が不安

貧乏にすっかり慣らされた靴

後期高齢涼しい夏を望みます

ピアガーデン夏をうっちゃる一気飲み

マスク外すと法令線が気にかかる

歳ひとつ足してかわらぬボクの影

奈良市 大久保眞澄

若い漫才笑いどころがわからない

マイナカード誰かが得をするしくみ

5類移行諸手を挙げる気になれず

害獣も神の使いも同じ鹿

おべっかを覚えた鹿がお辞儀する

早く来た人は後ろに座れます

香芝市 山下 じゅん子

夏の思い出口ずさみつつ尾瀬歩く(尾瀬湿原)

シーズンを外れ湿原独り占め

水芭蕉残る一輪みいつけた

カッコウの輪唱響く尾瀬が原

木道の朽ちたすき間にあらアヤメ

金婚夫婦リュック背負って3万歩

桜井市 安土理恵

したい放題生きた証の傷のあと

良くも悪くも黙ってついて来た愚か

惚れた弱味と思うこの身がなさけない

自分変えるかこのまま我慢つづけるか

文句いっぱいあるけどトマト真っ赤だよ

今日はリハビリ悩んでいても仕方ない

鳥取県 細田裕花

青春は回収出来ぬシャボン玉

雑草の花も幸せそうに咲く

気が付けば老人会も高齢化

忘れ物動線の中ちやんとある

百年を生き抜くための医者通い

ひまわりは咲いていますかウクライナ

横浜市 川島良子

ボケたねと笑い合ってたのは昔

優秀な兄には酷な認知症

常識をあつけらかんと越す世代

AIの進歩と人間の頭脳

思考回路ゼロの日だってある後期

ふと思うできたらいいな尊厳死

神戸市 富永恭子

出過ぎてもアカンし放つてもおれず

暑くても庭のミントは負けてない

焼酎に浸った梅の満足気

聞かぬふり気付かないふりして胃痛

花も木も虫もわたしも生きている

九十のステキな美女と逢う句会

塩竈市 木田 比呂朗

値上がりもコロナも続く秋の陣  
口実にした月見酒どしゃ降りに  
ぶつぶつとヘルスメーター見て吐息  
年金のアイドリングへ波高し  
ナンバーカードへアナログの抵抗  
進むデジタル化に戸惑う日常

岡山市 工藤 千代子

好物を詰めただけですお弁当  
二膳から二膳に戻り静かです  
夫婦だとも思う他人だとも思う  
そして夏今も私を縛る嘘  
思い出が何故か夫と揃わない

元カレにバツタリ会いたくないあの世

松山市 柳田 かおる

居直ってフリーサイズがおもしろい  
青空だったな無印だったころ  
切り捨てたはずの尻尾がついてくる  
梅雨だっていうのに乾いてるわたし  
何とはなく「老い力」を読んでいる  
現実に戻る明日は締め切り日

大阪市 田中 ゆみ子

トイブードル君も白髪が増えたなあ  
絆だと思ふ蟬が鳴くカラス鳴く  
恥ずかしい情けないことこれからも

ついたちはケーキ食べる日二割引  
すれ違う同じ制汗剤の香と  
墓参り小さな幸を持ち帰る

大阪市 高杉 力

表裏晒す失うものはない  
荷作りの上手い女がいてくれる  
訳ありの訳は問わないことにする  
紙風船の中に閉じ込められた嘘  
眠らない街の空にも星はある  
名画座の切符売り場はこのあたり

米子市 後藤 美恵子

マスク取り話に花が返り咲く  
紆余曲折歩いて足がすり減った  
続かない無理な背伸びは止めにする  
親の傘畳む踏ん切りつかぬまま  
高僧の説論にこころの灰汁を抜く  
目隠しで匂いの分かる人がいる

三田市 稲角 優子

ヒロインでいさせて欲しい君の胸  
新しい命軽くて重く抱く  
変らない山河と友の待つ故郷  
水鏡父によく似た雲すくう  
愛しさよ夫婦小さなケーキ切る  
戦場で夕日を拝む兵士あり

大阪市 東 敏郎

毒舌の裏に隠れる孤独感

マイナスをプラスに変える家族愛

ゼロ金利タンスの奥で眠る札

電池切れ知らず目覚しセツトする

句会後は没句を出しに酒を酌む

大阪市 石田 孝純

街も山も眠れと夜の落し蓋

夕焼けの残骸らしい熱帯夜

非武装で放り出される熱帯夜

熱帯夜我慢比べを秒針と

満月の寝苦しい夜の非常口

大阪市 磯 島 福貴子

世知辛い世取柄の笑顔くもりがち

歩くのに支障出だした外反拇趾

いっどこでコロナに罹患悔やまれる

自宅待機身の置き所なき二人

阪神の躍進唯一なぐさみに

大阪市 岩 崎 公 誠

ケアマネのひとつと言にある大ヒント

句読点ない語り聞くデイの午後

青空へ背筋を伸ばすストレッチ

無駄にした時間を惜しむこと多い

場が和むことば出す人大好きだ

大阪市 岩 崎 玲 子

次次と値上げ値上げで偏頭痛

生きる理由ふと考える時がある

何となくマイナンバーに支配され

老いの足家の中でも転けてます

片付けもだんだん下手になってゆく

大阪市 内 田 志津子

ふる里に君がいるから頑張れる

ごめんねの言葉を添えてお仏飯

十年のブランクあつて天をとる

キラキラと語る貴方がとても好き

姉見舞う足がだんだん重くなる

大阪市 宇 都 満知子

寂しさも淋しさも人を育てる

しわしわとごわごわの手を繋ぎます

生ビール垣根外してくれました

錆びた自転車蔓の支柱になっていた

チョコアイス切れたらすぐに買いに行く

大阪市 江島谷 勝 弘

ああでもないこうでもない飲み仲間

だからマイナカードは作ってない

ヤキモキヤキモキ阪神タイガース

なんとなく肩身が狭い現金派

ストレスを溜めないようにマイペース

大阪市 大川 桃花

美容院の予約が一番カレンダー

助っ人の息子のおかげ家事も無事

包丁嫌いの息子鉢で微塵切り

難聴になり父の無口がわかる今

デイサービス元気の婆ちゃん目指してる

大阪市 大沢 のり子

スクワットしました今日も始まった

早朝の丸いポストにポチと行く

交番におまわりさんがいる平和

ソフトクリームぐにやりわたしの夏の恋

肉だんごまんまるじゃないほうがいい

大阪市 奥村 五月

好き好きと言うが手伝いせぬ夫

遺産なし運と知恵だけいただいた

進歩する化学地球を痛めてる

手をつなぐ嬉しいけれどケアの女

ケア終り帰れば義父が待つ介護

大阪市 小野 雅美

頑張った日もそうでない日もケーキ二個

前進をせよと一本道が言う

偏差値に決められました進む道

境遇が似ても友にはなれぬ人

やっと素に戻れましたと六畳間

大阪市 川端 一步

外出禁止ひたすら棋譜と川柳で

八十も研げば棋力まだ伸びる

豆秋史好抱いて鬨志とユーモア

病む時は柳誌句報が友となる

疲れたら銭形平次捕物帳

大阪市 古今堂 蕉子

大阪は下品な笑いだけじゃない

多重衝突小さな油断から炎

軍事費増みのむしの脱皮にも似て

老々介護歩幅も息も合ってくる

猛暑の日大仏微動だにしない

大阪市 近藤 正

マスコミは政府お抱え有識者

ひたひたと戦支度にすすむ道

島民を生贄にして基地強化

カジノ誘致大阪中をワヤにする

マイナカード閣議決定とは無茶な

大阪市 坂 裕之

考える事で老化を遅らせる

懐かしい歌を聞いたらあの頃に

雨降られまたコンビニで傘を買う

勝ち負けが入れば気合入るんだ

どうなるか恐がってたら動けない

大阪市 高杉千歩

大阪市 中井 萌

駄句ならば自己満足もよしとする

天気予報気になりません歩けません

元気で食べてばかりのホームです

独り言になれて相槌打っている

あの世行き土産探しに虹の街

大阪市 田中 廣子

庭の中水琴窟の良い音色

あいたいな千の風にのり亡妹に

病院は元気でないと行けません

大雨で明暗わかる事故多発

土石流目をおおいたい大惨事

大阪市 寺井 弘子

過ぎし日の固い友情大切に

実ることない求愛に蝉しぐれ

おぼろ月遠のいてゆく過去二つ

子の育ち親の期待のうすらいで

どこまでも愚直に進む吾子の道

大阪市 寺本 実

カボチャ切る時だけ妻はボクを呼ぶ

老犬がベース揃えてついでくる

ペテン師はいつも笑顔でやってくる

厚化粧落しざみしい顔になる

さぼってもいいよ台風活断層

独裁者核と添い寝で見る夢は

角ひとつ残して団子虫になる

生きているこの世の修業まだ足りぬ

日めくりも半分痩せたつむり

高軒星の王子に見えた日も

大阪市 原田 すみ子

暮らしに心に風を吹き抜かせる

梅雨空に家で妄想膨らみます

会話を楽しむ食事はしていい

母のよに話しかけてる仏壇へ

Tシャツの大統領に見る覚悟

大阪市 平賀 国和

友達の話を聞いて気をもらおう

子供らの声老いた団地が若返る

後期だがまだ若いと役が来る

新刊書見るため本屋までぶらり

武器援助より停戦助言して欲しい

大阪市 降幡 弘美

名刺より強い見た目のインパクト

顔バック中にピンポン鳴る不運

荒れるほどよく働いたオカンの手

自販機も倒産をする物価高

似すぎて二人で知恵が浮かばない

大阪市 宮崎 シマ子

今亡母が起しに来たよ声を聞く

友の便り久しぶり胸に抱く

部屋の戸全開私のずばら丸見えた

だんだんと電話もないし文も来ぬ

外はとても暑い植木も草もみな元気

大阪市 山本 加お里

私には看護するため生まれきた

かかりつけ医会えば途端に元気です

本家の嫁先祖の荷が重すぎる

金貸して我が家はローン払い中

我慢せず一人泣きたい時もある

大阪市 横山 里子

よそ見するメダカにもある懐き方

よく笑う姪の子連れて夏祭り

三婆のよもやま話蝉しぐれ

早い方が席取って待つあの世

蹴散らしてキックボードが歩道行く

堺市 今井 万紗子

天寿全う出逢えただろか父と母

まだ逝けぬ今の私を見てほしい

空元気でも好きに生きたらいいんだよ

ばあちゃんは若いママチャリヘルメット

がんばろうと言った友から訃報くる

堺市 柿花 和夫

オータニさんの汗を知らないテレビ席

ためらわず孫に任せるセルフレジ

逆風に目覚めスイッチオンにする

雑談が湿布がわりの趣味の会

古傷に遠慮会釈も無い夕陽

堺市 源田 八千代

戦争止めて！人類地球滅びるよ

カサブランカ カンナ賑わう夏の庭

待合室Gパンのシニアが増える

リハビリに励む週一のデイケア

袋栽培次次熟れるミニトマト

堺市 齋藤 さくら

カルチャーへわいわい元気貰ってる

百歳を越えて元気なお婆ちゃん

いい笑顔きつとしあわせなんだろう

ゆっくりと会う約束が果たせそう

大谷のホームランには疲れとぶ

堺市 坂上 淳司

「行って来ます」に亡母玄関で火打ち石

玄関に旅館の女将塩を盛る

裏道の壁に「芥」マーク見なくなり

天秤棒で街流してた金魚売り

托鉢の虚無僧達は今何処

堺市 澤井敏治

雑草がゴメンナサイと背を伸ばす  
休肝日守り元気になる米寿  
たまゆらの命に感謝する目覚め  
蜘蛛の巣をアートの見える今朝の幸  
蒼氓の声の届かぬまつりごと

池田市 太田省三

コンビニへ行くためだけのサングラス  
奥様と呼ばれるための日傘買う  
十六ポンド軽々投げる喜寿の腕  
重そうなかばんを持つと怪しまれ  
公園で拾った犬と十五年

貝塚市 石田ひろ子

しっかりと助走最後を飾るため  
ストレスをあつさり消す時代劇  
初鳴きの蟬外出の吉にする  
母の歳越えても亡母に叱られる  
嫁さんのおだてに乗って続く趣味

柏原市 津村志華子

キャベツ百態嫁のレシピで華になる  
曲つて胡瓜苦勞をしたんだね  
青田すくすく米の銘柄模索中  
翔平の案山子にびびる群雀  
難聴のデンワは的を逸れている

河内長野市 大島ともこ

混乱を招く小石を一つ投げ  
明るい未来描ききれないもどかしさ  
胸の内語り出したら発火する  
飛び立つには知恵と体重増え過ぎた  
チャンスを生かせ友のひと言背中押す

河内長野市 木見谷孝代

DNA海の匂いが好きな孫  
故郷に山ユリが咲き母想う  
6Bと絵筆をそばに置く机  
畑仕事ガンバッタナと亡夫の声  
六回目打って旅行を予約する

河内長野市 中島一彌

久々の汗は空き家の草むしり  
浪費家と縮まり屋が住む一つ屋根  
風水に拘る家は住みにくい  
映えよりも味にこだわる頑固シェフ  
手間暇をかけて自家製母の味噌

河内長野市 藤塚克三

お手をして妻にいたたく交際費  
出費リスト医療費だけが増えてゆく  
お互いへまに腹を抱えて笑い合い  
こだわるとアイデアなんて浮かばない  
ポチだけが私の散歩気を遣い

河内長野市 村上直樹

冷や汗を拭うまもなくまた値上げ  
情け容赦ない自然には勝てぬまま  
深情け老いて寄り添うタマとボク  
報連相過疎の街にも希望の灯  
警策びしりハッと心の目が覚める

河内長野市 森田旅人

大向うあつて仕上がる大舞台  
着物着てうれし綺麗と酔う女  
南座は亡母の和服とともに観る  
しかしまあその声しぐさ酔いまする  
満ち足りた顔で行列のトイレ

岸和田市 岩佐ダン吉

気の向かぬ電話に軽い咳三度  
ただ今は尺取虫も背伸び中  
反論の道次次と塞がれる  
また会おうだけ留守電が言うてくれ  
的わざと外したのだと思いたい

岸和田市 雪本珠子

出合いより別れが多くなる八十路  
ときめきを忘れず老いと向かい合う  
ドクターも頑張らなくて良いと言う  
川柳が生きる支えになっている  
ささやかな幸せ猫と日向ぼこ

吹田市 太田昭

どん底で笑い袋を空にする  
俺の人生にもうアクセルは無い  
おひねりについ手を出した馬の脚  
解凍をした正論が背き出す  
先細るわが人生のネジを巻く

高槻市 片山かずお

要らぬお世話と無視されましたアドバイス  
理想論が掻き回しての会議室  
耳に口こそばい幼子のナイシヨ  
手書き文金釘流に味がある  
昨日と同じリズムで今日も無事終わる

高槻市 島田千鶴子

心ない苦情で蛙歌えない  
ひと言で伝える言葉出てこない  
夏椿落花のあとも美しく  
ナーズの眼に光もの見た退院日  
デジタル化私の脳が拒否と言う

高槻市 初代正彦

息抜きにふつと鏡とにらめっこ  
野暮用に汗掻けるならありがたい  
九波とか言うても響かない世間  
また今朝もお世話になつているスマホ  
ひと呼吸いれたら和むから不思議

高槻市 富田保子

日本人悲しい話へ耳が向く  
朝顔に輝きながら鬼の笑顔  
大事にと軽い調子で丸められ  
歯を削る音が苦手で痛いまま  
凝りもせずバズルを埋める老いの指

高槻市 鳥居宏

子供等に母の梅ジャム配りやる  
冷房を我慢したのがばかだった  
のど自慢素人だから面白い  
政権の叫ぶ軍備を止められず  
今の世を彬は何と言うだろう

高槻市 松岡篤

折り返し今年前半まあ良しと  
退院でまた僕らしいヤンチャ顔  
服により母らしさとかプロらしさ  
もしや詐欺疑う癖がついている  
お爺ちゃん酒を飲もうと孫二十歳

豊中市 池田純子

文明開化我が家に横型洗濯機  
婆だつてズッキーニでラタトゥイユ  
クール便で届く野菜のあたたかさ  
温暖化小学生も日傘さす  
大雨に無事かと友の声を聞く

豊中市 上出修

新鮮な空気入荷と道の駅  
ぶらり旅オレの気分は寅次郎  
僕の影壁の向こうで暮らしてる  
いい夫婦妻のタクトで踊る僕  
目移りしケーキ売り場を三周目

豊中市 藤井則彦

自分へのご褒美にするお中元  
あるがままに受け入れるのも生きる術  
悦びを一つ捧げるいい日和  
孫曾孫と暫し味わうチョコレート  
横丁をまた曲がるのも老いの旅

豊中市 松尾美智代

やわらかい風ありがとう生き返る  
片足立ちまだ頑張っている八十路  
野の花の謙虚脱帽してしまふ  
言霊の中で迷子になっている  
昭和の写真時がたつのを忘れさせ

豊中市 松田蟻日路

気を失ったように言葉は消えた  
五月晴の深い日陰のひとりごと  
ポケットにマスクとにかく保管中  
午前二時いったい何をしてんだろ  
サイレンが近づく誰か悩んでる

豊中市 水野 黒 兔

二ヶ月の夢に浮かれたタイガース  
ドレミファソ坂の神戸にあるリズム  
川の水が澄んでるだけで癒やされる  
バラの門くぐれば風に色がある  
肥後の守昭和の匂い削りだす

富田林市 中村 恵

家族だと言えば絆は強くなる  
神様の死角でちよつとずる休み  
壊したい衝動が湧くシャボン玉  
少年の夏が素足で駆け抜ける  
まん丸な今日の宴が閉じられぬ

富田林市 山野 寿之

人間が元に戻った脱マスク  
仏壇の奥がへそくり秘密基地  
超人が努力努力の二刀流  
過去は過去ふわりふわりとシャボン玉  
スカート女性の女性が増えた春の風

寝屋川市 川本 信子

通る人褒めるアサガオ咲きました  
いつからか宇宙に嵌まる好奇心  
「宇宙少年」全巻読んで月を知る  
商売で構ってやれぬ子に詫げる  
父似だろとつても優しい子に育つ

寝屋川市 伊達 郁夫

迷う指先にトンボが止まらない  
雑草の名前覚えて好きになる  
幸掴む指を一本ずつ洗う  
きらめいた頃の兜を乾してます  
記憶力ポロポロ水が漏れていく

寝屋川市 富山 ルイ子

おくれおくれ住所録やつと着く  
熱中症コロナも増えて知人なる  
義弟逝く一歳違いだけシヨック  
目も耳も悪く生きてても役立たぬ  
ありがとう何もせぬ今いいのかな

寝屋川市 平松 かすみ

何もかも斜めに読んで日が暮れる  
愛生住恩師の教え三要素  
柳友も足腰庇う年になり  
連れ立って本社句会に行つてたに  
昭和から歩いた道を振り返り

寝屋川市 廣田 和織

蛇の子よ安らぐ時はありますか  
老い二人元気な方が飯仕度  
妥協することも覚えて見えた道  
一日ずつ滞りなく老いている  
僕の絵に不足していた赤い色

羽曳野市 磯 本 洋 一

羽曳野市 三 好 專 平

接待も受けて安心我が家では

四季あつて整理箆笥のありがたさ

孫婦省涙ごまかし入浴す

普通だがこれが幸せ日々感謝

帰省して祖母のレシビは里の秋

羽曳野市 宇都宮 ちづる

三十五度越えたら何も致しません

降るならば歌に出てくる雨がいい

ぶらりブランコ公園に子がいない

部屋稽古見てから轟頂力士でき

丸くなつたか道を聞かれることが増え

羽曳野市 徳 山 みつこ

この暑さ冷しそうめん茗荷添え

幻のごとこの世を押し流す雷雨

カレンダーにシール家族の誕生日

寄席出たら嫌なこと皆流れてた

一面のひまわり何度夢みたことか

羽曳野市 藤 原 大 子

アドレナリン阪神勝てば私にも

炎天下氷の旗に生き返る

諦めか呆れか何も言わぬ妻

ぶらり散歩心もぶらり遊ばせる

ぶら下がりぶら下がられて老い二人

お医者さんに肩たたかれてほっとする  
免許証捨てて気分が楽になり  
枯野とも見えてやさしい人の群れ  
集まるとトカゲや蛇を食う話  
待ったする人でホンマはいいんです

東大阪市 佐々木 満 作

アメリカの傘から抜け出せぬ日本

手不足でロボット作業増えてくる

味はまだ新鮮訳ありの半値

五十年妻の笑顔で恙なし

気取らずに軽いテンポで行く集い

東大阪市 西 村 哲 夫

川柳の奥義に潜む深い語義

家庭内孤独に負けず句と遊ぶ

蒼惶として仕事に逃げたおやじ

そのソフアー人生語る粗大ゴミ

最初はグー約束守る人ばかり

枚方市 谷 英 也

暑すぎる猫の目じりも下がってる

バタバタ人生後期高齢仲間入り

寿命延び後期高齢欲が出た

風情ありそぞろ蛇の目の梅雨の京

わが人生固いばかりで損ばかり

枚方市 丹後屋 肇

大阪で一番暑いひらかた市  
枚方の土堤から仰ぐ比叡山  
年経って度数を合わす修繕費  
大河へ稽古の声を沈ませる  
旧街道行列で待つかき水

枚方市 栃尾 奏子

井戸端で事情聴取一時間  
合いの手に人間性がにじみ出る  
信じるか信じないかは自由です  
少しだけピントずらせばつづがない  
美しくおひとりさまを生き抜こう

枚方市 藤田 武人

夏越した糠床母はもういない  
夏山を見上げ北斗の酌で飲む  
ビギナーの竿ばかり揺れ項垂れる  
サングラス外して万華鏡覗く  
行き先はあなた次第とリサイクル

藤井寺市 太田 扶美代

つらい事忘れる花の名が素敵  
晩成の祈りを込めた熨斗袋  
頑固さが良かったか今のしあわせ  
忙しさと退屈ペアでやって来る  
リハビリと言う名で少し増えた家事

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

私の一つ覚えの茶摘み歌  
父母と姉と弟 雲四つ  
いつだって何か忘れているような  
目力が弱いし眼鏡替えようか  
戦争を知らない人がモンペ履く

藤井寺市 吉田 喜代子

胡瓜ブラブラ一人暮らしに多すぎる  
虫を取る雨蛙の顔も可愛くて  
新クーラー取扱書と格闘す  
タイマーも上手に出来てあしんど  
熱いお茶ゆっくり飲んで夢を見る

松原市 森松 まつお

猛暑日は続く梅雨はまだあけず  
記録的暑さ更新などいらん  
体温をこえる暑さは違反です  
暑さしのぎのパチンコで熱くなる  
今日もまた運動不足胃が重い

箕面市 大浦 初音

身の丈に合った暮しの心地よさ  
夫婦仲そこそこのいいと言っておく  
弱点を知って人間強くなる  
マスク下かくれた皺が顔を出す  
一人では泣ける一人で笑えない

箕面市 酒井紀華

若かった頃を忘れてる鏡  
くもの巢に一番星がおちてくる  
電飾が街をシャングリラに変える  
イントロでわかる日本の四季の歌  
アルバムをはがして恋を焼き払う

箕面市 出口セツ子

温泉へ主人と二人だけの旅  
罪の無い話しかせぬ二人旅  
同じところへ飽きずに行くところがあきれ  
短時間で行ける海外だけお供  
動けるうち日々を楽しむ工夫する

箕面市 中山春代

お隣へ回覧持つて行く日傘  
剪定を悩む鋏の止めどころ  
積ん読の葉になつていたテレカ  
ビー玉が転がつてゆく里の家  
私を的に線状降水帯

箕面市 広島巴子

おはようの第一声は朝顔に  
ボンと寄付億の金塊拝みたい  
採血で蚊の一撃を思い出す  
リハビリの友朗らかでほっとする  
梅雨空にふと口ずさむ智恵子抄

八尾市 寺川はじむ

キャンセルの効かぬ人生ケセラセラ  
久し友握手しながら名が出ない  
思い出をぼつりポツリと通夜の酒  
石橋を叩き続けた末の悔い  
南海トラフ目覚めぬようにただ祈る

八尾市 村上ミツ子

休刊承知で新聞受け覗く  
となりの囲いに空半分うばわれる  
今まで見えていたひこうきが見えぬ  
昨日きょうお金に羽が生えている  
ふと考える梅雨明けはいつだろう

大阪府 米澤倭子

一足飛びの真夏になってかき氷  
ひとりではかつがれぬ御輿の教え  
お徳用の野菜最後は捨てる羽目  
ススキカラマツ遠い日の手火花よ  
風物詩のへちまの棚も語り種

神戸市 上田和宏

我輩は無銭飲食居候  
寅さんの生き様なんぞ肴にし  
ハイハイと妻の小言は聞いている  
なるほどと言つて話をひと区切り  
一步出るこの簡単を試される

神戸市 城戸誓子

施設にて虚ろな母が呼ぶ娘の名

すがり付く母の手強い面会日

七夕は姉の命日見る銀河

手土産の十倍返す子の帰省

はしゃぎ声手垢の付いたページから

神戸市 輿水弘

借金返し腰痛あるの忘れてた

若き日の負い目は閉じてページ替え

おもろい人ね この一言が今日の星

マスク取つたらキレイだなんてホメてない

ヤキモチちよつと家庭平和の差し油

神戸市 近藤勝正

あじさいも嫌う線状降水帯

梅雨明けは良いが気になる電気代

廃屋につばめ来るも寂しげに

古里は心に残す古いまま

お若いね魔法のことは背筋ピン

神戸市 斎藤隆浩

おばちゃんはサイズ見るより先ず値札

警報で子ども休校オレ仕事

訳ありの訳知ったのは買った後

まだ若いつもりがついにシニア割

他人事では済まされぬ特殊詐欺

神戸市 敏森廣光

私の部屋時にルンバが立ち往生

ママチャリが追い抜いてゆく散歩道

物価高年金だけは置き去りに

独裁者どこかに怯え抱えてる

悲しみはそつとポツクに入れたまま

神戸市 能勢利子

キャリーバッグ杖の代りに持つシニア

顔を上げ背筋伸ばして歩きたい

熱中症避け送迎つきのデイケア

ゴミ当番近所の元気チエックする

家が建ち近所どんどん若くなる

神戸市 松倉正美

部屋干しの洗濯物が其所彼所

短冊に特筆で書く不老不死

波際でギャルが弾ける海開き

帰省子を下にも置かぬ妻と嫁

岡田阪神アレを目差して粘りぬく

神戸市 山崎武彦

七月は人で溢れた路郎の忌

古日記生きた証しの袋とじ

芋の蔓食べた昭和も遠くなる

腹ぺこの記憶八月十五日

かちわりが風物詩だった甲子園

明石市 糀谷和郎

子等の声消えたブランコ風にゆれ  
CMになると音声でかくなる  
節電も外灯暗くしないでね  
去った人思い出させる遠花火  
恩恵に浴してみたい七光り

尼崎市 永田紀恵

二日酔いやんわり癒やす粥とろり  
闇夜でも道は明日へと続いている  
気分新たなルーティン少し変えてみる

映画好き濡れ煎餅を持ち歩く  
耳澄ませか細き声を聞き分ける

芦屋市 荒牧孝子

今日もまたつい長電話雨のせい

正義よりやさしさ欲しい老後です

かけ声をかけても前に進めない

一匙の愛を足したらまろやかに

言い訳はやめる謝るだけにする

芦屋市 新阜義明

喉ごくりカラ揚げ耳に大ジョッキ

古希過ぎた舵を切ります楽な方

もうあかんもがき苦しみ出るヒント

週半ばはつばを掛ける激カレー

つつましくイワシとモヤシご馳走だ

尼崎市 宗和夫

良い夢だ愚痴こぼし合う相手は師

目が覚める楽しい夢のいいとこで

良い夢の続きはやはり落ちがある

夢の中ではとてもやさしい母だった

何故かしら夢には妻が出てこない

尼崎市 羽奈和子

金持ちの苦勞いっぺんしてみた

一人行く回転寿司はボケ防止

夫と二人でもトイレには鍵かける

LLを取るのに躊躇しなくなる

戦争はしない誓いが揺れている

尼崎市 藤井宏造

相も変わらず素麵に蟬しぐれ

爺ちゃんは爺ちゃんりの音を出す

酒の量ついライバルと競い合う

情熱家に見せるため両手で握手

愛犬の柩も花で埋めつくす

尼崎市 藤田雪菜

歯をなおし食事の味を噛みしめる

蚊の羽音かすめて花を植えかえる

電線に止まり充電するカラス

広告を派手に着せられ路線バス

朝刊を開いて今日の幸拾う

BSで世界の山を制覇する

尼崎市 森 菊江

宇宙から見ればきれいな星地球

デコボコ道はじめて気付く車椅子

画学生の無念集めて無言館

お向いさんよう知ってはるうちのこと

尼崎市 山田 厚江

孫三人三十九度の熱が出る

古典歌舞伎眠たくてついこっくりと

くちなしの強い匂いが僕を呼ぶ

キャサリン妃赤のドレスでマスコット

広末の恋の炎がまたついた

尼崎市 山田 耕治

つがなし九時に電気が消えました

このセーター捨てられないのお父さん

ケアホーム姉は優等生らしい

セーターの由来僕だけ知っている

新しい診察券を見つけられ

加西市 山端 なつみ

物価高ビールを飲むなどは言えず

食欲はビールが左右夏の夜

吟醸酒夫こっそり先に飲む

大ジョッキで乾杯昭和ビアガーデン

熱中症ビールは水の役出来ず

おとしより和式便所は使えない

川西市 山口 不動

田植後の里映りけり水鏡

辞世の句考えている散歩道

芸者役松坂慶子よみがえる

まだゴルフやっていると聞きうらやまし

三田市 足立 つな子

夏至のころ元気な子等の声はずむ

限定品はやばや届くお中元

見え見えのうまい口実またかない

便利だねネットで調べ行楽地

父看取る緩和ケアの悔いはない

三田市 上田 ひとみ

お知らせは要りませんので悪しからず

計算は苦手なままで老いました

闘争心どこからそんなムクムクと

最後にはやはり知性が物を言う

おだやかに笑っていたいだけのこと

三田市 大西 重男

あなただけ特別ですよと決めセリフ

町中から消えた子供のはしゃぐ声

八十路越え着るも食べるもSサイズ

猛暑日は鉢巻締めて汗凌ぐ

駆け抜けて今年も来たよ誕生日

三田市 九村 義徳

痛い箇所突いてくるのが真の友  
ピンチには守ってくれた父の壁  
前に行く父の背中が道しるべ  
緩やかな流れに乗ってゆく余生  
喜寿の坂越えて傘寿と四股を踏み

三田市 住吉 美和子

愛犬もつらいだろうな息荒く  
室外機遮熱カバーを掛けてやる  
家族旅孫テキパキと頼もしい  
週いちどサロンに参加者です  
ポケットに入れた飴ちゃんやわやわに

三田市 多田 雅尚

賞味期限過ぎて取り出す冷蔵庫  
雨の日も心広げるジャンプ傘  
自粛中弱った足に杖の世話  
病院はマスク着用デイスタンス  
夜行列車消えて寂れる裏日本

三田市 中山 昭美

プライドが次の扉を重くする  
晴れ女たった一つの自慢です  
馴染んでる杖は分身老いを行く  
ドクダミのパワー信じてお茶作り  
好きなふりしたりされたり夫婦仲

三田市 野口 真桜子

AIに横取りされた直木賞  
全力で走るとジャマな曲り角  
流し目がやたら上手なプロマイド  
天国はそっちじゃないと声をかけ  
御返しがいるし止めてよお中元

三田市 堀 正和

朝刊のバイク音聞き一眠り  
新聞を拡大鏡で読み疲れ  
二人居にテレビ三台まだ元気  
薬だと言って寝酒を呑んでいる  
十人十色皆いいとこ持っている

三田市 村田 博

僕の夢宇宙飛行士古日記  
丸よりも歪な楯円の持つ余裕  
QRコードの迷路抜け出せぬ  
ゼレンスキーのリベンジ未だ果たせない  
助っ人にゴルゴ13呼び寄せる

高砂市 松尾 柳右子

おかげさま八十路の暮らし恙無く  
世話焼いてくれる娘にただ感謝  
カラオケのデイサービスは休まない  
スパーで笹売っていた七夕さん  
朝昼晩くすり仕分けるのも仕事

宝塚市 丸山 孔一

代議士にヤコロナ風より解散風  
しあわせってどんな顔して来るのやろ  
散歩道決まった場所で腰下ろし  
誰か来た隣の犬が吠えている  
同窓会「今回最後」のハガキ来る

丹波篠山市 北澤 稠民

祈りある暮しで明日の夢を待つ  
頭には期限切れた知恵がある  
腰かけて人待つ気持わかります  
自己流でいいよ愉快な明日を待つ  
本心を言わず相槌打っておく

丹波篠山市 酒井 健二

逆走と知ってて走る青春期  
花に水託して妻は船の旅  
今までが損したと言う妻の旅  
究極の詐欺が極楽保証する  
ユニセフに寄付をしました閻魔さま

丹波篠山市 藤井 美智子

しまい風呂呂今日をゆっくり癒やされる  
スローでも健康寿命で今日生きる  
思い込み柔軟性に欠けていた  
老い励む脳へ栄養五七五  
誕生日子孫ひ孫の祝い受け

西宮市 緒方 美津子

茶柱にエールもらって朝の靴  
パリジェンヌをあつと言わせた和風だし  
切株に腰を預けて水を飲む  
小声では内緒話の出来ぬ老い  
秘密と出会えた古本屋も消えた

西宮市 亀岡 哲子

七回忌も結婚式も予約済み  
身も心も転ばぬようにぼちぼちと  
ほどほどのほどの辺りの心地良き  
あんたなんかお前なんかと百までも  
助けてと大声出せるあえいおう

西宮市 福島 弘子

ヒヨドリに先を越されたブルーベリー  
花しようぶ矢印に沿う過疎の寺  
迷わない昼はソーメン老母の夏  
友見舞う絵手紙切手選びよる  
着いたら電話と厳しい父だった

西宮市 福田 正彦

この地球罪なき人を救えない  
悲しみに同化出来ての平和論  
修飾語省いて要点伝えたい  
ルール違反した人に自覚ない  
浅い夢現に戻り未練湧く

南あわじ市 萩原 狸月

くらべたらあかんしあわせ較べ悔い

ものさしが違う君との幸福度

母子家庭悲劇を生んだ母の恋

着想のマンネリ嘆く締切日

増強の軍備も石油なき悲劇

奈良市 東 定生

Jアラート目覚ましよりもある効き目

老体の原発に鞭入れる国

希少種に登録されるホタル族

三世も二世もない将棋界

介護ホームの経営もする葬祭社

奈良市 加藤 江里子

夫婦箸揃え向き合う日が戻る

ギブス取れた夫の笑顔進む箸

飲み比べの冷酒が届く父の日よ

新タマネギ レンジで五分甘きこと

ビールで漬ける採れたて胡瓜乙な味

奈良市 高橋 敬子

行き先は階段坂のない名所

予報はずれて両手の自由守られる

見物も当たりはずれの梅雨の空

写真の顔茅の輪くぐった後も同じ

はずしたマスク視線にあわて探して

奈良市 辻 内 げんえい

父の日に朝一番の宅急便

大好物ふたつ届いた父の日に

タクシーの乗り降りもリハビリと日に五回

まだ元氣 白寿一言皆黙る

ムリムリと泣いてた孫に介護され

奈良市 米田 恭昌

「有り難う」「ごめんね」は老母の口癖

失恋の記念となった指定券

引退でなく勇退と言う頑固

サバイバルあつさり抜いた七光り

適当に手抜き覚えて社会人

生駒市 飛 永 ふりこ

ちひろの絵ふわり清涼靡かせる

猛暑です神も仏もかき水

夕暮れどきふる里の海ふと恋し

大文字ふいの別れがまだ疼く

西瓜割り陽を浴び騒ぎ若かった

香芝市 大内 朝子

プライドの欠片に氣力貰いつつ

ライバルの友の居た頃華でした

卓袱台を囲む笑顔に父母が居た

仕舞風呂ふと戦場を思いやる

懐かしいイチゴ雲にある昭和

奈良県 安福和夫

パソコンド任せで諭吉出番なし

現金の重みに未練昭和人

テレワーク人モノカネが触れ合わず

画面見て社命遂行いいのかな

AIに人付き合いの機微は無し

奈良県 谷川 憲

散歩道今日も元気な顔なじみ

年金で残照の夢追っていく

大型犬ペット店でも見かけない

呼ばずとも狸や猪が毎夜来る

芳香が月下美人の咲いた夜

奈良県 中原 比呂志

大の字のごろ寝い草は母の香か

木魚すら暑い暑いを繰り返す

大事件息子も定年腕を組み

雑草に囲まれ住まず売りもせず

本落ちる音でいびきが止んだ椅子

奈良県 中堀 優

まだ若い休むことなく進もうよ

何げない言葉でも傷をつけている

僕と妻笑顔が灯す夢あかり

婆ちゃんに激励されて今日も過ぎ

愛猫が家を出てなぜ戻らない

奈良県 長谷川 崇明

一步前進二歩後退で百遠し

たんぼの絮大谷のホームラン

梅雨の入り慈雨も時には牙を剥く

打ち水で迎えてくれるなら町家

海水浴「氷」の旗も立ち泳ぎ

奈良県 渡辺 富子

せせらぎの音が初恋連れてくる

ほろ酔いへ虹色の恋しやしり出る

ため息を聞くマネキンの目が涼し

ばらまいたうわさ話が発火する

老人の景色なかなか面白い

和歌山市 上田 紀子

煮つまった話あつさり裏返す

新しい風に出会って立ち直る

浮き世の憂さ知らずケロケロ雨蛙

一呼吸おいてやさしい風を待つ

未知数の明日へ備え早寝する

和歌山市 柏原 夕胡

犬好きが猫を拾って猫を飼う

お地藏に花を供えて心風ぐ

あおり運転されて廃車になりました

何やかや言うても美人得をする

ごめんねが言えてエライぞお父さん

和歌山市 松原寿子

強気にはなれず悩んでなお生きる  
風向きへ甘えておこう迷わずに  
うす紫の桔梗がくれた日のパワー  
好奇心日記にたたみ夢を織る  
移り気と言われ紫陽花魅力的

京都市 清水英旺

国民を愛するがため楯になる  
領袖死して派閥の中の茶番劇  
コロナ禍をもう忘れたかノーマスク  
固唾呑んだ大國ロシアの茶番劇  
凜として応援歌うたうアガパンサス

京都市 藤井文代

丸い背中角が取れたと思つとく  
救急車の音であわてて水を飲む  
悔しい思い独り鏡で正当化  
プーチン習の笑顔の奥に不発弾  
梅雨に猛暑納得の上膝痛む

京田辺市 北野クニオ

梅雨明けを地下で待つてる熊蟬が  
トランプが裁判受けて人気落つ  
プリゴジン プーチン政権低下気味  
コロナ株減つたと思えばまた変種  
ゴミ分けも超細分化一苦勞

長岡京市 山田葉子

今の暮らし続くよう七夕に願う  
ヨタ病だからバランス取れている不思議  
鈴虫の今年の唄を聴いている  
水無月を食べたよ夏を越せそうだ  
お金とヒマと二つ揃ったことがない

八幡市 武田悦寛

ころがされころがされ行くへんろ道  
くり返す出会いと別れへんろ宿  
おせつたいのびわが昼食へんろ旅  
歩調あわせいたわるへんろ老夫婦  
煩惱と手つなぎ歩くへんろ旅

鳥取市 池澤大鯨

こつそりと大麻植えてる噂あり  
先入観植えてつけておけやがてきく  
「暇か」嫌な口癖もういいよ  
切りかえがうまくできずに暇に見え  
仕事が早くて暇そうに見える人

鳥取市 岸本宏章

百選の滝が呼んでる夏の山  
和の響き水琴窟の音に酔う  
薯ばかり食べた記憶がふとよぎる  
高額の儲け話があるサイト  
プーチンが改心すれば済む戦

鳥取市 岸 本 孝 子

気のおけぬ生徒と習う演歌塾

下り坂転げるように早米寿

友達が詐欺にあつたと電話くれ

何だかんだあつても漬けた梅らつきよ

阪神が命と思うほど惚れて

鳥取市 田 賀 八千代

隊長は婆ちゃん今日は芋掘りだ

ゴメンネと言つて紫陽花色変える

勝ち目ない戦信じて草を抜く

青春を支えてくれたビートルズ

割引をねらい店内巡回中

鳥取市 谷 口 回春子

できましたチケットをすれば不備の山

復活に己の期待膨らます

潮時が判らぬままに時が経つ

冷蔵庫孫のおやつで満杯だ

美味かつた味も値段もぴつたりだ

鳥取市 永 原 昌 鼓

真つ青な野菜が育つハウス群

伯桜鵬四股名に負けぬ相撲とれ

多くてもゼロでも困る雨の量

やばい世だ元総理でも殺される

天皇が植えた記念樹あちこちに

鳥取市 中 村 金 祥

自己流だが技を磨いた自負はある

廃線へ小さな村が一つ消え

トイレからやばいやばいと声がする

張り詰めた空気一杯お茶いかが

柱時計止まったままの老い二人

鳥取市 福 西 茶 子

カーナビが終つた後で大迷い

海草を踏んで宮島から転ぶ

大丈夫転けても顔は打つてない

脳味噌を搾ると故郷の田や畑

愛不足いびつに曲る茄子キューリ

鳥取市 前 田 楓 花

暇な人私の暇も知っている

物差しの違う夫婦の幸せ度

水面下のザワザワ大谷どうする

冗談の通じない人に叱られた

収穫はまだかカラスが見張り番

鳥取市 山 下 凱 柳

日々川柳作つて脳を活性化

行きはイキイキ帰りシヨンポリ句例会

ベランダで一人静かにホタル族

足腰の痛みに耐えてする作業

ノンアルを飲んで生気を取り戻す

鳥取市 吉田 弘子

過去ばかり渦巻く夜も時にある  
黙しても自然のわたし句が洩らす

老体の進化か足が弱くなる

A I が総てを仕切る世が怖い

Jアラート慌てる国を笑う国

倉吉市 大羽 雄大

老いたたと自覚をさせる万歩計

お互いに分かり合ってる無言劇

酔い醒めの水にこの頃ご無沙汰だ

手伝いのせめて包丁研いでいる

保護色に囲まれ個性出しにくい

倉吉市 牧野 芳光

ムクゲ オダマキ母が逝つても花つける

解禁になれば腰痛ぶり返す

約束をしていないけど待っている

疑った時から深い海になる

本当の私を探す闇の中

境港市 藤原 久直

フレイルに逆らいませんウォーキング

全員がライバル余所見などしない

着るほどに馴染むジージャンお気に入り

物忘れ時々あるが気にしない

寝室にそつとエアコン入れてある

米子市 池田 美穂

コロナまだ消えてないけどみんな無視  
死ぬも生きるも全て子のため親ならば

姉曰く学術的な趣味欲しい

草取り後ご褒美アイス切らさない

最後まで見届けてやるプランター

米子市 伊塚 美枝子

第九波来る予感するマスク無し

夏祭り浴衣出番だコロナ明け

長雨に脳にもカビがはえそうだ

自然の脅威大雨土砂を押し流す

雨上り気温上昇新記録

米子市 後藤 宏之

追いかけて追いかけられて晩御飯

ゴミの日にカラス陽気に歌合戦

居心地が丁度手頃でお気に入り

血統書ないがこの犬芸達者

やつぱりか痛いところを突いて来た

米子市 竹村 紀の治

ポリープ一個入院は七日間

退院の日まできっちり休肝日

冷蔵庫元気の素が冷えている

目立たない役が支える晴れ舞台

撲つてやると張り切る古時計

米子市 中原 章子

水がよくいい人が居て根を下ろす  
増えて来た落とす忘れる蹴躓く  
生きている顔を見せ合う姉妹会  
ひらめきを逃さぬように紙とペン  
他人ごとと思えぬ豪雨温暖化

米子市 成田 雨奇

ほくだけが異端者マスクしていない  
食べ過ぎかでも好きだから林檎食う  
予定にはない弟が不意に来た  
ほくの人形に釘打つ人はない  
ライバルの背中だんだん遠くなる

米子市 野川 宣子

庭つぶし野菜作りで自衛する  
御先祖の遺した庭木手に余る  
疲れても体は向かう台所  
気疲れは一パイ飲むと解れます  
ライバルの元気の素は酒らしい

鳥取県 門村 幸子

日本語の通じる国に住んでいる  
とりどりの花のおしゃべり小さな庭  
粘り腰薄れほいほい一休み  
不器用になつたわたくしもどかしい  
昼寝するリズム転換リフレッシュ

鳥取県 本庄 ひろし

得なのか少し呑んでも赤ら顔  
今朝もまたメガネ捜しに駆り出され  
仲間でも教えられない事もある  
水を得た魚のようだネオン街  
ありがとう一言あれば和むのに

鳥取県 山下 節子

タイムカプセル壁新聞を入れました  
古墳の壁画古代の暮し研究す  
タイミングずらせば少し楽だった  
点滴を見つめ深夜の物思い  
改心はしてる素直にあやまれぬ

松江市 石橋 芳山

発狂か笑い転げる足の裏  
大空の脱臼長雨が続く  
光り方忘れた雨が降っている  
楽しめる気がする絶壁のベンチ  
ヌヌツと顔出してくるトツカータ

松江市 藤井 寿代

お揃いのギンガムチエック若かった  
雨の日は雨のリズムで髪を梳く  
泣いてる方が本当の私です  
どん底で笑顔貰ったやさしキミ  
片方は翼が濡れているんです

松江市 松本 知恵子

雨続き無沙汰の友にハガキ書く  
掃除機に汗落ちる夏の運動

夕方を待ち夕すげに会いに行く

人知れず居ます支えの白い猫

配達のボックス出して小旅行

出雲市 伊藤 玲峰

二代目は妹が継ぎ繁盛し

愛想と腕を鍛えて名を上げる

粽の粉手に入れ笹を欲しくなる

優しい嫁だ老人に合わせてください

嫁さんはすごい笹巻き四十本巻いた

安来市 原 徳利

負け試合元気に跳ねるチアガール

折り鶴の折れない北のおぼっちゃま

雨蛙よろこぶ程の雨でよい

可もなく不可もなく半年が過ぎた

梅雨晴れ間庭の千草の小言聞く

岡山市 大石 洋子

ランニングすててこ白を着てすこす

あてのない日まぶしいほどの白を着る

ほどほどこにしないとかかる熱中症

はやがてん梅雨の晴れ間の蝉の声  
あわてもの年をとつてもあわてもの

岡山市 丹下 凱夫

マイナカードかかりつけ医で初仕事

雨の日は図書館晴れの日も図書館

人妻になつても壇蜜は壇蜜

万緑の中の原爆ドームの黙

向日葵と書いて「ヘイワ」とルビを振る

岡山市 前田 恵美子

心当りあります増えた腹回り

昼食べ昼寝三時はオヤツまた食べる

雨にも負けず太極拳は姦しい

膝に良いと貧乏揺すりやってみる

草丈に野菜かくれる梅雨最中

岡山県 田中 恵

人恋し合歡の欠片を胸に抱く

色あせた心に染みる赤ワイン

かごめかごめいつも後に君がいた

考えを変えれば変えてまた悩む

仏壇に今日の報告して眠る

岡山県 藤澤 照代

逝くことを老母はさらりと口にする

籐椅子のうたた寝の本笑いだす

無気力に過ごした日には色が無い

人生譜にも低気圧高気圧  
八月の雲人間の罪を問う

広島市 岸 本 清

飾らない女だが花はいつもある  
年金の目減りに苦心老夫婦  
トラブルに不安拭えぬマイナンパー  
常識は通用しないテロ国家  
海の上散歩したいな熱帯夜

尾道市 小 川 道 子

いつも同じ顔笑つても怒つても  
生き様を見せつけている冒険家  
自由を満喫とことん裏表紙  
情熱が冷めないうちに取り掛かる  
罪いくつ雷神様のお怒りか

尾道市 小 畑 宣 之

恩人を指折り数え我八十路  
OB会自慢話は聞き飽きた  
他人の目気にせず生きる八十路坂  
一周忌友のメールはまだ残す  
融通も機転も利かぬ野暮が好き

山口市 兼 崎 徳 子

風評も一年経てば消えてゆく  
髪メイク彼の好みにチューニング  
武勇伝何度聞いたかわからない  
口紅を忘れてマスク外せない  
目のシワを飛ばすシヤネルのイヤリング

岩国市 上 村 夢 香

川瀬巴水の錦帯橋に逢いに行く  
雨の大阪青春の味コンサート  
今朝もまた百名山のさだまさし  
直筆のはがきの文字はほっこりと  
朝六時ご法話を聴く京の風

防府市 坂 本 加 代

幸せに見えた隣家に介護バス  
揺さぶりを掛けて歪みを知らしめる  
簡単に生まれないから面白い  
きつかけを掴むアンテナ高くする  
文章も練れば練るほど味が出る

阿南市 小 畑 定 弘

サヨナラも言わないうちに削除キ  
生か死か平均寿命が近くなる  
年金と相談しての寿命です  
電池切れしそうで怖い喜寿の坂  
「しあわせだ」今日も日記に嘘を書く

東かがわ市 川 崎 ひかり

母を恋う声か水子の風車  
中国で育ったウナギで暑気払い  
朝一にゴクゴク生命へ水を飲む  
倅せを入れるポケット深く縫う  
集中豪雨ひと日で生活変えた水

高知市 三谷 松太郎

年取るとこの世あの世とややこしい  
左指ページをめくり元気です

呆けぬよう自作塗り絵で遊ぶ今日

小器用は生来のもの今もなお

インクはねブルーブラック昔から

松山市 大内 せつ子

辛口の褒め言葉だね目が覚める

とほけてもあの傷口は埋まらない

曲がってもいい顔してるヒヤシンス

じゃんけんばんあっさり決まる道標

あきらめ上手きつと生き方上手だね

松山市 栗田 忠士

表には令和裏にはひっそりと昭和

病院で看取ったそれでよかったか

あこがれはあるが移住はできぬ歳

後先を考えるからまた悩む

根回しが利いたか手打ちして終わり

松山市 古手川 光

値上げ値上げ便乗値上げお断り

淋しいな後期じゃないの終期なの

肖りたいピンシヤンコロリ逝く蟬に

体調が悪化地球も大暴れ

ウクライナ戦中戦後思い出す

松山市 宮尾 みのり

童謡を弾く人居ない街ピアノ

ベッドテレビスマホ柳誌もみな仲間

バナナひと房下げて寂しい人が来る

人の手を借りて下りを受け入れる

粗衣粗食わたくし流であと少し

今治市 永井 松柏

柳友に祝福されて句碑除幕

ひた走る夜汽車昭和が遠くなる

どん底を見てきた独楽はよく回る

苦勞した汗の先から出る新芽

ONとOFFの狭間で揺れている振り子

今治市 安野 かか志

説教は後日に今は剣ヶ峯

スキヤンする昔かたぎの土性骨

領域をパワハラされている日本

子と挑むパズル迷路に時忘れ

ミス続くマイナカードの難破船

西予市 黒田 茂代

朝起きて空腹今日も調子いい

淡泊な豆腐料理が増えてくる

心していただくひとり摂る食事

作っても食べても片付けても一人

独り居の寂寥ひとり居の気象

西予市 西田 美恵子

一人居に雨はドラマを連れて来る  
やっぱり貴方に決めたあの日を忘れない

こんな時側に居る事しか出来ぬ

余命宣告どうにもならぬのか風よ

コンビニで揃う我が家のフルコース

熊本市 杉野 羅天

マスクしてまだコロナから身を守り

温泉の全てが老いに良いと知り

手笛へと郭公寄ってくる快拳

御神楽の夜通し続く世のありし

大木の連理の足を愛す歳

熊本市 岩切 康子

友達に感化をされて作句する

ストレッチ徐徐に体力取りもどす

ドアノブに袋掛けある弟か

少しだけ手抜きしている夕の膳

長芋は忘れさられて芽を伸ばす

宮崎県 黒木 栄子

ほっこのりの便りに見えるお人柄

母さんの遺影に祈る今日の無事

プレゼントよりも嬉しい子の帰省

坂道で待っていきそうな温い人

思いつ切り叫んで消えるモヤモヤ

北九州市 小松 紀子

元気です老いと格闘しています

身の丈で生きてきました悔いがない

ポジティブな言葉は私のおまじない

あの時の亡母の言葉が生きている

頑張った自分が好きでほめてやる

福岡県 本田 さくら

高校の友と天神至福時

病院で声かけられて誰だっけ

わたくしの頭近頃迷い道

お向かいは今頃猫とはしゃぐ頃

同窓生前と変わらぬ顔と声

札幌市 小澤 淳

年寄りに席を譲って少女羽化

地球熱帯びて嗚咽が聞こえぬか

予断許さぬ降水帯をもて余す

トゲあるが群生のバラ赤く炎ゆ

北の海サンマに代わりブリが増え

黒石市 石澤 はる子

片付けをストップさせる古日記

お茶だけはゆっくりいれる至福の刻

聞き上手心掛けてる話し下手

頼りにする自転車ちかごろ弱音吐く

一日をプラス思考で遣り過ごす

黒石市 北山 まみどり

穏やかな一日にする雨の音  
水たまり飛んでいたのはいつのこと  
雨雲を追いかけていた記憶など  
どしゃ降りの中で憂さを晴らしてた  
戻れない日々を見つめて窓ガラス

弘前市 稲見 則彦

国光とかすかに読めるりんご箱  
ローソクを灯すマッチをお隣に  
父の日に反省ばかり海は風

お爺ちゃんわたしあなたのママじゃない  
五右衛門の気持ちがかかる夏津軽

東京都 川本 真理子

台詞のない役でレギュラー夢の亡父  
ステップを踏んで小さな子の自慢  
見ているだけだったお祭りのお面  
カレンダーにベートーヴェンと書いておく  
終末時計もつと厳しくなる予感

八王子市 川名 洋子

コトコトと煮込んだ母の筑前煮  
歳と共に母に似て来た歩き方  
冗談で終わるつもり嘘なのに  
飽きもせず小さき火傷を繰り返し返す  
独りには独りの良さが深夜バス

横浜市 菊地 政勝

取得したマイナンバーを信じたい  
税金に自分の軽さ良くわかり  
帰省して大谷の家探しあて  
年下の仲間が転び論される  
散らかった部屋はかえって使い良い

上尾市 中村 伸子

九十年後高速無料と言われても  
アラームを二つ無視して朝寝坊  
投手大谷打者大谷に救われる  
面会もウエブ予約という時代  
七夕の日に決めました面会日

朝霞市 前田 洋子

檻を出たチンパンジーに初の空  
動物は怨む事なく澄んだ瞳で  
元気の種風太くんからもう朝  
追憶の点滅飽きぬ蛍かご  
店頭の特売品がまた値上げ

越谷市 久保田 千代

延命の器具につながれ長寿とは  
愛着の背広に滲む夢の跡  
楯いくつ輝いた日の夢語る  
寝たきりの主人に狭い空でしょう  
脇役も主役もあつて一人住む

石川県 堀本 のりひろ

スマートホン連れ回されて此処は何処  
スマートホンじゃ馬過ぎて鞭折れる  
スマートホン手綱こなせず放り投げ

紛れこんだスマホの世界霧の中  
スマートホン頭ぐちゃぐちゃヘルプミー

可児市 板山 まみ子

食べられて寝られるうちは楽しめる

去年より数を減らして菊の鉢

夫には内緒一人の快適さ

懐に涼しい風が吹きだした

梅雨空にあきた待っている青空

名古屋山本 三樹夫

目論んだ個人カードにボロが出る

山寺に芭蕉足跡碑に残る

酔客は帰りの電車決めている

そそる欲グラム表示で引き寄せる

弓張りの影絵であるう碑は残る

犬山市 金子 美千代

虫に生まれたのを嘆いていない虫

自然治療力まだ信じたいマッサージ

私の辞書からテキパキが消えた

お嫁さんが遊べ遊べと背中押す

命日が巡る鮮明な記憶と

犬山市 関本 かつ子

体形が母そっくりの風呂上がり  
トラックのタイヤ真横に来る怖さ

五時過ぎの割引を待つ物価高

出来過ぎの野菜に主婦の腕捲り

水不足だけはなさそう日本中

豊橋市 西郷 紀美代

廃屋に見事に咲いた鳳仙花

収穫をさせ好きになるトマト茄子

確認をしたはずなのに忘れ物

辛いのに楽しかったと回顧談

価値観のちがい夫婦を遠くする

「川雑」語録 ②③

明暗帖

井 うえ 刀 三

或人は、人に解らぬ川柳を作るの愚を嗤ふ。ひとりよがりの句を作る作者の大胆さに憎しみを覚える。しかし作者には作者の人生観があり、思想があり、哲学がある。それ等が川柳てふ濾過器によつて滲出された時、果して皆の皆までが首肯出来得る句が生れるだろうか。

〔「川柳雑誌」大正14年6月〕

# 菠薐草の花

⑨

野 沢 省 悟

「川柳触光舎」主宰

雨続く何も無い日のハーブティー

工 藤 千代子

最近の雨は、降りはじめるとアツという間に豪雨となり、各地で被害を出してしまふ。しかしひと昔前の雨は、どこか風情があり、降り方によっては楽しむことができ。作者にとつて、何も無い日がようやくやってきてくれた。辛く慌しい日が去ってほっとひと息つけた日。うつつうしいはずの雨が、やさしく心を洗い流してくれた。ハーブティーの香りが甘い。

澄みきつた空が黄砂のプレゼント

安 野 かか志

今春、青森では丁度桜が満開のとき、ひどい黄砂が来た。僕にとつては生まれてはじめての光景、輝くばかりの桜がほんやりと白く漂うだけだった。今年は梅雨に入ってから来た黄砂。わずらわしいばかりの

黄砂であるが、作者は晴れた青空を黄砂のプレゼントだと言う。まことにあつぱれな心意気。川柳人の鑑である。

大根が行つてブリ大根が来た

中山 春代

省略の効いたすつきりした句。友人に今はじめて穫れた大根を持つて行つた。翌日、その友人からブリ大根が届いた作者。おそろく互いに「コレどうぞ」位の片言しか喋らず受け取つたはず。うるわしくささやかな人間関係、そこに川柳の花が咲く。

薬まで飲み忘れてる休刊日

西 郷 紀美代

休刊日の句はたくさんみてきましたが、この句の切り口はなかつたように思います。僕もそうですが、朝のリズムの中で新聞を聞く時間は皆さん決まっていることでしょう。でも休刊日になると、そのリズムがこわれてしまいます。薬を飲み忘れたり、どうかするとトイレにも入らなかつたり。まことに罪つくりな休刊日。

A I に穿ちのころ解るまい

米 田 恭 昌

この句のようだといいのだが、ワカリマセンヨ。7月青森市で某川柳社の大会が

あつた。出題「愛」、それをA I のチャットGPTで選をさせるといふ、僕も出席した。同時に参加者(全員出句者)も選をした。その結果、A I と参加者、ほぼ似たような選となつた。僕からみるとA I の川柳に対する理解力はかなり高いと感じた。「穿ち」も、もしかするとA I は解つてしまうかも知れない。我々はとんでもない時代に、足を踏み入れているカモノ。

いい日だった町の優しい歯医者さん

富 永 恭 子

きつとガマンにガマンを重ね、痛みに耐えかねて行つた歯科医院。しかしやさしい先生でそんなに痛くもなく治療をしてくれた。そのヨロコビの気持ちがこの一句にあふれ、読者もうれしくさせてくれた一句。

生ビールつきバイキング宿の朝

酒 井 健 二

作者はどこでこんな宿に泊まつたか。実は僕も今年、伊豆半島に旅行したとき、あつたのだ。一泊二食、食べ飲み放題の宿(一万円位)が。温泉でもあつた宿で、驚いたのは朝、バイキングの食堂の一角をみると、生ビールのサーバーが。迷いながらもついで二杯も飲んでしまった、幸せ。

# 英語 de Senryu ⑭①

麻生 葎乃 『福壽草』 (1955)

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

蝦蟇口も襟も子供の払い下げ

*my purse and collar  
they are already  
used by my children*

生きることにきめて頑固を立てとおし

*I keep my brief  
to decide to live  
keenly*

---

*purse* 財布 *collar* 襟 *already* すでに *used* 使われて *children* 子供ら  
*keep my brief* 信念を通す *decide* 決める *live* 生きる *keenly* 強く、鋭く

---

～リバーウィローのため息～ ⑭② 海外の英語短歌・俳句・川柳を和訳する稲美里香さん：エド・ブレムソン *Ed Bremson: In the Eyes of a Butterfly* 『胡蝶の目の中』 (Kindle 2023)、ラム・クリシュナ・シン *Ram Krishna Singh: Silence: A White Distrust* 『白濁』 (2021) (電子書籍)

稲美さんは短歌・俳句を日英語で創作し海外へ発信すると同時に、海外の作品を和訳しています。自己の作品も海外の作品もすべて、文語表現で行われているのが特徴です。英語短歌・俳句の和訳は、短歌の31音、俳句の17音にはおさまりきらないことが多々あります。彼女はその点を古語文法に則った助詞、助動詞、動詞の活用、さらに現代日本語の意味をこめて音数を縮約する古語文法の働きの特徴を見事に応用しました。上記の作品集から作品を抜粋してみましょう。

### 『孤蝶の目の中』より抜粋

*in the eyes/ of a butterfly.../ dewdrops* 目の中にしずくたたふる胡蝶かな  
*at her funeral/a butterfly flitting/ from stone to stone* 汝の葬儀蝶やひらひら石づたひ  
*gentle shower.../ for an instant/ I am the butterfly* 東の間の優しき驟雨われや蝶  
*it's still summer/ and you' re already gone.../ cicada* 夏なほも君すでに逝き蝉の影  
*setting sun/ blazing in the crape myrtle/ wings of a redbird* 百日紅の夕炎に赤鳥の羽

### 『白濁』より抜粋

*frozen/ in the icy wind/ my fingers/ she fears the chill/ on her cheeks* 凍つる風 吹きすさぶ日に わが指を 寒さおそるる 汝の頬に触  
*fishes swim/ weeds disheveled/ silent lake/ I inhale/ the city's garbage* 静かなる 湖の魚影に 草みだる われ吸ひ込むは 街の厨芥

# 誹風柳多留一二篇研究 37

細井龍夫・伊吹和男

高野範雄・山田昭夫

小栗清吾

清 博美

296 高尾ぼうれいもみち見へのりうつり

細井 正灯寺の紅葉見物に来ると、隅田川の三又辺で伊達綱宗に吊し斬りにされた吉原三浦屋抱えだつた遊女高尾の亡霊に取り付かれて吉原へ、吉原へと連れて行かれてしまふ。高尾の紋は紅葉であることも下地にある。

正灯寺高尾が寺と母おもひ 傍二31

伊吹 賛。紋所は？

高野 賛。紋所というのは家々の定紋で、高尾の紅葉は紋所と言わないと思ふ。

山田 賛。高尾を紅葉と称するのは、京都の紅葉の名所高尾山からの洒落で紋所ではないでしょう。

小栗 賛。阿達義雄先生が『江戸川柳と庶民

紋章風俗』で「三浦屋に於て高尾の紋を紅葉にして置いたことは事実であり」と、はつきり書いておられるからには、何か根拠があるのだろう。

但し、川柳を解釈する上では、左様なウンチクはなくても、高尾山の紅葉で一向に差支えないと思ふが。

清 同右。高尾の紋を持ち出すと、解がややこしくなる。

297 すわつてゝ嫁ハ着かへてずつと立

細井 花嫁と言われるうちは恥ずかしさ一杯で風呂や行水などの時は一苦労で、立つたままではなく、小さくなつて着替えをする。臺が立つてくると素っ裸で闊歩するようになる

のに……。

花嫁のゆかたをぬくのむつかしさ

明六梅 1

ゆかたくりやよと言捨て嫁しやがみ

一四31

高野 賛。川柳の嫁は年がゆかないのです。後半不要と思います。

山田 賛。右説なるほど。でもそこまで言わなくてもよいのでは。

小栗 高野兄のいわれる通り。そういうことが言いたい句ではありません。

清 句の核心は何か、ということです。

298 しゝやさるまたいで二人りしのひこみ

伊吹 曾我兄弟。富士の巻狩の獲物の猪や猿を跨ぎながら、仇の工藤祐経の寝所を求めて、兄弟二人が忍び込んだであろう、という想像句。ちなみに『曾我物語』(巻第九、祐経館をかへし事)に、

人は多く伏したれども、昼の狩場に疲れ、酒に酔ひ伏しければ、誰そと咎むる者もなし。

とある。

兄弟はしゝ、などまたぎく切り 明八仁一 清 賛。

299 そろばんを舌文なげて置なをし

伊吹 「雨譚註」に「乞食」にやって」とある。帳付けの最中に物乞いが来たので、一文を投げ与え、途中になった算盤の計算をやり直した。例句は、物貰いに断りを言わずに与える。

じひな見世こじきに物ハいわぬなり

天五清 1

清 賛。

300 木のそらで追ッ人の小言ト聞て居る

伊吹 木の空は、①高い木の上（『広辞苑』）。追われて逃げ道に困り、木に登った。行方がわからなくなったため、追手が下で小言を言っているのを樹上で聞いている。雨譚註に「欠落 悪句也」とあるが、情況はさまざま。

樹の上で追手の者の小言聞 武三 28  
山田 賛。なぜ雨譚は「悪句也」と言ったのでしょうかね。

清 賛。「木の空」は、もともとは礎柱のこと。このような言葉を使う必要はあるまい、というのが雨譚の主張ではなからうか。

301 ひとりものこつだ見やれと縫ッて居る

伊吹 普通の一人者は例句のような、だらしない毎日である。だから裁縫が出来ないのだらうといわれ、それくらいは自分でも出来ると言つて縫っている。

ほころひをなりたけぬわぬ老人もの

安五礼 5

高野 隣の世話焼き婦が、一人者よ！このように縫うのだ。よく見ときなさいよ」と言いながら、縫っている光景も考えられるが。

清 礎賛。

302 今行くとはだかに成ッてたひをはき

伊吹 祭礼の御輿昇など。夏祭では禪ひとつの殆ど裸の状態で、足袋を履いているだけ。誰かが呼びに来たので、今そちらに行くといっているのだろうか。

お内義はみこしと聞いて引こまれ 二 6

清 賛。

303 かんざしでしたとハはでなつき目也

伊吹 突き目は、②眼を突いたために起る眼の外傷（『広辞苑』）。棒などでなく、その原因が簪だから派手だと言っている。情況さま

さまざまが、遊女の長い簪か。

目の用心をして禿耳へ口

傍 28

山田 本句「川柳吉原志」にあります。遊女に限定するのは如何でしょうか。

小栗 賛。鑑賞の部類かもしれませんが、素人のカンザシで誤つて突いたのでは、「派手な」という感じが出ないようにおもいます。

清 賛。「派手」が簪にかかるか、突き目にかかるか、どちらだろう。

304 そうハいはふが小みじかく書なさい

伊吹 「雨譚註」に「無心のことづてなどを頼んだ返答」とある。『雨譚註万句合研究』で、山路閑古氏が「代筆を頼まれた人が、成るべく短く書きなさいと注意したので」と意味不明の事を書いておられる。しかし「川柳吉原風俗絵図」で佐藤要人先生の、切れ文の句として「父か母がついていて書かせる」の短注が適解と思う。即ち、息子がくどく書いてるので、父か母が短く書けと注意している。山田 「切れ文」に限定する必要は無いと思いますよ。

小栗 一般句でよいのでは。

清 同右

# 自選集

小島蘭幸

北野哲男

路郎忌や雨の尾道ひとり旅  
潮騒と電車の音と美美子の碑  
商店街一枚ずつの絵画展  
絵の中にいる少年の日の路郎  
酒を注ぐと比翼の句碑に虹が出た

ご都合は存じませんと酷暑来る  
台風が近い私が先ず揺れる  
時々は暴れて見せる細い川  
大丈夫一人でトイレに行けるから  
竹割った様な爺々の固い節

居谷真理子

木本朱夏

まっすぐでサラサラ君らしい髪だ  
喉元を過ぎた昭和を懐かしむ  
お誕生日ですねと仏壇にケーキ  
右肩に過去が乗っかって歪む  
天の川抜き手を切つて逢いに来い

ちようど良いところに落ちていたことば  
夏瘦せの脳から絞り出すコトバ  
一尋の海から掬うことばたち  
広辞苑の曠野に挑む旅の人  
彷徨うて水の匂いのする言葉

川上大輪

新家完司

傾けた耳傾いたままである  
擦つてやれば仏も目を覚ます  
白線の向こうはけもの道らしい  
寄せて引く波打ち際にある極意  
軸足をずらすと遠くなる故郷

翔平の活躍ヤル気出るサプリ  
炎天にノウゼンカズラ高笑い  
物価高シヤケの切り身もスリムだね  
脳味噌の指令を受けて大アクビ  
終点に着いたら線路描き足そう

高瀬霜石

コンピニがおやまあこんなどころにも  
田畑の色とりどりに癒やされる  
3万もあれば楽しい旅の空  
あのひとに出す絵ハガキを選っている  
これに勝るものなし旬のおすそわけ

津守柳伸

胸像と盛花路郎忌盛り上げる  
遊覧船欠航通知伊豆の雨  
コテージの夜はゆったり無に返る  
水茄子の漬かり具合を高速道  
コルセットはめてる友をいとおしむ

西出楓楽

ワインディングロード終着見えて来た  
寂しい日ついついお八つ食べ過ぎる  
グリ下に言ってみたいな若ければ  
帳尻の合わぬ日ばかり続く夏  
おだてられ心の窓が閉まらない

仁部四郎

前書きはいくつも読んだ読書論  
私小説純文学の例と聞く  
エンタメという小説に人が棲む  
いま令和昭和史こそが読まるべき  
そうですよ人それぞれに読書論

平田実男

丸洗いしたい政官財汚職  
月一の句会オアシスかも知れぬ  
今日用が今日行く所が生きる糧  
励ましの言葉を明日の糧にする  
クラス会裏も表も出して飲む

富士慕情

揚げ花火今日は鎮守の宵まつり  
大輪の花火が落ちる河川敷  
最高潮過ぎて花火を包む闇  
手花火を競うことなく盆火焚く  
花火の句 五楽庵師の碑に遺る

藤村亜成

出っ腹を女房は酒の所為にする  
夕暮れて独りウイスキー舐める  
呑みたいので脚の痛み先ず治す  
誕生日だけは酒の相手する妻娘  
直会の下がりの神酒は気兼ねなし

松本文子

愉快に生きようこんな顔にも紅つけて  
忍の字をまた眺めつつ生きている  
耐えてきた崖が一気に崩れだす  
静かにせよと雨の日が続く  
しつかり食べる百周年が済むまでは

人類の油断を突いた温暖化  
集まれば目立たないけど出汁の人  
病院とスパーだけの万歩計  
人の世の味わい深くなる老後  
まだ未練あり飯の世の楽しさに

三浦 強 一

村上 玄 也

お喋りの機会も減って視野萎む  
あちこちに翳りが見える記憶力  
パスワード変えて迷子になるカード  
A Iの社会考えたら恐い  
付け足しのような父の日プレゼント

森山 盛 桜

一度だけポップコーンは爆せてみた  
どう見ても無い逆走の正義感  
どの筋も僕とは違うオムニバス  
葬列を嘲る理不尽なカラス  
せめてもの抵抗ムース膨らます

山本 希 久 子

思い出さねば フル回転をする頭脳  
あり余る時間があつて句がでます  
腰痛に支配されてる朝の床  
マイナカード持つ存在薄い私だが  
いや応なく半日だけのデイサービス

## 第49回 川柳峠社 川柳大会

と き 2023年10月1日(日) 午前10時  
ところ 新居浜ウイメンズプラザ女性総合センター  
新居浜市庄内町4-4-19  
TEL 0897-37-1700

課題と選者 各題2句

「マーク」 共選 寺田 嘉仲 選  
「マーク」 共選 佐尾 文子 選  
「そこそこ」 共選 斎藤美恵子 選  
「そこそこ」 共選 松木 慎吾 選  
「頭」 共選 土橋 旗一 選  
「頭」 共選 永見 心咲 選  
「違 う」 共選 村山 浩吉 選  
「違 う」 共選 平井美智子 選

会 費 2000円 (昼食・発表誌)  
欠席投句 (賞は対象外) 投句締切 9月15日必着

投句先 投句料 1000円 切手不可  
各題2句(計16句) 用紙自由  
愛媛県新居浜市萩生1214-9  
川柳峠社 山内美恵子方  
(TEL 0897-43-2433)

第五十七回 東大阪市文化祭参加

## 第五十回 東大阪市民川柳大会

日 時 2023年9月24日(日) 13時開場  
(出句締め切り14時)

昼食は済ませてお越しく下さい。

会 場 東大阪市立社会教育センター 3階  
東大阪市長堂1-17-29  
☎ 06-6789-4100

宿題と選者 (各題2句 出席者のみ)

「目」 稲葉 良岩 選  
「吹 く」 木嶋 盛隆 選  
「ひたすら」 桑原すゞ代 選  
「発 見」 栃尾 奏子 選  
「ポジション」 中岡千代美 選  
「持て余す」 藤田 武人 選

会 費 1000円 (各題秀句賞・発表誌贈呈)

問い合わせ先

穂山常男 TEL 072-923-7421

主 催 東大阪市文化連盟・川柳界東大阪  
後 援 東大阪市・東大阪市教育委員会



# 森の集句

## 同人句集『川柳塔』

八木 摩天郎  
やぎ まてんろう

寝台へもう来る時分午後六時  
 発車ベル女房だけは手を振らず  
 煙突の掃除に街の眼をあつめ  
 鍵かけぬままに故郷の母は留守  
 嫁ぐ日も遠くラッシュを通う日々  
 秀才と一緒に歩くつれがなし  
 飛鳥川の名残りは細い川の巾  
 地図に線ひいて南北揉めつづけ  
 山小屋の老婆南朝びいきにて  
 公害を吐けとは仁徳のたまわす  
 経験の老医ニツコリ笑うだけ  
 こけしなどになるとお染の知らぬこと  
 来山は何んと詠むらむ陸の橋  
 落選の上到手形の日が迫まり  
 ふるさとは大仙陵のあるところ

(昭和49年7月7日発行、川柳塔社)

## 温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

やるが多すぎるので昼寝する  
 海を見て山へ行きたくなってきた  
 玉音を聞く八月の白い汗  
 松ぼっくり君に言いたいことがある  
 家中の灯をみな点す子の帰省  
 短篇の夢ばかり見る真夏の夜  
 てふてふがひらり舞い込む春のバス  
 義人とは一字違いのわたしの名  
 いま達者なら十年は生きられる  
 妙策はない直球で勝負する  
 城壁にふと杜子春がよぎる影  
 一番に逃げた男を知っている  
 本籍の地名勝手に変えられる  
 後輩に大臣がいるおじいちゃん  
 ころころでは何人ひとを殺したか  
 古希の坂見るべきほどのものは見つ  
 落石に注意と書いてあるコント

# 水煙砂

## 川上大輪選

和歌山市 倉橋悦子

ハマグリの口が開くまでストレッツ

幸せの寸法さがす糸でんわ

夏障子こんと狐が出る気配

晩学の森で迷路に立ち向かう

赤点がところどころにある暮し

熱風に老いてゆくのもひと仕事

大阪市 岡田恵子

淋しさに慣れていくのはなお淋し

お喋りインコ私を真似て泣いている

丸文字が直らぬままでおばあさん

若作りしても隠せぬ骨密度

ああ言えばこう言う母は百二歳

生き甲斐をスマホで探す蟻の群れ

神戸市 村松久江

哀しみの底に小さく穴を開け

複雑に絡み合う根を持って余す

糊代が足りずに世間狭くする

曖昧な笑顔で本音横に置く

他人だと優しくなれるのは何故か

逃げ腰の男ばかりで埒明かぬ

和歌山市 西川千鶴

私が黙れば平和保てます

午前二時淑女と悪女入れ替わる

試写会の余韻茶漬けで流し込む

ビー玉に梃摺りながらラムネ飲む

口出しは一切無用痴話喧嘩

かたつむり空を見上げて吐息つく

松山市 郷田みや

少しだけオシャレしました同期会

帽子屋の前ですました顔になる

意地張ったつもりはないが炎天下

ひまわりの裏側見ないことにする

突然の雨に右折をしてしまう

跳べそうな気になりました梅雨晴れ間

生駒市 饗庭風鈴

本の森彷徨い酸素とり入れる  
卒論集お化け出そうな地下の書庫  
かび臭い百科事典は今スマホ  
図書館のプレミアシート予約済み  
ときどきは田辺聖子に会いにゆく  
図書館が夏場冬場の避難場所

佐賀県 真島久美子

微笑みの中で渡した導火線  
鏡には一筆書きのような顔  
赤い靴なにか文句がありますか  
自販機に縋る私とカプトムシ  
欲しがりでゴメン終止形でゴメン  
かつこいいことを言いたいだけの雲

尼崎市 八木幸彦

断ち切れぬ未練心のカンパネラ  
しばらくは直球抜きで生き延びる  
少年の辞書には変化球がない  
ぬかるみに足を取られた反抗期  
キラキラの履歴に一つあったシミ  
洗濯をしても落ちない泥もある

大阪府 浦上恵子

満月の今宵一際黄金色  
ふと記憶飛んでさ迷う異空間  
私と鏡に年齢のギャップ

窓際で読書傍らには睡魔  
早起きと昼寝リズムは崩さない  
湿布薬秘かに香るご同輩

山口市 中前幸子

割れない風船どこまでも追い掛ける  
わらぶきの屋根から落ちてくる民話  
花時計他人の顔で通り過ぎ  
自由席約束の無い人が来る  
セビアの森で遠いわたしの過去探す  
明日を掴む女バベルの塔のほる

大洲市 花岡順子

騒音が癒しか独居猫が来た  
タイムスリップこれもリセットかもしれぬ  
マスクから解放されてよく喋る  
優しさに弱く見事にだまされる  
抽選に漏れた話で盛り上がる  
八起き目の知恵リセットを怖れない

奈良県 室田行久

母背負うあまりの軽さ出る涙  
無理筋を扶け開け王手する技量  
千鳥足月がまたかと苦笑い  
身をもって酒の功罪会得する  
場所相手構わず本音喋るヒト  
暴君に失政だとは誰が言う

大阪市 池野 惠美子

乙女に戻りかしまし八十路食事会  
寝間入りの前の甘酒健康法  
年度末孫転勤の気がもめる  
風情ある路面電車で街歩き  
梅雨明けの強い日差しに目眩する

大阪市 今村 和男

休肝日五臓六腑を持って余す  
猛暑日の室外機にもジョロの水  
自転車荷物になったヘルメット  
夏の宵あやしい風に肩組まれ  
自販機のビールを一つ救い出す

大阪市 久木野 タカ

奥の手の涙で勝負遺産分け  
二つ三つさい銭分は頼んどこ  
我は我雑草という草はない  
お疲れね言われたくない言われたい  
何気なくちらつかされる光り物

大阪市 阪本 秀子

憂さをけす雨もたまには良いもんだ  
どうしてたペットボトルのない時代  
泣いたっていいです明日は笑いましょ  
どこと聞いて人には答ええない  
ワッショイの汗うつくしいギャルみこし

大阪市 白谷 よしみ

波立てず風もおこさず梅漬ける  
砂浜を宥めるような母の波  
盛り盛りのかき氷見てあきらめる  
ソフトアイス孫といっしょにおじぎする  
おはようと挨拶すればワンと言う

大阪市 滝井 えみこ

洗濯物ため込む母の反抗期  
本心を隠す天プラ厚化粧  
身代わりと湯呑に両手合わす祖母  
いち抜けた母より明日年上に  
枝豆を食べる間は泣かぬ人

大阪市 中村 峰子

三行の日記に力わいてくる  
コンビニとポスト近くていい住まい  
ふさふさの髪だけ自慢他はなし  
この世には未練いっぱいまだ逝けぬ  
うれしいな笑顔に笑顔ほっとする

大阪市 原 幸子

一日の悔いを疊んで夕暮れる  
夫が逝き手抜き家事にはまりだす  
焦らずにじっくり熟れてゆく白寿  
答えなどこの世にないと陽が沈む  
八十路なり一、二歩ゆるりポジティブに

大阪市 前川善之

徳島で男女の阿波おどり

高知ではよさこい踊りで競い合う

大阪は河内を踊る盆踊り

夜空に光の祭典火花咲く

京都では鱧の料理で味の美を

大阪市 森 廣子

てるてる坊主長い雨だな疲れたな

夏の雲線状帯は要りません

何時だって裏切り者の枇杷の種

母さんを思い出したら赤ズイキ

そよ風を喜んでゐる猫じゃらし

池田市 倉本一弥

苦労させるね妻の肩腰ゲルを塗る

嫌いじゃないよでも来世は他の人と

あらよつと楽天主教でゆきましよう

七十路だものとかく笑みをたやすまい

酒よ酒良くも悪くもいい友だ

泉大津市 葛城隆雄

道の付く習い事には底が無い

梅雨晴れ間紫陽花見事艶やかに

地で行けばよいのにやたら気負つてる

無理難題言つた甲斐あり今が有り

甚五郎一分の狂い見せぬ技

泉大津市 助川和美

大会で知る語彙力不足己の句

呑み込んだ言葉の後で出る微熱

ポイントが麻酔のように効いている

老いたらば好きに暮せと言われても

商談を終えていつきに飲むビール

柏原市 神崎 江

不機嫌なまちの花にも雨の露

寂しさに気づかされます雨の駅

笑つてる君の瞳が泣いている

ため息は言葉にならぬ独り言

日曜の夜が長くて深呼吸

交野市 山野双葉

朝一番今日はいいい日と言つてみる

お掃除の仕上げはんなりアロマ焚く

行ったことない「ふるさと」の米届く

産め増やせ食物自給できぬのに

戦闘機千羽鶴には敵うまい

河内長野市 三輪 くに

合言葉トラトラトラでアレ狙う

久しぶり人文字映える甲子園

DNAわずかな違い人と猿

地上絵で神と語つた古代人

マイナスのままで人生終りそう

吹田市 西沢 司郎

悲しみが涙とともに泡になる  
我儘に任せつついつい吐く苦言  
体重を気にして食いが細くなる  
見え透いた嘘とわかればご納得  
後味の悪いニュースに胃が凭れ

摂津市 野々村 レイ子

弱いとこ見せると何故か人素直  
平凡が良いと知りつつ欲がでる  
コロナ明けすさんだ顔にマスクする  
茜雲こころの憂さが薄れゆく  
故郷は心のささえ山ばかり

高槻市 三谷 白黒

ほっとする電話で予約可能です  
本当か酒は薬と言うけれど  
冷蔵庫上の置場が届かない  
この齡の平均元気度どれくらい  
通るたび本日限りバーゲンと

豊中市 齋藤 奈津子

山登り達成感に膝わらう  
ハルカスから動く豆粒人車  
赤ちゃんに微笑み返す電車中  
ソプラノで返事する妻上機嫌  
マイナカードどんどん募る不信心

東大阪市 青木 ゆきみ

三日月の夜は隠し事したくなる  
上弦の月が見守るミナミの夜  
お産の日大きく丸い月が出た  
十六夜の月はあなたによく似てる  
缶コーヒー片手に月と散歩する

東大阪市 青木 隆一

胃が二つあればお酒がもつと呑め  
うれしさはすぐに頬染め困ります  
おもしろさ人それぞれに違うツボ  
気がつけば見知らぬ駅で缶ビール  
暗闇も音を頼れば少し見え

大阪府 奥野 健一郎

覚えてる取るに足らない事ばかり  
白黒をはつきりさせぬ温かさ  
落ち込んだ時こそおしゃれ活きてくる  
分相応どこを基準に決めようか  
無理はせぬ後は流れに任すだけ

大阪府 高木 道子

同胞の背に移ろいの時を見る  
若い日に巻き戻せたらという談話  
雑草って厚かましいね牧野さん  
嘸み合わん話ボタンも掛け違う  
鈍くなる足腰口は無尽蔵

神戸市 青木公輔

デコボコのボコが嫌味を言い出した  
喋りそうな鏡にアカンベエをする  
まず笑顔そこから平和めぐり来る  
回文が解けて将棋に勝ちました  
山里にポツンと歌碑が置いてある

神戸市 米田利恵子

振り向いた日傘に目札を返す  
七夕に今年も待つてくれる人  
ナツメロを歌い一日若返る  
退屈な暑さにクール宅急便  
数独を先ずは初級の暑気払い

神戸市 酒井宏

晩酌は妻の料理で二合ほど  
補聴器で作笑いが消えました  
もうそろそろ遺影の準備する齡  
人並みに心得ている処世術  
妻に言う桜の下に眠りたい

神戸市 田本古鈴

情けない空だ涙の雨が降る  
酒気帯びか自転車ふらりふらりゆく  
好きでなく嫌いでもない無関心  
エピソード幸せでしたそう言おう  
海へゆく海は語るしうなずくし

神戸市 槇田次郎

朝の声妻も老けたとふと思う  
一番は会うべき人に会えたこと  
棘抜かれ気弱に笑う赤いバラ  
ワイン抜くこれで良かった不戦敗  
凶引いて思い当たりが二つ三つ

神戸市 みぎわはな

数多の友葬<sup>おく</sup>送り私に影が添う  
ひとりて生まれ独り死す身に影が添う  
輪の中に入れば心から笑う  
ぬくい輪の余韻に浸り枕抱く  
終章にぬくい輪みつけたる至福

尼崎市 板谷賢二

生年は忘れ干支だけ覚えてる  
忘却のかなたなつかし労働歌  
樹の愚痴を聞いた枝葉が伸び悩む  
紅葉マーク枯葉になんぞなるものか  
夫婦箸せめて寄り添う箱の中

尼崎市 山本百合

梅雨寒に文句の多い膝と腰  
跳びたいと夢を抱いてる「歩」の一手  
唄になる女の背中痩せている  
飛ぶことを忘れた鳥の仰ぐ空  
振り向かず遠くなる背を追っている

小野市 藤原泰宏

六月の匂いがします栗の花  
朝顔が音符のように花を付け  
良く咲いたバラに感謝の追肥する  
人生の縮図のような暮の勝負  
勉強もスマホ見るほどして欲しい

加古川市 石賀邦子

六割で生きて行こうと決めました  
一人しか渡れぬ橋の向う側  
優しさはまさかと思う下心  
気が合わぬ訳ではないが嫁姑  
白黒をつけて空気が重くなる

三田市 幸田厚子

しゃべる家電孤老はみんな返事する  
高いびき新妻シヨック不眠症  
記念像誰か知らぬが道標  
趣味の会ライバル心が見え隠れ  
プライドが名刺の余白埋めたがる

三田市 野口龍

記憶とは上書きすると忘れるの  
去り際がさすがと言われにが笑い  
日本の明日気になりますかワイドショー  
神童と言われ続けて何もなし  
君を知る心の中に置いた鍵

三田市 松下英秋

お悔やみが祝福よりも多くなり  
太陽に近づき寒い山の上  
目が泳ぐへソ出しルックのひとがいて  
哲学者オランウータンに似てるひと  
出会っても再会のないあの美人

三田市 森玲子

稽古日に偶然四人同じ名で  
一つして一つ忘れて今日も暮れ  
亡き母と歳重ねては恋しくて  
グレーヘアー笑顔忘れず紅もさし  
猫二匹夫婦に笑顔くれる日々

高砂市 裕木るい

勇気など無いのに穴は覗きたい  
見ぬ振りをしようか蜘蛛の糸に蝶  
あのねえと甘えて来たら買わされる  
恋しくて左右確認せず渡る  
母嫌う娘もやがて母になり

西宮市 高橋千賀子

真夏より梅雨がうれしいカタツムリ  
七夕に降る雨は織女の泪  
天の川泳いでねこがやってきた  
短冊に書ききれぬ程願いごと  
短冊も百均で買う物価高

生駒市 永田 芙美子

涼やかな風鈴の音が暑気はらう  
居間よりも厨にぎわう盆休み  
二人して路面電車で何処へ行く  
鎮守の杜心を洗い晴れ晴れと  
侘び住いメダカ眺めて飽きもせず

和歌山市 北原 昭枝

明日があることを信じている鏡  
ひと言にまごころがある手の温み  
お互いに分かりあっている飯茶碗  
哀楽のくらしの中の家族愛  
振り向けばあつと言う間にひと昔

和歌山市 定松 宏枝

わたくしの寝言で夫は不眠症  
録音をされた寝言で大笑い  
何となく何かありそな娘の仕草  
無信心されど朝日に手を合わす  
お若いと言われその気になってます

和歌山市 まつもと もとこ

恋の閉め方は二人だけの秘密  
浅い夢ふとんの中のユートピア  
無人駅イコカスイカは通じない  
気が合えば照れてうつむくオジギ草  
想い出はさらっと風にのせてみる

海南市 山中 閑

地場産のジビエくらべに食楽し  
番組表チェックしている梅雨最中  
懐かしき里の小川の蜩とり  
楽らくとレンジでチンと焼くお鍋  
梅花藻の白は流れに逆らわず

和歌山県 三枝 眞智子

独り暮らしへとりこし苦勞今もまた  
笑顔見てマスク思わずポケットへ  
レシビ見て作る指先踊ってる  
やる事が無くてアクビの昼日中  
褒め言葉見つからなくて四苦八苦

鳥取市 佐々木 静恵

お隣りに出掛けるように医者に行く  
こんなにも厚くなったか面の皮  
ときめいて蝶でいる間が華だった  
種蒔いて芽が出るまでの根比べ  
思い出を抱いて空家は朽ちていく

鳥取市 狭武 紫陽

ごめんねの色が濃くなる赤ワイン  
医師からの突然もらう紹介状  
覚悟してして閻魔に尻尾振ってみる  
古家の自分時間は笑うため  
踏み出した一歩開いた未来地図

鳥取市 山野 すみれ

ドクダミも柿の葉もみなお茶で飲む

やっと来た太鼓ドンドン夏祭り

軸足はしっかり強い靴を履く

濁らせて問いかけながら待つ答え

取り上げて下さい私ここに居る

倉吉市 宮田 風露

タオル首に夕餉の仕度玉の汗

雨は嫌と島のトマトうなだれる

版画刷りグラデーションが難しい

三つ指をついた遠い日夫が居た

大切にしましう地球一つだけ

倉吉市 若松 由紀子

シトシトの雨に孤独が更に増す

正座が出来ぬ足投げ出して聞く法話

失敗はやってみないと分からない

あの事は胸にたたんでさりげなく

人並にスタイル気にし歩く土手

米子市 川本 美津子

病院で元気ですかと友が聞く

友と会う変わりないねが有難い

溜まるのはごみと悩みのふたつだけ

真っ青な空に絵を描くトビ一羽

人生もゲームと同じ波がある

鳥取県 橋谷 静江

雨の日は出る気やる気もなにもない

淋しい日ふと川柳を考える

誕生日来ると何だか恐くなる

老々介護ここまで見たよさようなら

夫行き私も少し用事ある

松江市 中筋 弘充

クリーン作業喋ってばかり八十二

八十二歳あと8年は生きられる

おじさんと呼ばれうれしい八十二

女子会に行ってみようか八十二

放棄地を見捨てていない蓮華草

津山市 高橋 由紀女

頑張ればきつと何か動き出す

病んで今分かる亡き父言ったこと

明日こそと父が遺していたやる気

若竹も切らねばならぬ時がある

さらけ出す介護の苦楽輪に入る

美作市 岡本 余光

疑いもなく明日のことを考える

意識せず会釈している六地藏

労わられ心外ですがありがたいとう

大声が予想以上に出る安堵

発熱の地球処方が見付からぬ

広島市 森田博之

芸道と呼ばせ道楽あまた持つ  
心地好いお国訛りに潜む嘘  
サミットへ表参道だけ化粧  
信念も欲と弱気で右顧左眄  
来世への準備途中のずる休み

尾道市 村上和子

雨降りが好きあじさいが笑う  
梅雨湿り不快指数の満ちる部屋  
よう降ると褒めてないのに尚も降る  
日本を水没させる大豪雨  
美しい嘘ほんとうに吐けますか

竹原市 土井輝恵

乳児殺害そんなニュースが今日もまた  
父の日のお返し妻がやっておく  
一日に二件三件ミス続く  
ボランティア作句の知恵を出し合いて  
難聴です愚痴も聴こえていませんよ

府中市 岸田武

あやめ園似合っていますアンブレラ  
寝てばかり猫も夏バテなんでしょう  
日記には父の日ですと書いて寝た  
九条を叫んでみたい気もするが  
赤ちゃんが泣いてる方へ足が向く

唐津市 前田廣幸

国債が打出の小槌になりたもう  
ペイペイと言うが最初はそうだった  
世の流れチャットチャットに加速され  
御値段の峠越させぬ七八九  
リモコンに筋肉までも奪われる

宮崎県 惠利菊江

書をあさり無い知恵絞る明日の顔  
反省をすると素直な顔になる  
残酷を知り抜いている花鏡  
手作りの服に愛情結んでる  
花屋から香りもらって帰る客

白河市 鈴木たけし

谷底の髭がこっそり伸びている  
物価高卵の殻も薄くなる  
でこぼこの手造り独楽へ子等の知恵  
預貯金も余命も在庫あとわずか  
マイカーを捨ててアンテナ低く生き

弘前市 小山内真由美

懐かしい笑いくださるお客様  
何気ない日々が幸せ連れてくる  
誰にでもころころと選択肢  
毎日が少し重くて心地良い  
頑張ろうすこし薄めて生きてみる

東京都 尾 畑 なを江

頼り無い頼った者のまけとなる

暑くても夏が大好き昔から

ノルマ決めやり抜く事を生きがいに

一日が早く今年はなにのこす

分かる人馬鹿とあほうを使い分け

東京都 宮 田 栄 子

ひと休み蓮の葉陰のカエルです

父母他界帰省遠のく盆なのに

ほおずきの風船遊び昭和の児

古稀仲間地酒列車で暑氣払い

地酒列車降りても締めは居酒屋で

横浜市 巖 田 かず枝

全国の産まれた子等に感謝状

大声で笑いしつかり食べて寝て

シウマイは無理でも野菜炒めなら

笑顔には女神が付いてくるらしい

エアコンの温度夫婦で折り合わず

小田原市 虎 澤 昭 久

気がつけば運を友とし老いの坂

老いの坂風と歩いてケセラセラ

寒がりに夏が寄り添いところてん

コンビニもレジのデジタルどこ押すの

棺桶はワイン樽だと妻に告げ

神奈川県 小 田 幸 子

ふりむけばきのうのような三十年

気がつけば最後の一人この私

おつばね様新人だった時もある

この道を歩き続けた手をひかれ

富士見市 中 島 通 則

異次元の財源探す防衛費

百年に一度の豪雨また今年

自信ある人だけが弾く駆ビアン

ライバルは十年前の自分です

糸切り歯昭和の母は強かった

船橋市 中 嶋 常 葉

少しずつ慣れて少しずつ気だるい

雨音に刺激されてる感受性

人に残されたせめてもの直感

決断を梅雨がじらせる鈍らせる

真実を話す鳩尾が痒い

豊橋市 小 松 くみ子

禁じられて紅茶色で飲むコーヒー

通販の手を出しやすい五〇〇〇円

無雑作に触ると痛いイボキユーリ

めぼしいもの探しながらの散歩道

メダカたち生まれたてでもするケンカ

大阪市 尾崎 文子

アナログの技は娘に負けません  
家計簿の赤字のベルが止まらない  
母さんの弁当今日もインスタに  
初もののメロン半分やっとなし

大阪市 田原 康雄

カバン服身体検査スマホ無い  
スマホ何処記憶の回路霧かかる  
スマホ無い妻のガラケーヒーローに  
深呼吸吸紫の風ジャカランダ

大阪市 中村 民子

若向きの眼鏡フレーム気障になる  
久々に晴れマークあり外歩き  
食べ過ぎず悩み過ぎずを習慣に  
あれこれと思う心に隙間風

大阪市 松田 聰

勝つ時は勝つ負けだすと弱いトラ  
アレアレを毎年虎は忘れるな  
足るを知る言葉の重み知る値上げ  
骨太の方針いつもだまされる

大阪市 森田 遊子

プロポーズ悔いた日きつとあつたはず  
歳とらぬ貴方を越える誕生日  
降り積もる時間見ている薄明かり  
沈黙の長さに耐えて聞く本音

大阪市 吉積 栄次

何時だつて人の意見に流される  
縫りつく藁からそつと請求書  
故郷が幼児名前で呼びかける  
未練捨て嫁にやっとなしと諦める

堺市 古川 光雄

遠慮がちに輝いている昼の月  
免許返納回転寿司が遠退いた  
八十路すぎ生きて動いてこの不思議  
久しぶり逢つて友の名出てこない

河内長野市 穂口 正子

余命睨みぐつと我慢の端金  
試着室金も容姿もNOと言う  
雑草に参りましたと炎天下  
コンビニに夫を託してバス旅行

摂津市 荻布 律子

裏切りは炭酸水で消えてゆき  
画面から風を感じる舟下り  
サカモトの映画音楽沁みじみと  
両替に戸惑うバスの旅の人

豊中市 貝塚 正子

家族写真犬も一緒にハイチーズ  
箱書きを捨てられ只の古茶碗  
行かへんかためらううちに置いてかれ  
手書き減り個性の消えた報告書

寢屋川市 坂本 ミヨノ

電話あり父の笑顔が急ぎ出る  
盆おどり着物あざやか竜宮や  
夢で私電車に乗って歩いてる  
夕焼けが真赤な山に落ちて行く

羽曳野市 黒木 ひとみ

長年の友の思わぬ癖を知る  
溢れ出る感謝の思い天に告げ  
緑濃く夏至の暑さに耐える木々  
語彙さえも時代と共に変わりゆく

藤井寺市 松井 正義

脳梗塞か舌のもつれが気にかかる  
米寿のゴルフ足腰悲鳴大たたき  
もったいない儉約するは死語となり  
水害のニュースあわれで目をおおう

八尾市 田邊 浩三

サンガラス マスクの黒は止めどころ  
初詣出来ず半年持った神  
大水害年賀の知人どうしたか  
我が足の爪がキレない不甲斐なさ

神戸市 石川 克美

イヤなこと思いかえすの止しましょう  
要らぬものばかりたまってゆくのです  
ナンプレはどこでミスったどんづまり  
どうすごす予定少ない八月を

神戸市 山根 弘華

兄弟を他人に変えた欲の皮  
ギリギリの智恵をしぼって予算立て  
人と人と絆うばった猜疑心  
落ち込んだ心をいやすピアノソロ

三田市 生田 えい子

宮参り傘の滴が背を濡らす  
黄帽より日傘めに付く登下校  
歳聞かれ本心言えず目が泳ぐ  
順不同証書授与にも肩が凝る

三田市 馬場 貴美江

物価高家計簿にらみ銭勘定  
無我夢中生きた証の皺の数  
青い空素顔うれしい美味の風  
昭和の子断捨離できぬもどかしさ

丹波篠山市 河南 すみえ

迷ってる心が開く感謝の日  
無人駅ゆっくり時間<sup>と</sup>は流れてる  
農作業真珠のような玉の汗  
汗流すシャワー一瞬疲れとぶ

丹波篠山市 澤 良子

いつもより化粧ののりがとてもいい  
曲がり角予期せぬ汗が湧いてくる  
忍耐と汗で掴んだ背番号  
声出しが上手くできない甚句節

西宮市 高瀬 照枝

炊飯器三合炊きがかわいいな  
山路に山椒煮付けて食すすむ  
闇の中光たよりに上めざす  
長雨にランタンでんち確かめる

西宮市 藤原 みよし

夏休み賑やか揃う日が近し  
法話聞き極楽行きを諭される  
川柳にかた結びされ逃げられぬ  
コロナ去るどころかひそと構えてる

和歌山市 佐藤 まき

スイッチを入れれば暗くなるニユース  
命がけ懲りず暴挙に走る愚者  
七夕もとうとう雨になりました  
癒される明るいニユース探しましよ

和歌山市 鍋嶋 澄子

かんできに炭火おこして餅ぶくり  
鹿威し静けさ倍に水おちて  
ぐるぐると夢もよう魅せ万華鏡  
友はいいやさしさ貰い灯が点る

京田辺市 加山 勝久

スキヤットで君が代歌う千秋楽  
リセットを出来ればしたい温暖化  
温暖化マンゴがリングゴ追い払い  
人間の脳超えAI命令し

鳥取市 上山 一平

坪庭の紫紺鮮やかなスの花  
黎明にきつと良い事五七五  
カーネーション囲む食卓温かい  
持て余す老後テレビに首ったけ

鳥取市 大前 安子

工夫する一つ一つが楽しくて  
コロナ去り家計簿がする深呼吸  
靴音におかえりの声もう弾む  
愛情が待っていますよ夕の膳

鳥取市 田中 重忠

梅雨いりや神経痛がいたみだす  
青春を北満の野においてきた  
枇杷がうれ踊り食いするカラス達  
カタツムリ描いております銀の地図

松江市 相見 柳歩

母の味に近いがかなり違うなあ  
味見して鍋が半分なくなつた  
ハンカチをきれいにたたむ女性の美  
燃料はいらぬ正確砂時計

広島市 田桑 恵子

師の言葉胸に刻んで糧とする  
梅雨明けを待ってる青いプチトマト  
朝一番ドアにかかった夏野菜  
サヨナラを言ってお喋りまだ続く

広島市 松尾信彦

休止符が老いの一日起りしきる  
老いの夏カルピス忘れ今麦茶  
居酒屋ではじめて分かる永田町  
額縁に入れた遺影が笑う盆

三次市 伊藤寿子

客の歳ちよつと若めに言つてあげ  
雨なのにお客の多い日の嬉し  
迷つてる客にはそつと知恵を貸す  
心だけ遠くへ旅行したつもり

福山市 新庄芳春

平和だなカロリーゼロで夏を越す  
この夏の覚悟を決める半夏生  
打ち水の向こうに昭和見えてくる  
秋空に夏のアリバイ消していく

那覇市 禱  
モモト

戦争を過去から学び次世代へ  
海底の御霊弔い対島丸  
サイレンの残る余韻に無事祈り  
認知症自ら言うと大丈夫

那覇市 宮 すみれ

アリ群にセミの幼虫さらわれる  
ひと昔島のゴーヤーは苦かった  
ネコくわえ雨の移動に親子猫  
夏バテに飲みたくなるねおみそ汁

横浜市 加藤佳子

エレベーター求め浅草駅苛酷  
膝痛の悪化階段受けつけず  
裏口に遠く離れた地上行き  
後発の都営が走る地下の地下

東京都 高岡弥生

空港の到着ロビーで首長く  
梅雨明けの前に猛暑が顔を出す  
愛犬と遊んだ公園通勤路  
暑くても自然の風を感じてる

「川雑」語録 ②④

私見二つ

林田馬行

五七五の律格は破つてみても決してリズムを無視し  
てゐない先輩の作品を列記して参考に供する。

頭から氷が落ちて死にけり 柳珍堂

屑籠屑籠また転任だとさ 日車

二人よれば二人きりのはなし 紫白

飯の種さがしに出たが噴水のしぶき 路郎

おどけた心よ麦酒の泡よ 同

(「川柳雑誌」大正14年1月)

川柳句集『肉眼』

橘 高 薫 風

少年の幾人いても毬一つ

路郎の忌 瞋恙近づき遠ざかる

路郎の忌 酒債なければ詩債なし

七月の蜂起の空となりけり

恋人がいま肉眼に入り来る

逸見灯竿氏を祝し

灯竿と号し その灯が古稀になり

板尾岳人兄へ

山男 山の画集に汗おとす

浄瑠璃寺 四句

見残した夢を見ている塔の朱よ

塔の朱の水に映れば浄土の朱

立たせたき人 睡蓮と塔の間

残酷な声 睡蓮の眠れるに

灯台よ 牛乳壘に乳充てる

人妻よ 海中の石見えながら

大文字 恋のはじめのごとく点く

大文字 はや消えかかる第二劃

大文字 聞えぬ音と見えぬ影

堀江正朗氏還暦

心眼に六十一の秋が澄み

山路星文洞氏へ

めでたさは作句還暦 喜寿の翁

雨の作州大原で

武蔵少年が見ていた雨垂れか

腸詰が繋がっている母子家庭

秋の恋 受話器の奥で時計鳴る

中年や 痲癩病みを絶えて見ず

サボテンも蟻も乾けり 恍惚の人

水飲めば涙に変わる 恍惚の人

一生に一度の御籤 父のみくじ

当選をしたら蝶を裏返し

旅館廃業

人生に起承転結ありにけり

父の忌に障子の部屋もなくなりぬ

# 愛染帖

## 新家 完司 選

(投句236名)

奈良市 加藤江里子  
ライバルがそつと口紅塗っている

(評) ちよつと気になるライバル。なんだか静かだなど覗くと、そつと口紅を塗っている。まだまだ色気もヤル気も失せてはいない。

枚方市 藤田 武人  
すれ違つ妻に会釈をする酷暑

(評) 35℃を超す猛暑日。汗をふきふき歩いていたら、向こうから妻に似た女性。よく見れば妻である。立ち話も面倒で黙礼だけ。

大阪市 宇都満知子  
急いで試すキキクルの使い方

(評) 豪雨などによる災害の危険を地図上で報せている気象庁のキキクル。いざというときに慌てないよう、今から試しておこう。

富士見市 中島 通則  
いつの間にカジェンダーレスの老夫婦

(評) ジェンダーレスとは社会的・文化的な性差が無いこと。だが、老夫婦では肉体的な性差が無いこと。それもまた爽やかな老境。

東京都 川本真理子  
犯人の逃走経路ドライブ中

(評) カララジオからの臨時ニュース「強盗犯が国道〇〇号を逃走中」。おいおい、この道ではないか。前の車か? 後ろの車か?

豊中市 松田蟻日路  
イツツショータイムこの英語だけ聞き取れる

(評) 大リーグで活躍中の大谷翔平。アナウンサーの英語は聞き取れないが、ホームラン後の「イツツショータイム!」だけは解る。

松山市 柳田かおる  
「詐欺ですよ」の放送 詐欺も聞いている

(評) 「振り込め詐欺にご注意を」等というニュース。もちろん犯人も聞いている。そして、それを参考にして新手を編み出してくる。

黒石市 北山まみどり  
脳味噌の栄養足りぬ物忘れ

(評) 物忘れは飲み過ぎの所為かと思っていたが、脳味噌の栄養不足か。調べるとタンパク質・ビタミンB群・ミネラル等らしい。

岡山市 丹下 凱夫  
青信号渡ついても怒鳴られる

(評) 渡っている途中で青が点滅になって赤に切り替わったのではないか。本人は駆け足のつもりがノロノロに見えたのだらう。

石川県 堀本のりひろ  
昭和では私を軸に回つた

(評) 昭和最後の年である64年でも実に34

年も前のこと。あの頃は最前線の現役バリバリで、地球も社会も中心軸はこの私であった。

安来市 原 徳利  
ひと夏をアセロラジュース飲んで越す  
香芝市 山下じゅん子

愛読書オトナの今もドラえもん  
唐津市 前田 廣幸

ハンバーガー乙女迄をも恐竜に  
大阪市 平井美智子  
ダイエツトキャンデー今日は二箱目  
浜松市 中田 尚

名人が食べたおやつがよく売れる  
大阪市 岡田 恵子

老いて猶増殖中の欲の皮  
弘前市 稲見 則彦  
防虫剤と殺虫剤を取り違え  
西宮市 高橋千賀子

わたくしも役に立てるか手話習う  
大阪市 江島谷勝弘

翔平も聡太も居ない家族です  
米子市 池田 美穂  
ゴキブリと遭遇しばし見つめあう  
弘前市 福士 慕情

明細書一枚だけの給料日  
宮崎市 恵利 菊江

泣き顔が海を見ているふりをする  
奈良県 長谷川崇明

長考の鷲を見ながら急ぐペダル

大阪市 久木野タカ  
住みたいがのどかな村に職がない

三原市 笹重 耕三  
田舎暮らし歳を取ったら淋しいぞ

箕面市 中山 春代  
こだまが棲んでいるポツンと一軒家

熊本市 杉野 羅天  
指紋無き指へ葉がツルリンコ

高砂市 松尾柳右子  
大きわぎひと粒飛んだ常備薬

札幌市 三浦 強一  
手の掛かる老人として生かされる

三田市 上田ひとみ  
飢餓の子のニュース見ている太鼓腹

堺市 村上 玄也  
もうたぶん泳げないだろうな私  
すぐ怒る弱ってきたな自尊心

大坂市 大沢のり子  
審判の面目潰すリクエスト  
リプレーが審判の目を審査する

大坂市 中島 幸徳  
包帯をささいな傷で巻く夫  
のら猫が窓を引つかく雨の夜

大坂市 大坪 一徳  
着る服もなぜかグレーが増えてきた  
息子とはテキパキできぬ者同士

川西市 敵のミス願う心を恥じている

大坪 一徳  
ベビーチェア男子トイレにある時代

三田市 大西 重男  
AIも冥途について答なし

奈良県 安福 和夫  
AIは鶏舎の事情まで読めず

河内長野市 大島ともこ  
TKG知っているぞと胸を張る

寝屋川市 平松かすみ  
日本語で言えばいいのにガバナンス

奈良県 大久保真澄  
デジタルの正しい意味は知らぬまま

広島市 岸本 清  
文字忘れ思い出すうち文忘れ  
穏やかな顔だ補聴器外したな

鳥取県 斉尾くにこ  
笑顔ならアンドロイドに負けてない  
上機嫌ただそれだけで百ワット

郡山市 安藤 敏彦  
にんげんは哀しいものよ休肝日  
青年の頃は持ってた感嘆符

神戸市 能勢 利子  
痛いのは生きてからと撫でてみる  
月一度スキヤキ食べに帰る母

今治市 永井 松柏  
支持率タウンマイナカードが狼狽える  
二刀流と言っても麻雀と競馬

生駒市 櫻庭 風鈴  
たこやきのモーリタニアが身悶える  
怒ってる眉間の皺がロマネスコ

唐津市 仁部 四郎  
小結になったら張り手やめましょう

大阪市 原 幸子  
しがらみを緩め大きな息をする

大阪市 石田 孝純  
生き方を教えてくれたのは病

鳥取県 門村 幸子  
同士だね方向音痴知り握手

堺市 坂上 淳司  
痛い時は指を立ててと言う歯医者

広島市 羽城 裕子  
遅れだす時計気持ちはよくわかる

堺市 澤井 敏治  
プチラブならいつもしてます片想い

佐賀県 真島久美子  
アイタイを我慢できない雨の音

福山市 新庄 芳春  
水族館クラゲゆらゆら勤務中

生駒市 飛永ふりこ  
食べこぼしエヘッと互い照れ隠し

大阪市 坂 裕之  
考えははっきり言ってお付き合ひ

香芝市 大内 朝子  
生き様を残すまだまだ白い地図

松江市 石橋 芳山  
人前に立つ顔ピリリッと男

大阪市 森田 遊子  
柔らかな心でいたいパンケーキ

花は葉にそろそろアイス食べようか  
豊中市 水野 黒兎

タオル地のシャツを取り出し夏仕度  
米子市 後藤 宏之

日傘さしスマホ片手の女学生  
那覇市 宮 すみれ

娘たちのヘソ出しルックもう夏か  
奈良県 中堀 優

お嬢さん臍見せ冷えてきませんか  
宝塚市 岸田 万彩

ラメ入りの脚が熱暑の道に映え  
大阪市 島田 明美

シャワー全開強敵夏を迎え撃つ  
尼崎市 山田 耕治

もったいないはなし冷房が寒い  
大阪市 今村 和男

エアコンが熱中症で動かない  
米子市 竹村紀の治

遠回りしても日陰をコンビニへ  
八王子市 川名 洋子

風鈴に癒やされ猫と昼下がり  
黒石市 石澤はる子

晩酌の相手は猫と決めている  
交野市 山野 双葉

世話を焼く相手欲しくて犬を飼う  
三田市 村田 博

床の間は居心地悪い招き猫

句会マドンナ月一会えるお洒落する  
池田市 倉本 一弥

路郎師と対座あの声あの仕草  
大阪市 津守 柳伸

句会行き抜けるとあとの酒うまい  
大阪府 山本加お里

AI時代短詩文芸何処へゆく  
鳥取市 山下 凱柳

個性爆発 全没は恐れない  
枚方市 栃尾 奏子

テレビから飛んできそうな土石流  
松山市 郷田 みや

Jアラートどこへ逃げたらいいですか  
松山市 栗田 忠士

ベイベイを使えるようになりました  
大阪市 平賀 国和

スマホデビュー昭和の指がきこらない  
福井市 伊藤 良一

どこにあるケーキを食べる別の腹  
鳥取市 前田 楓花

クラス会フォークダンスで締めた喜寿  
河内長野市 中島 一彌

八十路の胸には後悔が山積み  
大阪市 古今堂蕉子

出直しの出来ぬ歳だがまだ卒寿  
三田市 北野 哲男

夢でない百歳ご飯待ち兼ねる  
大阪市 高杉 千歩

安物は安物なりに衣装持ち  
豊原市 居谷真理子

老いたなど気付く優しくされた  
倉吉市 大羽 雄大

背の丸み俺はどうかと鏡見る  
小野市 藤原 泰宏

老けたねと言われぬようにする化粧  
横浜市 川島 良子

ヘルメット被った老いの踏むベダル  
高槻市 初代 正彦

口だけは若さに負けず達者です  
岡山県 藤澤 照代

駄菓子屋がむかしむかしを呼び戻す  
宇部市 平田 実男

黒い雨その語り部の母も老い  
奈良市 米田 恭昌

小走りで寄って来るけど名が出ない  
鳥取市 田賀八千代

わたくしをすぐに忘れる世間さま  
藤井寺市 太田扶美代

病癒えあの女医さんにもう云えぬ  
宝塚市 丸山 孔一

狭ければ狭いで知恵が開けゆく  
越谷市 久保田千代

面白くなくても笑う時がある  
土佐清水市 辻内 次根

母という職に退職時期がない  
鳥取市 福西 茶子

大阪府 内田志津子  
さばり癖ついてどんどん減る歩数

高槻市 片山かずお  
言い訳の作り話が上手くなる

尼崎市 藤田 雪菜  
レジ横のダンゴに勝てず手がのびる

鳥取市 上山 一平  
道草も時に前脳刺激する

東大阪府 青木ゆきみ  
シンデレラ城の前ではプリンセス

池田市 太田 省三  
ふるさとの蝉はむかしの声で鳴く

米子市 野川 宣子  
人柄のわかる胡瓜を頂いた

大阪府 吉積 栄次  
幸せは見捨てはしない遅いだけ

岡山県 田中 恵  
庭に来て八分音符で鳴く雀

鳥取市 岸本 宏章  
ビタミン剤効くと信じて飲んでる

豊橋市 小松くみ子  
ドクダミのおいと花にあるギャップ

豊中市 藤井 則彦  
断捨離で一番迷う古アルバム

鳥取市 狭武 紫陽  
主婦終える日まで家族の料理番

神戸市 敏森 廣光  
トイレ行くとび違った夢を見えます

河内長野市 穂口 正子  
喜ばれマスク作った日も遠く

京都市 藤井 文代  
高からず低い目の鼻マスクすれ

箕面市 大浦 初音  
マスクして疎かにした口回り

横浜市 加藤 佳子  
マスクから自分の顔を取り返す

加西市 山端なつみ  
脱マスク空を吸い込む朝六時

防府市 坂本 加代  
マスク取り笑う街角活性化

大阪市 谷口 義  
マスク外すと知らん間に老けていた

東大阪府 佐々木満作  
三年振り一人カラオケ二十曲

堺市 今井万紗子  
核兵器おもちゃじゃないよ北のドン

松江市 中筋 弘充  
ミサイルだつておやじが掘った間歩がある

神戸市 松倉 正美  
プーチンを揺らした男今何処に

府中市 岸田 武  
妖怪が生きれるところクレムリン

美作市 岡本 余光  
戦争業ところが凍るドキュメント

寝屋川市 川本 信子  
戦争は欲ある限り終わらない

弘前市 高瀬 霜石  
バイオリズムは最高 晩酌の時間

名古屋府 山本三樹夫  
晩酌を既に済ませて陽は真上

東大阪府 青木 隆一  
千日前路地の灯りも酒のアテ

和歌山市 北原 昭枝  
横丁で友と平和なビール飲む

高槻市 松岡 篤  
やり遂げてジョッキをつかむ自信の手

神戸市 斎藤 隆浩  
脱水症防ぐ今夜はハイボール

神戸市 近藤 勝正  
酒飲みはいつも口実ポケットに

船橋市 中嶋 常葉  
めらめらと緋を抱きしめるロゼワイン

和歌山市 まつもととこ  
リキユールで涙の零割つて飲む

藤井寺市 鈴木いさお  
どぶろくと芋焼酎は無二の友

奈良県 渡辺 富子  
あれその話で地酒よく弾む

鳥取市 山野すみれ  
米が好きおにぎりが好き酒も好き

羽曳野市 宇都宮ちづる  
冷蔵庫に肴あるので二合飲む

米子市 妹能令位子  
ワンカップ亡夫への土産これで良い

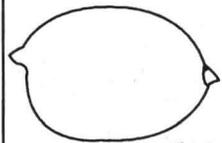
共選欄

檸檬

抄

(薫風書、カットとも)

(投句312名)



「記号」鈴木 正和 選

ゆっくりとフリーサイズで生きてきた  
身の丈に合った暮らしに感謝する  
良い知らせ葉書サイズでやってくる  
メガサイズ世界唸らす二刀流  
翔平は並の規格で測れない  
Eカップ付けたわたしの一ページ  
よく見ると靴下左右別サイズ  
年ごとに足も小さく気も小さく  
#よりb僕に合っている  
山道の赤いリボンが道しるべ  
記号プラス絵文字を添えてきたメール  
○×で人の一生評価する  
長文の手紙返事はスタンプで  
ト音記号書けても楽譜読めません  
D51が必死で牽いてきた昭和

三田市 堀 正和  
堺市 齋藤さくら  
寝屋川市 伊達 郁夫  
河内長野市 村上 直樹  
大阪府 近藤 正  
岡山県 田中 恵  
吹田市 西沢 司郎  
寝屋川市 平松かずみ  
豊中市 上出 修  
香芝市 山下じゅん子  
和歌山市 松原 寿子  
奈良市 室田 行久  
大阪市 岡田 恵子  
広島市 岸本 清  
米子市 竹村紀の治

「記号」川本 真理子 選

約束の印が光るカレンダー  
逢える日の記号暦が知っている  
丸印増えて手帳も嬉しそう  
飲む誘いもちろん指で丸をする  
怪しげな記号ばかりの予定表  
恋人に記号をふってある日記  
イニシャルのYがよく出てくる日記  
心の人だから君だけ「カギカッコ」  
堂々とハート満載Eメール  
3Eのガラスの靴を探してる  
生まれたらすぐに名前という記号  
名前などキラキラしても記号です  
逝く時は高い符号を付けられる  
墓碑銘はやっぱクエスチョン・マーク  
満足度測っていますフェルマータ

越谷市 久保田千代  
和歌山市 松原 寿子  
河内長野市 穂口 正子  
尼崎市 藤井 宏造  
弘前市 稲見 則彦  
大阪市 島田 明美  
鳥取市 前田 楓花  
明石市 梶谷 和郎  
尼崎市 山本 百合  
貝塚市 吉道あかね  
枚方市 藤村 亜成  
加古川市 石賀 邦子  
吹田市 太田 昭  
松山市 居谷真理子  
大内せつ子

ピクトグラム今のわたしは角が有る	大阪府	原田すみ子
S H R 三つの記号生きてきた	鳥取市	吉田 弘子
商標という個性が権利主張する	鳥取市	池澤 大鯨
無機質な記号でカルテ処理される	松山市	宮尾みのり
新しい記号がふえてこまってる	大阪市	田中 廣子
地図追って温泉マーク旅をする	和歌山市	北原 昭枝
欲しいのは疑問符よりも感嘆符	尼崎市	宗 和夫
マイナンバー人を記号化して管理	箕面市	出口セツ子
イニシャルを雅号か本名かで迷う	鳥取市	福西 茶子
元素記号暗記の日日が甦る	西宮市	福田 正彦
標識の海に溺れる大都会	船橋市	中嶋 常葉
記号と違うこれで立派な僕の文字	神戸市	敏森 廣光
コーラスを始め覚えたピアニシモ	豊中市	貝塚 正子
人間が記号化されてゆく未来	鳥取県	門村 幸子
怪しげな記号ばかりの予定表	弘前市	稲見 則彦
！むやみと付ける癖がある	松山市	栗田 忠士
オリンピックピクトグラムでもてなし	尼崎市	山田 厚江
記号かも知れぬ昨夜は読めた文字	大洲市	花岡 順子
赤い矢印まっすぐ行けと指図する	大阪市	森 廣子
疑問符がやたらにおおい半生記	岡山市	丹下 凱夫
歌えますお玉じゃくしは読めないが	大阪市	東 敏郎
足跡は酔った証しの千鳥足	三田市	村田 博

お願いは最後にそつとフェルマータ	三田市	九村 義徳
原点に帰れとダ・カーポに出合う	大阪市	森田 遊子
気を持たずサヨナラにある返り点	大阪市	石田 孝純
ト音記号あじさいの葉にお昼寝中	鳥取県	斉尾くにこ
ブレス記号無いところでも息が切れ	交野市	山野 双葉
長文の節目節目のセミコロン	東大阪市	佐々木満作
日常に句読点打ち深呼吸	尼崎市	藤井 歌子
その辺で終止符打てと神の声	大阪市	大沢のり子
D 5 1 が必死で牽いてきた昭和	米子市	竹村紀の治
地図帳の記号懐かし田や畑	大阪市	岩崎 玲子
地図の上哀しいしるし増えていく	三田市	上田ひとみ
背番号貰い嬉しい草野球	宇部市	平田 実男
子のゼッケン太く大きく見える夏	奈良市	米田 恭昌
母子手帳ジャンボペビート※印	和歌山市	定松 宏枝
元氣だよハガキの丸が愛おしい	河内長野市	木見谷孝代
(笑)おもしろかったじゃ駄目ですか	高砂市	裕木 るい
Wも草も笑っているらしい	豊中市	水野 黒兔
イコールは相性良いという記号	豊中市	松田蟻日路
知力体力どうかイコールであれ	羽曳野市	徳山みつこ
静かな指標北極星はうなずいて	大阪市	森 廣子
頼りです小さなるしへんろ道	八幡市	武田 悦寛
白い丸見ながら登る檜ヶ岳	豊中市	松尾美智代

新しい洗濯マークはてはてな	河内長野市	大島ともこ
ご自慢の胸のサイズも落ちました	大阪市	宮崎シマ子
防犯の為に特大パンツ干す	和歌山市	定松 宏枝
わたしはわたしどんな記号をもらっても	桜井市	安土 理恵
木簡の文字が大昔をつなぐ	羽曳野市	徳山みつこ
ヘルプマーク席を譲った幼い子	和歌山市	西川 千鶴
長文の節目節目のセミコロ	東大阪市	佐々木満作
マジンガーが困るブーチンのZ	熊本市	杉野 羅天
お願いは最後にそつとフェルマータ	三田市	九村 義徳
反抗期記号のような返事する	朝霞市	前田 洋子
おそろしい記号が棲んでいるスマホ	尼崎市	藤井 宏造
約束の印が光るカレンダー	越谷市	久保田千代
地図記号旅を楽しくしてくれる	鳥取市	岸本 宏章
顔文字になってイキイキする記号	和歌山市	まつもともこ
ありし日の日記に謎めいた記号	大山市	金子美千代
戦車にZブーチンの怖い顔	香南市	桑名 孝雄
トイレへの矢印はどこも小さい	大阪市	江島谷勝弘
癒やされるスマホで届く笑マスク	川西市	山口 不動
元氣だよハガキの丸が愛おしい	河内長野市	木見谷孝代
矢印が折れて彷徨う着地点	大阪市	小野 雅美
生まれたらすぐに名前という記号	枚方市	藤村 亜成
点字の上を流れるように指の先	堺市	坂上 淳司

山道の赤いリボンが道しるべ	香芝市	山下じゅん子
窮地では母思い出す道標	香芝市	大内 朝子
母ひとり住む古里の雨マーク	大阪市	平井美智子
ハッシュタグつけた小石を投げている	佐賀県	真島久美子
ハッシュタグ付けてつぶやく老いの愚痴	河内長野市	中島 一彌
老人の記号のように曲がる腰	郡山市	安藤 敏彦
ばあちゃんは杖のマークの家に住み	大阪市	滝井えみこ
?マーク付けておばあさんが行く	大阪市	谷口 義
孫からの記号のような手紙来た	米子市	伊塚美枝子
反抗期記号のような返事する	朝霞市	前田 洋子
右上の矢印の先ツバメの巣	三田市	松下 英秋
矢印の通りに動く長い列	防府市	坂本 加代
矢印が折れて彷徨う着地点	大阪市	小野 雅美
矢印の廊下の先にある恐怖	塩竈市	木田比呂朗
矢印を無視する異端児の野望	三原市	笹重 耕三
元素記号不明おれはなんなんだ	松江市	石橋 芳山
家計簿に▲ばかり目立ちだす	鳥取市	狭武 紫陽
買いますか私の黒皮の手帳	枚方市	栃尾 奏子
丸よりもうれしかったな星印	黒石市	北山まみどり
B級のばくはB級グルメ好き	弘前市	高瀬 霜石
ピクトグラム今のわたしは角がある	大阪市	原田すみ子
指差してピクトグラムで会話する	三田市	稲角 優子

心の人だから君だけ「カギカッコ」  
 しゃあしゃあと婿の記号で生きてきた  
 子が巣立ち小さな家に住み替える  
 田園の記号になつてゐる案山子  
 休止符を引き連れ謳歌する余生  
 神さまのカルテに書いてある記号  
 いじめられつ子のSOSを見逃すな  
 笑わなくなつた記号になつてから  
 3Eのガラスの靴を探して  
 矢印を辿ればエンマ様の前  
 郵便局の新しい夫婦の渇水期  
 H<sub>2</sub>O欲しい夫婦の渇水期  
 シンプルに限る記号も暗号も  
 数学の記号覚えて解けもせず  
 背番号貰い嬉しい草野球  
 ?マーク付けておばあさんが行く  
 イコールは相性良いという記号  
 古文書に記号のように遣る紙魚

明石市 梶谷 和郎  
 宮崎県 押川 胡坐  
 宮崎県 黒木 栄子  
 今治市 永井 松柏  
 三原市 笹重 耕三  
 土佐清水市 辻内 次根  
 奈良市 米田 恭昌  
 大阪府 高杉 力  
 貝塚市 吉道あかね  
 松江市 石橋 芳山  
 奈良市 大久保眞澄  
 奈良県 長谷川崇明  
 藤井寺市 太田扶美代  
 東大阪市 青木 隆一  
 宇都市 平田 実男  
 大阪市 谷口 義  
 豊中市 松田蟻日路  
 弘前市 福士 慕情

秀句

カーナビが地図の記号を消していく  
 暗号や記号で愛は語れない  
 イニシャルのYがよく出てくる日記

三田市 野口 龍  
 大阪市 宇都満知子  
 鳥取市 前田 楓花

思い出の記号としますカンパニユラ  
 先住者のセコムの記号付けたまま  
 古文書に記号のように遣る紙魚  
 記号かもしれない昨夜は読めた文字  
 欄外の小さい記号に泣かされる  
 年齢は記号のひとつ問診票  
 要介護4と記号化された母  
 しゃあしゃあと婿の記号で生きてきた  
 戦わぬ解説戦で敗れたり  
 万能の記号か星は軍服に  
 メモ紙に毒の記号が書いてある  
 マジンガーが困るプーチンのZ  
 顔認証記号になるか俺の顔  
 笑わなくなつた記号になつてから  
 わたしはわたしどんな記号をもらつても  
 危ないという看板を乗り越える  
 停止線越えて今日から自由律  
 今日の日記ビックリマークで締め括る

弘前市 小山内真由美  
 西宮市 亀岡 哲子  
 弘前市 福士 慕情  
 大洲市 花岡 順子  
 豊橋市 西郷紀美代  
 池田市 太田 省三  
 松江市 中筋 弘充  
 宮崎県 押川 胡坐  
 唐津市 前田 廣幸  
 唐津市 仁部 四郎  
 大阪府 吉積 栄次  
 熊本市 杉野 羅天  
 美作市 岡本 余光  
 大阪市 高杉 力  
 桜井市 安土 理恵  
 奈良県 中堀 優  
 河内長野市 森田 旅人  
 岡山市 丹下 凱夫

秀句

疑問符を抱いて本音を探り合う  
 しあわせの記号は無量大だろ  
 立入禁止からの眺めが素晴らしい

富田林市 山野 寿之  
 今治市 永井 松柏  
 土佐清水市 辻内 次根

「合 図」

(投句 202名)

寺 本 実 選



腹を蹴りママに合図の自己主張  
 ヒマワリが咲いたら会いに行きますね  
 咳払いひとつで会議リードする  
 目くばせも通じぬほどに冷めてきた  
 目で聞えば妻は笑顔でうなずいて  
 狼煙上げ遠い太鼓に耳すます  
 オバチャンの飴は会話の起爆剤  
 目配せの通じぬ人と五十年  
 ノックぐらいしてよただ今バック中  
 わたくしを鼓舞するためのホイッスル  
 旅行先へ選んだ途端来る地震  
 目配せてふたりこっそり輪を抜ける  
 低気圧そろそろくるぞ片頭痛  
 カルガモはママの合図でレッツゴー  
 赤信号右折可マーク出てホッと  
 目配せで妻がアカンと言ってます  
 トントントン妻の機嫌の分かる朝  
 トントントン妻の機嫌の分かる朝  
 避難指示早く出しても遅くても  
 食べ頃の決め手を鼻に聞くメロン  
 夕立が来るぞと風が告げている

高槻市 富田 保子  
 大阪市 島田 明美  
 大阪市 高杉 力  
 大洲市 花岡 順子  
 三田市 稲角 優子  
 生駒市 饗庭 風鈴  
 池田市 太田 省三  
 堺市 澤井 敏治  
 松山市 栗田 忠士  
 黒石市 北山まみどり  
 豊橋市 小松くみ子  
 奈良県 渡辺 富子  
 香芝市 山下じゅん子  
 鳥取市 前田 楓花  
 加西市 山端なつみ  
 大阪市 岡田 恵子  
 河内長野市 落葉 ふみ  
 大阪市 古今堂蕉子  
 富田林市 山野 寿之  
 樺原市 居谷真理子

腹を蹴り胎児は無事を合図する  
 明日テストお腹も痛くなり出した  
 全身でノーのサインを出したのに  
 反乱の烽火を上げたブリゴジン  
 合言葉忘れオレオレ詐欺に遭い  
 目くばせをした二人がそっと消え  
 コーヒーを淹れよかと聞く仲直り  
 エヘン虫してるのにまだ知らん顔  
 風呂沸いたご飯が炊けた電子音  
 ヨーイドン努力無にするフライング  
 ウインクに眼が痛いかと聞いてくる  
 めくばせをして抜け出した盆おどり

佳 句

米子市 後藤美恵子  
 三田市 上田ひとみ  
 富田林市 中村 恵  
 吹田市 太田 昭  
 堺市 村上 玄也  
 鳥取市 岸本 孝子  
 大阪市 森田 遊子  
 大阪市 田原 康雄  
 柏原市 津村志華子  
 香南市 桑名 孝雄  
 鳥取市 福西 茶子  
 犬山市 金子美千代  
 奈良市 大久保眞澄  
 奈良県 室田 行久  
 郡山市 安藤 敏彦  
 美作市 岡本 余光  
 交野市 山野 双葉  
 川西市 大坪 一徳  
 東大阪市 青木 隆一  
 神戸市 富永 恭子  
 孫に「シー」七秒ほどの効き目です  
 合図する相手もなくて独りいる

「含む」

加藤 江里子 選  
(投句 196名)



犬に猫金魚に亀も家族です  
これからも努力をせよと優勝旗  
大筆に墨たつぷりと夢一字  
新蕎麦が含む香りに寿命延び  
奈良漬けで手を叩き出すワタシ下戸  
利き酒は飲まずに口に含むだけ  
口含む水の美味さよ咬んで飲む  
笑えません水が口に居てますの  
アルコール含有量と失恋と  
見栄本音値段に含む贈り物  
四捨五人やはり私は消えました  
三個までバナナも菓子に含みます  
最上階の見晴らし含むホテル代  
含み笑いの顔に覗いている本音  
飲み込んだコトバが顔に書いてある  
祝辞には微量の毒を含ませる  
龍宮城セシウム含むで大騒ぎ  
お役所はなんでも含みもたせてる  
放水が許されそうなトリチウム  
国境を自国で決める覇権主義

広島市 羽城 裕子  
大阪市 田中ゆみ子  
尾道市 村上 和子  
東大阪市 青木 隆一  
堺市 坂上 淳司  
藤井寺市 鈴木いさお  
熊本市 杉野 羅天  
鳥取市 福西 茶子  
佐賀県 真島久美子  
奈良県 室田 行久  
奈良県 長谷川崇明  
大阪市 高杉 力  
西宮市 高橋千賀子  
富田林市 山野 寿之  
郡山市 安藤 敏彦  
今治市 永井 松柏  
奈良県 中原比呂志  
大阪市 江島谷勝弘  
横浜市 加藤 佳子  
池田市 太田 省三

時は含み持たせる総理の弁  
そのことも含んで言ったはずなのに  
善意も含み人間しています  
切り捨てるの筈の老いまで四捨五人  
紅一点混じり男の座は静か  
合格の中にわたしはおりますか  
嬰兒に乳首含ませ母の顔  
欠点も含めやっぱ君が好き  
胸の中未だ亡夫が住んでいる  
夫入院どうかお含みおきを  
これ切りと含みを持たす脛かじり  
たっぷりと水気含んだ無駄話

佳句

ノーですとイエス たっぷり含ませて  
惚れるのも惚けるのもあおんなじ字  
若いねはいろいろな意味含む畏  
人間の毒飲み込んで海が病む  
口に含んだアメ政治家の味がする

人  
ゆるやかな吸収という侵略

地  
慢心の首狙つてる含み針

天  
たっぷりの甘さ含んだ君の嘘

軸  
含みある言葉が人を試してる

豊中市 藤井 則彦  
松山市 栗田 忠士  
松山市 宮尾みのり  
塩竈市 木田比呂朗  
明石市 糀谷 和郎  
弘前市 稲見 則彦  
河内長野市 中島 一彌  
富田林市 中村 恵  
大阪市 古今堂蕉子  
羽曳野市 徳山みつこ  
富土見市 中島 通則  
富山市 伴 よしお

三田市 上田ひとみ  
弘前市 高瀬 霜石  
豊中市 水野 黒兎  
橿原市 居谷真理子  
吹田市 太田 昭  
黒石市 北山まみどり  
枚方市 藤村 亜成  
大阪市 平井美智子

# 初級教室

## 題一 積む

### 水野黒兎

「徳を積む」といった内容の句が十句程ありましたが、「徳」といった抽象的な言葉だけでは句の作者の想いが十分伝わらぬケースが多いと感じました。徳の内容が具体的だった一句を先ず紹介いたします。

☆は皆様の句、★は参考句です。

☆徳を積むきれいなゴミは拾いますタカ  
きれいでないゴミも拾って欲しいのです  
が、敢えてきれいなゴミと限定したのがこの句の川柳の諧謔と思われ、その部分は生かして

★徳を積むきれいなゴミはすぐ拾う

次のひとみさんの二句、このままでいいのですが、少し硬いなと思った部分を柔らかにしてみました。

☆積年の願い叶って親子旅 ひとみ

★積年の願い叶って子らと旅

☆懸念に日々積み重ね傘寿なり

ひとみ

★懸念に日々積み重ねいま傘寿

☆善行とおせっかい積み生きている

「生きている」の代わりに「生きる」だけでわかります。すると、2音節約できます。

★善行とおせっかい積み生きている日々

☆積木する幼児の脳に住む未来

このままでもいいですが少し変えてみます。

★積木する幼児に未来芽生ええだす

☆下積の汗が実って今は楽

しみじみとした内容の佳句ですが、「楽」

がしみじみ感をやや削ぎますので

★下積みの汗が実って今の幸

次に本を積んだ句を三句。

☆枕元いつか読む本山積みに

★いつか読む本を山積み枕元

☆積み重ね捨てる本達また手にし

★捨てようと積んだ本また読み返す

☆積み上げた本から見える趣味思想

他人の事のようにも思えますので、自分のこととして詠んでみます。

★積み上げた本に自分史見えてくる

☆降り積もる雪が見たくて旅に出る

「雪が」と「雪を」の助詞の差は国語として難しい論があるようですが、この句の場合清音の「を」の方が雪の語感に合っているかもしれません。雪の少ない地方の出身者には経験のない豊富な雪に圧倒される旅であり、豪雪地の人々の苦勞を実感された旅だったと思います。

☆降り積もる雪が見たくて旅に出る

旅だったと思います。

☆降り積もる雪が見たくて旅に出る

- ★ 土台だけ積んで夫はもう昼寝
- ☆ 特売のテツシユ爪先立ちで買う 歌子  
高々と積み上げられたティツシユの状況がわかります。外来語に一字だけ追加。
- ☆ うちの子は積み木の家を直ぐ壊す 栄次  
「うち」と言わなくともわかるので
- ★ せっかくの積み木の家を子は壊す
- ☆ 愛車に積み込んだ家族のきずな 良子  
いい句ですが9+7音の字足らずの破調なので575にしてみます。
- ★ 愛車へと家族の絆積む行路
- ☆ あれやこれ思い出積んで船を出す 双葉  
いっそのこと、子供さんの船出にしてみませんか。
- ★ 子供らは思い出積んでいざ船出
- ☆ 泣き笑い重ねて共に金婚式 美美子  
ドラマチックに
- ★ 泣き笑い重ね金婚式は今日
- ☆ 引越の荷物積み人重そうに ミヨノ  
ミヨノさんの思い出として詠んでみます。
- ★ 寄り添って引越し荷物積み夫婦
- ☆ スピードと積載過量事故の元 行久  
警察の標語みたいになりましたね。句の意味がずれませんが今の世相の句にしてみました。

- ★ 値上げラッシュ過積載めく暮らしぶり
- ☆ 積む趣味に広がる人生好々日 一平  
日々これ好日を言い換えて好々日という言葉にされたのでしょうか。私は初めて接することはですが、一応このまま生かして、中8だけを直します。
- ★ 積む趣味に人生広げ好々日
- ☆ 一夜明け積まれた土囊壁に線 くにお
- ★ また豪雨積んだ土囊を越えた水
- ☆ 濁流が積んだ土囊を越え壁へ
- ☆ トラックに想い出も積み次の地へ のぞみ
- ★ トラックに想い出を積み新任地
- 今月の佳句です。
- 城跡の石垣いまも誇らかに 閑  
今村翔吾の「塞王の桶」の受け売りですが、石を切り出す役、その石を運ぶ役、そして最後に積み上げる役があり、それぞれが凄い技術を誇り、かつまたそれぞれの役が素晴らしい連携プレーで城の石垣ができる。その石垣が今もしっかりと残っているのですね。
- 積む真似で仲間と意志が通じ合う 賢二  
マージャンだと言わなくてもわかります。
- 山積みのサブリ横目に缶ビール 不二夫

- 「横目」が自虐の面白味。
- 年を積みお裾分けですひじき豆 照枝  
肩肘張らぬ近所づきあいの妙味ですね。
- 生きる知恵など要らぬただ好奇心 風鈴  
10・7の力強い破調。
- 石積みの崖でタンポポ花咲かせ 風露  
アスファルトの割れ目や石垣などの風景。
- 優しさを積み重ねてるポランティアレイ子
- 被災した瓦礫の山に立ち尽くす 百合  
地震や洪水、また戦禍のウクライナなど、身につまされる光景ですね。
- \* \* \*
- この原稿を書くにあたって皆様の句を少なくとも十回は読みましたが、次のお二人の各々三句はさらに数回読み返しても、課題「積む」との関連が私には残念ながら汲み取れませんでした。せっかくですので各一句を自由吟として紹介致します。
- ☆ 挨拶の苦手な僕がテープ切る 龍  
775になってしまいました
- ★ 挨拶が苦でテープ切る役開所式
- ☆ 友描く色紙にいつもいやされし 惠美子  
いやされしは過去形。現在のこととして
- ★ 友の描く色紙にいつも癒される

# 川柳塔鑑賞

同人吟片山かずお

— 8月号から

## 資料館視察首脳の顔変わる

松本 知恵子

広島市で開催したG7サミット。参加した各国首脳に広島原爆資料館の視察をしてもらえたのは快挙。これが核廃絶に繋がればうれしいのだが…

## セルライト消すぞ筋トレ2年生

兼崎 徳子

皮下脂肪の塊のセルライト。なぜか女性の腹部臀部にできやすい。血流が良くなれば皮下脂肪がよく燃えて消えるらしい。筋トレで血流が良くなって消えたらイイね！

## サムライの兜世界に知れ渡る

坂本 加代

米大リーグ・エンゼルスで、ホームランを打った選手が兜を被るパフォーマンスが始まった。あのオータニさんも被ってその映像が世界中に流れ、兜も有名になった。

## 親心息子家族の苗も植え

田賀 八千代

菜園に夏野菜の苗の植え付けをするとき、息子の家用の苗も一緒に植え付けてやった。「余計なことを…」と言われるのは分かっているが、これが親心。

## 何気なく書いていた字がわからない

成田 雨奇

最近はいろんな連絡を、スマホやパソコンのメールですることが増えた。手書きすることが減って、いざ書こうとすると、今までサツと書いていた漢字が書けなくなっていて、啞然とすることがある。

## 有り金が足りそうもない余命表

菊地 政勝

## 着々と預金が消えてゆく長寿

奥澤 洋次郎

寿命が延びているのはうれしいが、あまり長く延びると軍資金が底を突く。痛しかゆしである。

## カレンダーハートマークは通院日

藤原 久直

カレンダーにいろんなマークで予定を記入。通院日はナースさんに会えるので「ハートマーク」。いいですね！

## 匿名の投書よはしやぎ過ぎないか

西田 美恵子

SNS上での誹謗中傷は目に余るものがある。匿名性を悪用した、はしやぎ過ぎに網を掛けられないものか…。

## 過疎化して猪鹿猿の取る天下

杉野 羅天

都市部への人口集中などで過疎化している地域を「元々ここは俺たちの領分だ」と、野生の猪や鹿や猿が跋扈している。

## 白い制服目にも涼しげ衣更え

松倉 正美

夏の制服への衣替えは一般的には六月一日。一斉に白い制服に替わると、さっと涼しくなったように感じる。

## 捨てられぬ母とお嫁に来た筆筒

山田 耕治

世は断捨離が大流行り。とは言え、お母さんと一緒にこの家にお嫁入して来た筆筒は、捨てにくい。

乗り継いでのび太のような孫が来る

稲角 優子

「のび太のような孫」が、少しのんびり屋だが、自然や動物が大好きな優しい子を彷彿させて、ほっこりさせられる。

朝一にオータニさんに会うテレビ

堀 正和

BSでも地上波でも、テレビにオータニさんが映らない日はない。WBC以降特に露出度が増したようだ。

現金を知らず育つかキャッシュレス

萩 原 狸 月

コンビニもスーパーも世の中みんなキャッシュレス決済時代。その内に現金を触ったことのない子どもが出て来そう…。

声だけは美魔女に負けぬ自信ある

山下 じゅん子

女性方の電話の声は、普段の話声より一オクターブは高くなっている。美魔女に負けないのも当然である。

ちよっと待て戦する気が防衛費

石田 隆 彦

我が国の防衛費は、今でも世界10位の金額。それを増額すると言う。我が国は専守防衛体制なのに、増額が必要？

安全だと言えば言うほど神話めく

大久保 眞澄

あれほど「原子力発電は安全」と言い聞かされていたのに、あの福島原発事故。あれがトラウマになって、以後は「安全です」と言われれば言われるほど、眉に唾して聞くようになっていく。

レジの機械化客の仕事が増えている

大川 桃 花

自分で商品のバーコードを機械に読ませ計算するセルフレジ。確かにお店の人減らしには効果があるだろうが、その分お客の仕事は増えている。

長生きの秘訣を喋る歳になり

川 端 一 歩

健康に留意されて、今では長寿の秘訣をお話されるほどのお歳になられたとか。長寿おめでとございます。

あふれるほど子供居たのにはあれは夢

古今堂 蕉 子

「昭和二十年代後半から三十年代には、都市部の小中学校では、一学年の生徒数が五百人以上というのがざらだった」なんて話をして、今どきの若い人には通じないだろうなあ…。

角とれてつまらなくなる老いた鬼

横山 里子

仕事に真正面から取り組み鬼と言われたい年齢には勝てず、角が取れて並の人になる。今一度昔の元気を見たいもの。

打ち易い杭を選んで憂さ晴らす

太田 昭

憂さ晴らしは手当たり次第ではなくて、叩きやすいヒトを集中して叩く。パワハラの原因ここにあり。

監督を褒めて貶して見るテレビ

水野 黒 兎

褒めようが貶そうが、相手が文句を言ってくる心配のないテレビ観戦。ビール片手に見る。これに勝る楽しみはない。

人連れて散歩させてる犬ばかり

西村 哲 夫

朝夕の犬の散歩。飼い主は犬を散歩させている気だが、その立ち姿から、犬に散歩させられているようにも見える…。

お断りしたい線状降水帯

森 松 まつお

地球温暖化によるものか、線状降水帯とやらによる豪雨が続く梅雨。シトシトと静かに降った昔の梅雨が懐かしい。

# 水煙抄鑑賞

—8月号から

大石洋子

長く続くコロナ、その余波の中で生きる人の感情を掬いとつている句から、  
**お若いね言われマスクを外せない**

村上和子

マスクをはずした顔を見て「えっ」と  
思うのは人それぞれ。

**気に入らぬマイナカードの顔写真**

山本百合

**釣り銭を駄賃にできぬキャッシュレス**

齋藤奈津子

マイナカードの不具合が問題になっているが、顔写真のほうに気になる。ちぐはぐなずれた視点がおもしろい。そしてアナログ生活者はキャッシュレスに戸惑う。小銭が手に残らずチップはどうするかしら。いらぬお世話かな。

健康オタクの評者にとって気になる句をあげてみる。

あと何歩足りぬと責める万歩計

石賀邦子

摺り足は認めてくれぬ万歩計

鈴木たけし

長生きのおまけカルテが重くなる

吉道あかね

データに振り回される世になった。健康診断の細かな数字、カルテも重くなり数値がならぶ。それらもコンピュータに取り込まれてはいるが。ウォーキングの万歩計は元気な歩数しかカウントしない。私は歩いているのにと摺り足がうらめしい。元気でおらねばと強迫観念にとられる。

日常生活を掬いとつている句をみる。

「ここだけの話」の効果一時間

前田廣幸

ようかんに免じて耐える長話

滝井えみこ

損ばかりしている気する室外機

中筋弘充

大切に過ぎる賞味期限切れ

裕木るい

血の巡り良くなるサブリ飲み忘れ

室田行久

日々の営みのなかの発見を、巧まらずしてユーモアでコーティングしていると思う。「あのね」で始まる噂話、そして長話。人間関係を大事にするための方法である。室外機にいたっては、窓際族の悲哀を感じる。外で風雨に耐えているが、あまり気にとめられない。評者は時々、やさしく拭いてやる。そして余命短くなる世代、サブリで身体を整え、後腐れないよう生きていきたいものだ。

一番身近な社会、家族についての句で  
**お互いの思い違いで良い夫婦**

宗和夫

私の好きなちよつと壊れているあなた

長尾千賀

なんやかやあって金婚いと嬉し

藤岡笑三

金婚式を迎えるぐらいの夫婦なら、なんやかや、思い違いもちよつとくらいの不都合も、補い合つてやっていくものです。ほのぼのとしたものが見える三句でした。

発見のある、ハツとした句をつくつていききたいものです。



こんな私です (1)

川柳の素材は宇宙の果てから海の底まで無限にあります  
が、いちばん身近なのは自分自身です。人間は面白い生き物  
で、何の変哲もない日常の暮らしても、五七五にまとめて改  
めて眺めてみますと、多くの人が「ああ、私も一緒！」と共  
感できる滑稽さがあちこちにあります。

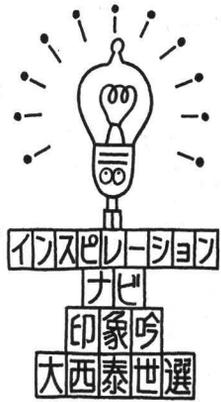
省エネになると思つて朝寝する  
孤独でも気楽さがあり朝湯あり  
寝転んでテレビ体操見えています  
結局はゴロンとテレビ見る日課  
瞑想が居眠りになる日向ぼこ  
居眠りをするど涎が出てしまう  
あれやこれ万事昼寝のあとのこと  
ちよつと後ろめたい気をする「朝寝」ですが、「省エネの  
ため」という大義名分を胸に掲げると気が楽になります。  
ゆつくり朝湯にはいるのも、寝転んでテレビ体操を見るの  
も、ゴロンゴロンとテレビばかり見ているのも、日向ぼこ  
この縁側で涎を垂らしてウトウトするのも、誰に遠慮も要ら  
ない自宅であればこそ。面倒なあれやこれやの俗事雑事は昼  
寝をしてスッキリ頭が冴えてからのことです。

三食昼寝規則正しい余生です  
一服の時間が一日中続く  
一日中豆電球をつけたまま

安土 理恵  
都倉 求芽  
高杉 千歩

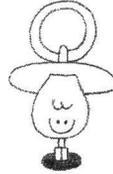
起きてから寝るまで続くひとり言  
紫 しめの  
悩み事ともかく寝よう朝が来る  
岡本 昇  
余力ないが安眠力という宝  
門村 幸子  
寝て待っているがなんにも届かない  
中居 善信  
規則正しく頂戴する三食に加えて昼寝まで付いているとは  
贅沢な限り。また、一服の時間が一日中続いて、ずっと豆  
電球を点けていても、朝からブツブツ独り言を言っているも、  
誰からも苦情が出ないのは恵まれた環境でしょう。  
昼寝もいいですが安眠できるのは夜です。睡眠障害もなく  
グッスリ眠れる「安眠力」も実力の内。しかし、「果報は寝  
て待て」という諺通りにはなかなかありません。

目薬をさして朝から用はなし  
久保田千代  
机の前に座ると眼鏡拭いている  
石田ひろ子  
散らかった机の上もわたし流  
黒田 能子  
ひとり住む気ままな旅の日のごとく  
笠嶋 惠美  
歯ブラシのヘタリ私になつている  
川名 洋子  
世間から見ればオイラは紛い者  
丹下 凱夫  
善人を装うことは自信ある  
奥 時雄  
目薬をさしてスッキリ、気持ちの良い朝ですが、格別に急  
ぐ用事ありません。「さて、作句でも」と机の前に座つ  
てもすぐに集中できるわけもなく眼鏡を拭いているだけ。  
机の上が散らかっているのも、気ままな旅の如き呑気な流  
れの中のこと。歯ブラシのヘタリ具合も「私と似ている」  
と思えば、すぐに買い換える気にもなりません。  
このような、紛い物のような私ではありますが、法律を守つ  
ていつもニコニコ、一応は善人のフリをしています。



(投句 170名)

全選手入場行進有り、声出し応援有り、プラスバンド有り、の高校野球入場式を初めて最初から最後まで、じつくりと観ていました。



今まではテレビをつけて何かをしなが  
ら、が多かったので結構新鮮でした。  
通常通り行われたのは四年振りとか、コ  
ロナで奪われた期間も長かったけど、こ  
の異常な暑さを置き土産にされたように  
思うのは私だけでしょいか。それでもや  
はり選手たちの汗や涙を見てみると、夏っ  
ていいな、と感じずにはいられません。  
では、ナビを。

米子市 池田 美穂

どうなるのマイナカードという鼻輪

(評) あれつて鼻輪なんですわね。それに  
しては鼻輪を付ける相手があやふやだな  
んで、失礼しちゃうわ！

松江市 石橋 芳山

いい加減辞めたらどうだお前さん

(評) 誰に対してのお言葉でしょうか。  
思い当たる顔が多すぎて困りますすけど。  
エッ、お前もだ、なんてご無体な。

大阪市 森田 遊子

夏帽子似合うかなんて三の次

(評) この暑さの前では、似合うか似合  
わないかなんて、ゼイタクな話。まず命  
を守らねばなりません。

大阪市 小野 雅美

この指にとまれ淋しくなる前に

(評) 誰も指にとまってくれなければ淋  
し過ぎますが大丈夫、きつとあの人も此  
の人も来て安心させてくれるはず。

尾道市 小川 道子

マネキンと似ても似つかぬ同じ服

(評) マネキンが着ていてステキと思っ  
ても、いざ自分が着てみるとアレれなん  
てことはよくあることで御座候。

広島市 羽城 裕子

手土産にいただきました牛一頭

(評) 豪勢な手土産と喜びたい所ですけ  
ど、いただいた後はどうしますの？ 飼い  
ますの？ 食べますの？

奈良県 長谷川 崇明

権力を握ると耳に蓋をする

(評) 自分だけは絶対にそうはなるまい  
と堅い決意をしても、なるんですって、  
こんな風に。権力ってコワイ！

和歌山市 北原 昭枝

風鈴が涼しい風をつれてくる

(評) 一見、何気ない日常の風情ですけど、  
今や音がうるさいなどと近隣から苦情が  
出るそう。ああ、世知辛い。

河内長野市 大島ともこ

おめでどう天国行きが決まりです

(評) 喜ぶべきかどうか迷っています。  
地獄よりは天国の方がいいようすけど、  
やはり自分の目で確かめないとネ。

神戸市 興水 弘

闇の指示中村主水出番です

(評) 巨大悪がはびこる今だからこそ、  
必殺仕事人、仕置人にお出まし願いた  
いです。実在なら大繁盛間違いなし。

箕面市 大浦 初音

ソロキャンプランプ頼りにすこす夜

なんにでも変身くらいできますわ  
特大の真珠より輝く涙  
和歌山市 柏原 夕胡

和歌山市 柏原 夕胡

ランタン明かりへ虫が寄ってくる

今治市 永井 松柏  
蛭雪の功成り難し夜学の灯  
堺市 澤井 敏治

堺市 澤井 敏治

ぼくは影武者本物は地下の基地

生駒市 齋庭 風鈴  
朝が来たやる気スイッチます  
笠岡市 藤井 智史  
吊り革にお疲れさんをぶら下げる

大阪市 平井美智子

わたくしの顔がわたしの身分証

黒石市 北山まみどり  
輪っかならすべて指輪にいたします

那覇市 宮 すみれ  
ブランド牛自慢の鼻にメダルかけ

米子市 後藤 宏之  
電灯をつけてもらって生きのびる

大阪市 石橋 直子  
虫食べる時代すぐそこどうしよう

高槻市 初代 正彦  
エアコンもいいが気になる夏太り

札幌市 居谷真理子  
五輪塔は洗いにくいよ先祖様

大阪市 江島谷勝弘  
雀たちこんなかかしも居るんだよ

札幌市 三浦 強一  
不精髭とお別れをしたノーマスク

羽曳野市 黒木ひとみ  
涼しげな白い器の茄子の色

大阪市 奥村 五月  
二刀流父も負けじと酒と菓子

津山市 高橋由紀女  
同情は胸のポケットに入れておく

枚方市 藤田 武人  
銀紙でふわっと豆球を灯す

生駒市 飛水ふりこ  
黙祷の手前少しはお静かに

松山市 柳田かおる  
自画像にすれば可もなく不可もなく

河内長野市 森田 旅人  
折り合いをつけて生きよと送りだす

大阪市 古今堂蕉子  
一人に一つです並んで下さい

三田市 多田 雅尚  
ひもづけにされた私は何処へ行く

尼崎市 藤田 雪菜  
ラジオ付きライトを枕元に置く

熊本市 杉野 羅天  
くつろぎはランプの色で取つて

枚方市 栃尾 奏子  
宝石も金貨も要らぬ羊飼い

松山市 郷田 みや  
寝た振りも知らない振りも得意です

倉吉市 牧野 芳光  
逆立ちをしても何にも変わらない

吹田市 山本希久子  
大雨予報命の浮輪探さねば

佐賀県 真島久美子  
夏帽子アンリ・マティスに逢いにゆく

西宮市 福田 正彦  
軽井沢熊除け鈴を持たされた

豊中市 藤井 則彦  
マイナカードどこへ置いたかもう忘れ

大阪市 宇都満知子  
夜店のテント裸電球まぶしくて

松山市 栗田 忠士  
知らんぷりそれが一番応えます

富士見市 中島 通則  
中吊りにそそられて買う週刊誌

可児市 板山まみ子  
日の当たたる場所も歩いてみたかった

三田市 北野 哲男  
大ボスは隠居の顔で取り仕切る

鳥取市 福西 茶子  
この指輪少し大げさ過ぎないか

三原市 笹重 耕三  
爺ちゃんの苦勞話は聞き飽きた

和歌山市 定松 宏枝  
おしゃべりな妻を黙らす新兵器

寝屋川市 廣田 和織  
首の皮一日一度確かめる

西宮市 福島 弘子  
閉め忘れピーピーと鳴る冷蔵庫

神戸市 富永 恭子  
良くも悪くも動じない葦でいる

羽曳野市 徳山みつこ  
天候異変に牛馬も耐えている

東大阪市 佐々木満作  
傘寿です健診全て範囲内

神戸市 近藤 勝正  
謹んで御先祖さまをお出迎え

河内長野市 穂口 正子  
綿毛吹き花の妖精肩に乗せ

### 11月号発表 (9月15日締切)



(平本 霧石人 画)  
柳箋に2句

# 本社 八月旬会

◇八月十日(木)午後一時  
アウイーナ大坂

猛暑真つ只中の10日、8月旬会は、108名(うち投句者23名)の参加で開催された。初出席は三田市の松下英秋さん。

今月のお話は鈴木いさおさん。題は「先達のユーモア句」。これまでユーモア句シリーズをパートⅢまでご紹介くださったが、今回は先人の句を中心としたお話だった。

かまほこの色で会費の高が知れ  
羊羹のこでもめてる老夫婦  
二合では多いと二合飲んでいる  
七福神みんな笑うと気味悪し  
うまく行った話へ傘を忘れて来  
葬式で会いほろいことおまへんか  
正直に粗品と書いてある粗品  
ようきいときやと妹ついでに叱られる  
素うどんへ何ですかとは何ですか  
締めは、ご自身の句

なみなみと検尿カップへ注ぎ込む  
最後まで楽しんでいただきました。

(眞澄)

月間賞は鈴木いさおさん(藤井寺市)  
(司会 武人・真理子(協取)勝弘・志津子)  
(受付)寿之・志津子(懸垂幕墨書)耕治)  
(清記)憲彦・勝弘・国和)

席題「車」 析尾 妻子 選

高速で素うどん食べに行くペンツ  
愛犬がでんと乗ってる乳母車  
リンちゃんという名の自転車で今日も  
自転車も危ない歳になってきた  
万博で空飛ぶクルマ夢はこぼ  
歯車もたまには少し目立ちたい  
小麦畑踏み散らかして行く戦車  
歓声も乗せて園児のバスが着く  
成田山のお札をつけて娘の新車  
おぼちゃんの馬力は凄いいホンコッ車  
大阪は何処へ行くのも乗る市バス  
バスター止まるたんびにとる写真  
車検したらゴルフボールが付いてきた  
大臣へお車代と二百万  
トラクターで良ければ乗せてあげますよ  
猫載せて曇天を待つ車椅子  
高級車乗ってユニクロ着ています  
ライバルの赤いボルシユが癪の種  
炎熱の地獄だ置き去りの悲劇  
クラクション鳴らして化粧急かされる

山崎 武彦  
柿花 和夫  
居谷真理子  
新家 完司  
阪本 秀子  
高杉 力  
鈴木いさお  
初代 正彦  
柴本ばつは  
萩野 浩子  
坂 裕之  
平松かすみ  
内藤 憲彦  
鈴木いさお  
川上 大輪  
稲葉 良岩  
青木ゆきみ  
新家 完司  
坂上 淳司  
山田 耕治

カーナビを裏切っている夏の恋  
助手席がカーナビよりもよく喋る  
ストレスも混せて下さいミキサー車  
青鬼も赤鬼も居る終電車  
カーセンターの前から植木消えたまま  
いいじゃない九十歳が新車買う  
車線変更してもあなたに追いつけぬ  
微笑めばほほえみ返す乳母車  
ちよつと待て車乗る人乗せる人  
あのボルシユ僕のマンションより高い  
自分しか頼りに出来ぬ一輪車  
漕いでいる時は倒れぬ一輪車  
口車両手に欲をさげて乗る  
未知数の未来へ回る観覧車  
家持たず結婚もせずジャガー買う  
お隣は奥様ベント見当たらぬ  
わくわくとかほちゃの馬車待っている

平井美智子  
内藤 憲彦  
初代 正彦  
木嶋 盛隆  
油谷 克己  
奥澤洋次郎  
木本 朱夏  
山崎 武彦  
中村 恵  
森松まつお  
川端 六六  
川端 六六  
梶谷 和郎  
川端 六六  
山野 寿之  
鈴木 栄子  
加藤江里子  
萩野 浩子  
住  
助手席にピアス私の果たし状  
告白を諦めた日の弱冷車  
車間距離とつて夫婦を演じ切る  
お寺さん軽と外車を使い分け  
押すのなら得意なんです横車  
車座になって他愛のない話  
地  
乳母車押した娘が押す車椅子

新家 完司  
酒井 健二  
小野 雅美  
島田 明美  
今井万紗子  
島田 明美  
宗 和夫  
新家 完司  
酒井 健二

癒えるまで雨が止むまで風車  
山野 寿之

助手席のこの髪の毛は誰のです  
軸

兼題「シヨック」 長谷川崇明 選

鱧重の鱧一切れ落とす箸 江島谷勝弘  
老い進む朝の鏡を見るシヨック 大内 朝子  
靴下もパンツも起つてもうはけぬ 吉村久仁雄  
川柳よりデイサービスが良いと友 米田理恵子  
ジャングルで日本負けたというチラシ 川本 信子  
一合で千鳥足とは情けない 北野 哲男  
去年まで五分で来れた坂なのに 石田 孝純  
翔平と聡太を悪く言うなんて 岸田 万彩  
肩に腰ととうと膝まで音を上げた 島田 明美  
軋けたら起きる腹はすっかり座つて 酒井 健二  
張り込んだワインなんだか酢の匂い 青木 隆一  
歯がポロリあの世へ一歩近づいた 居谷真理子  
三年ぶり逢つた息子の女装癖 木本 朱夏  
結弦くん私を捨ててゴールイン 内藤 憲彦  
AEDシヨックで救うひと命 新阜 義明  
ゴミ出して帰つてみればあれっ空菓 山下じゅん子  
あの世から招待状という話 小山 紀乃  
シヨッキンクピンク似合つてきた傘寿 西出 楓楽  
大嫌いな上司が社長になる噂 敏森 廣光  
シヨックなど受けぬ気丈な不動心 阪本 秀子

夫より私の方が老けていた  
上田ひとみ  
気球で散歩体重過多で断られ 柚木 涼子  
八十五歳かなりしんとい歳と知る 森 廣子  
ジャンボ籤当ててシヨック死してみたい 鈴木いさお  
トリチウム海洋投棄するまさか 奥澤洋次郎  
悪運に枕を濡らす痛告知 山野 寿之

泡立ち草だけが生える世紀末 山崎 武彦  
1寸まで私を裏切ろうとする 大久保真澄  
落ちていて聞いて下さいいネと主治医 島田 握夢  
スリッパのシヨックごきぶり気絶する 油谷 克己  
満腹になったら消えていたシヨック 川上 大輪  
賭け事はせぬが女は好きだった 古今蕉子  
認知かな二階へ何をしに来たか 川端 一歩  
エンディングノート墓は別に書いてある 今井万紗子  
けつまずきまじまじ見返した段差 宇都満知子  
歳だから車やめると子に言われ 森田 旅人  
ばあちゃんに階段の途中追い抜かれ 森松まつお

兼題「戦う(闘う)」 森田 旅人 選

日本のロケット北に負けている 村田 博  
母臨終光るもの見た父の眼に 柴本ばつは  
ひとりでは背中に貼れぬサロパス 山崎 武彦  
真相がみえるにつれて増すシヨック 藤村 亜成  
ちよつとした助言バワハラだと言われ 小野 雅美  
人  
円安で二の足を踏むパスポート 柚木 涼子  
地  
ライバルはお肌年齢三十歳 加藤江里子

カルチャーシヨック受けて戸惑う帰国子女 鈴木いさお  
えっほんま信じられへんウソでしよう  
軸

あどけない笑顔でかけに来た王手 栃尾 奏子  
誘惑と戦う帰路の縄のれん 萩原 狸月  
モスクワは地図では遠くありません 仁部 四郎  
きつと神は望んでいないのにに戦 片山かずお  
闘いを避けた時から老いてゆく 今村 和男  
猛烈な暑さを生きている戦 大内 朝子  
灼熱の激闘称う甲子園 福田 正彦  
意義ある一試合だった胸を張る 青木 公輔  
自分との戦いだった遍路旅 松岡 篤  
どの局も昨日も今日もシヨウタイム 平松かずみ  
さあ来いとジャブを繰り出す仔カマキリ 谷口 東風  
飼い猫が虫と闘うのどかな日 加藤江里子  
腰痛をなだめて雑草に挑む 油谷 克己  
ナースコール今日も戦場鳴り響く 今井万紗子  
教室で睡魔と戦うヤングケアライ 矢倉 五月  
子の部活麦茶を沸かす猛暑の日 青木ゆきみ  
レギュラーになった闘う眼になった 小島 蘭幸  
歩道橋に挑戦をする万歩計 柿花 和夫  
物忘れと戦つてます必死です 内藤 憲彦  
老いという敵がどんどん攻めてくる 敏森 廣光  
闘いの道は三途の渡しまで 奥澤洋次郎

花から花へうちの夫はタフな蜂  
逃げないで目の前のことやつつける  
貧困と闘う国に引く水路

古今堂蕉子  
上田ひとみ  
村田 博

天  
両の手をあげて戦う呱呱の声  
津守 柳伸

熱闘を冷房効いた部屋ごめん  
闘病の友を励ます一行詩

川端 一步  
鈴木いさお  
稲葉 良岩

兼題「遠い」 内藤 憲彦 選  
身構える素振りでシャドーボクシング  
遠雷はきつと遙かなウクライナ  
遠くなるヒロシマ泣いている記憶  
病室へ遠い踊りの囁し歌  
義理人情も遠く離れるデジタル化  
猛暑続き古里の墓遠くなる  
花の下遠くの水は甘く見え  
理想には遠いが米寿まだ元氣  
あのとさも汗だくでした八月忌  
CMの化粧をしてもほど遠い  
遠い耳オレオレ詐欺も根気負け  
遠ざかるテールライトで終わる恋  
78年遠い祈りの八月忌  
原爆の悪夢は遠い過去じゃない  
きのうよりさつきが遠い物忘れ  
遠くても心は飛んで帰れます  
もしかして逢える予感へ遠廻り  
大文字恋の疼きも遠くなる

闘病の日記の藪が語り出す  
前線に行かぬ政治家勇ましい  
ファイティングポーズ崩さぬウクライナ  
古稀の妻ボクシングジム通い出す  
半世紀妻との戦い脱ぐ  
猛暑日と闘う武器は濡れタオル  
ファイティングポーズだけならまだ出来る  
地球儀に地点とある紛争地  
戦闘服クリーニングに出してます  
神を説く父の戦はまだ癒えず  
ヤイひ孫戦に遭わぬ生涯を

平賀 国和  
村田 博  
柚木 涼子  
西上 遊二  
新家 完司  
小島 蘭幸  
木本 朱夏  
高杉 力  
澤井 敏治  
酒井 健二

兼題「遠い」 内藤 憲彦 選  
遠い日のお寺の裏のかくれんぼ  
しばらくはスマホ遠ざけ知る自由  
神童と錯覚された日もあつた  
月旅行行ける気がする頑張ろう  
二円差のチラシで遠いスーパーへ  
遠い国の戦争よりも歯の痛み  
遠いと思つた白寿見えてきた  
十万億土歩く足腰鍛えとく

万歳の蔭で赤紙握り締め  
老化とのバトル死ぬまで諦めぬ  
星が降る無駄な戦火を消すように  
五十年生命を削る拉致家族  
夏野には老いと闘う吾亦紅

藤田 武人  
新家 完司  
川端 六点  
内田志津子  
平井美智子

兼題「遠い」 内藤 憲彦 選  
世界との瞬時つながるLINE凄  
三才児お月さんにはうさぎ住む  
遠い日に戻れば母の塩むすび  
待つ程に遠くて近い子の便り  
ジスイズアベンのままです英語力  
利尻礼文一度は行ってみたいといこ  
駅までの5分が遠い炎天下  
すいとんをおいしく食べていた昭和  
アレはまだ遠い熱闘甲子園  
遠い日のお寺の裏のかくれんぼ  
しばらくはスマホ遠ざけ知る自由  
神童と錯覚された日もあつた  
月旅行行ける気がする頑張ろう  
二円差のチラシで遠いスーパーへ  
遠い国の戦争よりも歯の痛み  
遠いと思つた白寿見えてきた  
十万億土歩く足腰鍛えとく

闘病の妻の腰もむ眠るまで

澤井 敏治

兼題「遠い」 内藤 憲彦 選  
名優もはじめ通行人だった  
遠い日の記憶へ絵本繰るように

閃光の怖さ知ってる戦中派

柴本ばつは

兼題「遠い」 内藤 憲彦 選  
遠い日の記憶へ絵本繰るように

地

片岡 加代  
谷口 東風  
森松まつお

兼題「遠い」 内藤 憲彦 選  
遠い日の記憶へ絵本繰るように

地

萩野 浩子

兼題「遠い」 内藤 憲彦 選  
遠い日の記憶へ絵本繰るように

地

川端 一步

兼題「遠い」 内藤 憲彦 選  
遠い日の記憶へ絵本繰るように

天

真珠湾ヒロシマ遠くしてならぬ 西出 楓葉

軸

スイカの種飛ばし昭和の話など

兼題「責任」

古今堂蕉子 選

怒りながら謝罪している無責任 内藤 憲彦

責任者問うてないのに言いたがる 冨永 恭子

襲名の重責がある歌舞伎界 北野 哲男

酔い醒めの水に責任知らされる 米田理恵子

お品書き時価と書き換え玉子飯 仁部 四郎

責任は背負う覚悟の理想論 吉村久仁雄

責任がないと分かるとよく喋る 西上 遊二

責任があるようでない副総理 澤井 敏治

責任をバカ正直に背負い込む 油谷 克己

全うせねば死ぬこの世に受けた生 藤村 亜成

継ぐ者が無く丁重に墓仕舞い 坂上 淳司

辞任して禊と言つて立候補 藤田 武人

そろそろの気がして予定空けてます 長谷川崇明

説明責任果してますか総理殿 山崎 武彦

曖昧語使いこなして責任者 酒井 健二

酔つたつて割り勘なんぼびつたんこ 敏森 廣光

突然に責任取つてよと彼女 藤田 武人

責任は賽銭箱に入れてきた 川上 大輪

何にでもレモンをかける無責任 高杉 力

責任の所在どこかで隠れんぼ 水野 黒兔

責任の見える仕事の町工場

声高に責任を問うワイドショー

責任を果たしさと野に下る

熱中症自己責任で行くゴルフ

責任をたらい回しの会議室

感謝して親を叩うのも務め

責任はとりまますアタマ丸めまます

責任感だけはまだあるどっこいしょ

絶対に要る親になる免許証

夢持てぬ未来に産むの無責任

責任のない孫猫つ可愛がり

ついて来いあの時責方言つたよね

責任上払いますすわよ美人税

二次会へあぶない人は誘わない

責任は僕でないよとシユレッター

子報士に「暑さなんとかならんのか」

責任逃れの言い訳ドミノ総崩れ

三度ほど角を曲がれば無罪なり

佳

私にも責任地球沸騰化

丈夫に生んでやれなかつた泣いた母

纏まらぬマイナカードの無責任

古い独り自己責任で生きている

秘伝のたれしつかり守る四代目

人

責任の重さ理事長の重さ

森田 旅人

宗 和夫

鈴木 栄子

斎藤 隆浩

奥野健一郎

宇都満知子

木本 朱夏

片岡 加代

内藤 憲彦

出口セツ子

西出 楓葉

中井 萌

居谷真理子

江島谷勝弘

長谷川崇明

大久保真澄

柚木 涼子

島田 明美

森田 旅人

島田 明美

森 廣子

山本加お里

上田 和宏

小島 蘭幸

地

世が世なら切腹ものもいる議員 西出 楓葉

天

良い声で啼くカッコの無責任 谷口 東風

責任者出てこいばやいているよ私らも

軸

兼題「自由吟」

小島 蘭幸 選

年二回ほどよい頃に孫が来る 東 定生

一日でいい娘の家で泊りたい 宮崎シマ子

聞こえないフリして後期我を通す 片山かずお

無茶暑い四分の三はセミスード 川本 信子

ブーチンを火あぶりにする百日紅 岸田 万彩

モーニングサービスに笑顔はいかが 太田 昭

正直に生きよう蟹の横歩き 今村 和男

創立百年そんな母校の椅子を恋う 青木 公輔

親が子に旅行をねだる盆休み 出口セツ子

銭湯にビールサーバー 抜け目なく 中井 萌

ほいほいと笑顔取り出す小銭入れ 川端 六点

大谷のすごいところはあの笑顔 居谷真理子

曾孫でき夫の痛が小さくなる 柴本ばつは

戦争はハブニングじゃあ起こらない 内藤 憲彦

生きることだけを見つめる40℃ 澤井 敏治

鍵括弧はずれたシャボン玉とんだ 栃尾 奏子

足りないを探して今日も眠られず 中村 恵

今年また設定温度採めました 中井 萌

令和5年度

奈良県大芸術祭・奈良県障害者大芸術祭 参加  
第94回 奈良県川柳大会(誌上大会)

昨年度に引き続き誌上大会として実施いたします。

◎宿題及び選者(各題2句)

「糸」	山野 寿之	選
「追う」	木村 利春	選
「ずっしり」	沖本 万喜	選
「兆し」	飛永 ぶりこ	選
「極意」	乙部 美鈴	選
「いのち」	島岡美智子	選
「ゆらゆら」	福井 成子	選

◎締切 令和5年10月3日(火) 必着

◎会費 1000円・定額小為替(切手は不可)

◎投句用紙 指定用紙(コピー可)

◎投句先・問い合わせ先

〒631-0002 奈良市東登美ヶ丘2丁目14-9  
播本 英二 宛  
(TEL 090-5659-7130)

第54回 奈良新聞川柳大会(紙上大会)

昨年度に引き続き紙上大会として実施いたします。

◎宿題及び選者(各題2句)

「ニュース川柳」	吉富ひろし	選
「家」	北谷 敦美	選
「かた い」	大久保真澄	選
「かたち」	更谷 風見	選
「したたか」	米田 恭昌	選
「ストーリー」	阪本 高士	選
「急に」	田中 薫	選
「牙える」	田中 新一	選

◎締切 令和5年10月10日(火) 消印有効

◎会費 1000円・定額小為替(切手は不可)

◎投句用紙 指定用紙(コピー可)

\*黒ペン、黒ボールペン使用のこと。  
鉛筆・消えるボールペン不可。

◎投句先・問い合わせ先

〒630-8686 奈良市法華寺町2番地4  
奈良新聞社 企画部  
事業ユニット「川柳大会事務局」係  
Tel 0742-32-2115  
fax 0742-32-2774

暑すぎて行く気になれぬ軽井沢  
屋久杉の言霊ならば信じよう  
老化現象律義にこの身攻めてくる  
締め切りがあるから乗り切れる猛暑  
捨てるもの棄てて人生八合目  
ゲン削除さえることなき全七巻  
いい目覚め今日の私に賭けてみる  
朽ちるまで真つ赤に咲いていたいバラ  
ほろ酔いが皆を優しい人にする  
四季咲きは優しい女の花屋敷  
このまんま会えないかもと駅の風

宗 和夫  
奥野健一郎  
内田志津子  
荻野 浩子  
木本 朱夏  
加藤江里子  
梶谷 和郎  
初代 正彦  
酒井 健二  
山野 寿之  
片岡 加代

星からも打ち上げ花火見えますか  
追伸と書いたセミコロも書いた  
素顔という仮面も一つ持っている  
十五日党派を超えて黙祷す  
雷にお手上げだったひげの祖父  
苦も楽もAIなどに渡さない  
猫が居てロマン溢れる港街  
夫婦して熱中症で三日寝る  
アルバムの中しか登れない穂高  
すこうし好きですうと好きで空は青  
佳

小野 雅美  
藤田 武人  
加藤江里子  
川端 一步  
柴本ばつは  
居谷真理子  
木嶋 盛隆  
山下じゅん子  
鈴木 栄子  
平井美智子

日光のねむり猫にもあるノルマ  
またねって言って別れた人なのに  
狂いそうな猛暑へひまわりの黄色  
起こさないでたたいま夏眠中ですの  
地 人  
猛暑日の焼酎のあてガリガリ君  
天 新家 完司  
猛暑の広島忌雨の長崎忌  
軸  
天職と生きた十指が美しい  
鈴木いさお

# 空をぬぐ

毎月24日締切・35句以内厳守  
掲載は原稿到着順となります。  
楷書で誤字のないようにお願い  
いたします。  
編集部

## 竹原川柳会(広島)

## 古田比呂子報

パン作り百回叩きいい粘り  
我が人生足りないものは持久力  
煮つまって子芋が粘る鍋の底  
きつと明日へつながらる粘りだと思ふ  
舗装路の割れ目にタンポポの粘り  
夢あれば明日へ生きて行く勇氣  
突き進む勇氣に優る退く勇氣  
延命処置「ノ」の返事をする勇氣  
九十も手術と聞いて勇氣出す  
ゴメンネを勇氣を出して言う二歳  
ときには空悲しい色に見える梅雨  
戦場の地球は嫌い青い空  
ウクライナの空が晴れる日待つ地球  
ウクライナ平和の空が遠くある  
ときどきは空を見上げる僕の詩

弘子 京子 栄香 蘭幸 敬子 夢香 昭紀 輝恵 節生 和子 千代美 節夫 慶子 日出夫 白狐

人生に青空ばかり求めない  
桜散る空に天使がいるように  
大自然シアター空はスクリーン  
怒つても堪えない次女に苦戦する  
両眉がビツタリ描け今日良き日  
若い人の意見素直に聞いておく  
食糧危機イモ植える日を考える  
八十八健康自慢の同窓会  
心配の糶三男は自由人  
かみさまはわるいことしたら見えます  
小三 沙弥  
げんかんでだんごむしとにらめっこ  
小二 央

## 富柳会(富田林)

## 山野寿之報

夏山に星のシャワーが降り注ぐ  
ふる里で土を守ってくれる友  
真四角の空を眺めて書く日記  
夕焼けの彩がわたしに染みていく  
富士山が世界遺産の十周年  
あり過ぎる暇買ひ取り手いませんか  
夏山に登れば思う老いの坂  
満天の星山小屋を独り占め  
沈まない太陽母のいた故郷  
手に馴染む土ほぐす音歎任せ  
夏山のメモリー禿びた登山靴  
人と人心耕す笑みと笑み

由夏 和子 武人 恵 正義 義明 一文 寿之 かこ 高鷲 壽峰 由子

日常を忘れ眼下に夏の峰  
大中小記憶の壺の過去未来  
うっかりの言葉足らずで自己嫌悪  
太陽は輝く炎野心消す  
シナリオは孫の手紙に微笑んで  
マイナナーンパー思惑走り手抜き見え  
頑張ってダンス踊ると更に山  
コンサート開幕前の心地よさ  
反戦歌ふつと吹き込む紙の鶴  
芸術を回してこけし生む匠  
手話の友ラインで弾む意思疎通  
耕すとミミズぞわぞわ肥えた土地  
この地球耕す心荒れ果てて

## 川柳塔みちのく(青森)

## 稲見則彦報

ぼろぼろと手からこぼれる悲しみが  
食べ物でワタシ長生きできますか  
自粛三年人間関係失調症  
鳩笛を吹くと小鳥が唄い出す  
後悔はしねけど反省はするよ  
その視線オンザロックでいただきます  
後悔は先に立たない不勉強  
賽銭も入れずひたすら願を掛け  
あれもこれもなんでも受ける浅はかさ  
浅はかかわい孫のくちげんか  
浅はかな事なんですよ戦争は  
分別のない人となら付き合わぬ

澄子 龍馬 ふさゑ 霜石 和香子 規子 義明 一呑 真由美 隆樹 重虎

健康器具買ったはいが三日坊主  
検診の前日だけが休肝日

美 鈴  
ひろ

未来図もないまま闇のプロポーズ  
浅はかな文字が踊っていた日記

則 彦  
柳 子

ポイントにおおられ乗っかりだまされる  
新参者が大口たたく浅はかさ

孝 子  
初 枝

バカですぬ大事な人をクビにして  
とりあえず謎の行列ついでみる

吹 喜  
風来坊

朝帰り開き直ったのが裏目  
浅はかな返事で返すイエスマン

慕 情  
ひとし

浅はかな自分を責める茶の苦さ  
強がりも慕情もあってみんな僕

洋 子  
のぶよし

川柳塔打吹(鳥取)

齊尾くにこ報

ネクタイを外し本腰仕事する  
雑念が入り階段踏み外す

悦 子  
芳 光

盛り場の外れに僕の秘密基地  
しとしとと雨が想像ふくらまず

紀の治  
余 光

休めよとしとしと雨がささやいた  
しとやかに歩けば足が痺れ出す

龍 枝  
貴 子

しとしとと地球こわれる音がする  
しとしとと濡れている無音

宣 子  
美知江

お見舞いの梯子しようか小糠雨  
留守電にしとしと濡れている無音

節 子  
重 利

深い深い海に眠っている大和  
深い傷上書きしたら朝が来た

石花菜  
紀 子

思慮深い人は無意味に騒がない

芳 江

竹田川飛び込み遊んだ深い淵  
雨の日は約束通り一つ傘

久米代  
三津子

深い縁失明の妻見た五年  
日本海深く大きな溝がある

重 忠  
富 隆

温泉街空気までもが味がする  
空気読め沈黙を強いられている

貴 恵  
大 鯨

空気読め文字でないので読めません  
腹筋を鍛える空気吸って吐く

照 彦  
美 千

そして無に空気のような人でした  
空気のおかげ浮雲も飛行機も

完 司  
く に こ

ごちそうは空気ともだちは太陽

正 報

城北川柳会(大阪)

近藤

大らかな友のペースに救われる  
籠らずに歩こう青空を見上げ

朝 子  
賢 子

お日様のスマイル誰にでも注ぐ  
余生です毀誉褒貶の外に居る

克 己  
俊 雄

もらった愛返せぬうちに逝った母  
欲ばらず自分のペース守り今

廣 光  
杵 香

反抗の子にも訳あり怒るまい  
ライバルの転じてにんまり嫌な俺

榮 子  
博 夫

極上の笑顔遺影にとって置く  
仏像はほほ笑み続け千余年

郁 夫  
章 夫

プランコの揺れと昼寝のマイペース  
句会場パワーもらって医者いらす

廣 子  
隆 浩

体力のペース配分握るへそ  
声出して笑えば寿命少し延び

繁 子  
ゆきみ

後藤 宏之選

喝采はいらぬ愚直な土踏まず  
墓参り亡母とアンパン半分こ

許すとは言わず黙ってお茶を出す  
素直になり差し出した手にすがつてる

お帰りも自分で言つて靴をぬぐ  
茶柱よ呼んでる妻が若い声

少女の目覚めか蓮の葉の水玉  
人生に神様の打つ句読点

のんびりの日にも七味唐辛子  
雑草にも名前をつけて声かける

野 霏  
茶 子

拓 治  
多美子

雪 菜  
次 郎

美 晴 日  
和 織

紀 乃  
憲 彦

佳句地十選

(8月号から)

黒田 茂代選

失ったものを数えて老いていく  
筋骨きになかった広い独り部屋

夫婦茶碗歴史を刻む半世紀  
この道と決めて心が軽くなる

引退の美学余力のあるうちに  
核廃絶なせにためらう被爆国

深く根をおろしてここに立つ覚悟  
メールより声が聞きたいから電話

断捨離に忘れ去られた過去がまた覗く  
会つまではいつばいあった話すこと

和 織  
倅 子

凱 柳  
国 和

憲 彦  
克 己

里 映  
春 代

惠 美 子  
千 賀

カボチャ切る時だけ妻はボクを呼ぶ 実

訳ありの身の上話知りたがる 万紗子

なんとなくベースが合わずさようなら 峰子

踊りたい希望に満ちた誉め言葉 正彦

紫陽花は移り気なのか色を変え 隆一

一番星笑顔が待っていた我が家 北舟

民不在きつとボロ出る出してやる 一步

とびきりの笑顔は君へ取っておく 捷二

亡母に似た笑顔こぼれる羅漢さま 福貴子

耳遠い父の笑顔はまず笑顔 千恵子

こっそりと力はあるがふいておく 京子

訳ありを瞬時に弾くチェックロボ 野鶴

にっこりと聞いておきます孫自慢 恭子

焦らないユックリリズム喜寿傘寿 満作

立飲みでいつものベース冷や二合 和夫

訳ありのオレも結婚孫も出来 義明

訳ありの文書飲み込むシュレッダー 和織

安いからへの字くの字の胡瓜買う 久美子

努力義務迷ってしまうヘルメット 満知子

侵略者情け無用に破壊する 黒兎

攫われた恋はあじさい色でした 千賀

和歌山三幸川柳会 西川 千鶴報

減量を体重計にほめられる 敏照

発想の転換があるなめ読み 昭枝

空襲も怖くなかった母の傍 まま

スカートを穿くとはにかむ膝小僧 宏枝

指切りは約束守る判子です 一雄

約束が重荷になって不眠症 起世子

ウクライナへ平和の鳩はまだ飛べず 倣子

いつ起きていつ寝たのやら母の笑み 和子

豊作をいちはん知っている雀 保州

世界地図広げて鳥になるわたし ひろ子

飽食の未来案じているカラス 純子

歳月の早さにはしいロスタイム 菜摘

春の日差しもらったような母といる あき子

母という傘は畳んだことがない 明子

闘病の母は仏の顔で逝く 悦男

つばくろの思いに沈む雨の軒 眞智子

青い鳥捕まえそうでつかめない 彦弘

さえずりに生気をもろう日曜日 知香

約束を守るつもりでいる小指 八重子

軒下を少し整え燕待つ 和美

中立の条約いつも風に揺れ 義泰

懐の深い母です風の海 康則

渡り鳥入団前に検疫を 栄次

求めればいつでも開く母の胸 碧

守れない約束を書く賀状 俊介

渡り鳥あなたの真似もしてみたい 桂子

一本のカーネーションを拝む母 幸彦

母の恩測る定規は見つからず 臣展

母さんはいつどこでも味方です 正美

あなたには針千本じゃ足りません 静代

約束のない休日の有り難さ さやか

約束に約束重ね約束を 隆

又来ると言わない人を送り出す 幸

手品師の鳩は夢見る広い空 千鶴

平和です母が舵取りする我が家 千鶴

南大阪川柳会 松岡 篤報

辛口の週刊誌またひとつ消え まゆみ

米の無いさみしさ知らぬ防衛費 敏治

トランプが切札なのか共和党 風羅

裏の手は苦しまぎれの泣き落とし 千鶴子

うちの爺すぐに年齢ひけらかす 志津子

切札はお言葉でした終戦日 国和

切札をいつもおなかに持っている シマ子

切札と思つた妻が先に病む 東風

素振りする切り札となる時目指し 江

難聴が切札になる撃退法 柳伸

切り札は笑顔だという丸い鼻 和織

レトルトを誉めたばかりに妻手抜き 常男

兵士みな大いにさばれ人のため 一步

さばること知らない人で肩がこる 昌紀

さばつてもいいよ台風活断層 実

さばつたら褒美にくれた皮下脂肪 篤

サボるのも仕事をこなすコツと知る 亜成

妻のテンポ僕のテンポで共白髪 志華子

ワンテンポ遅れていつも怒られる 峰子

テンポよくボインが跳ねるカーニバル 柳石子

アレグロのテンポが僕に速過ぎる いさお

茜空広がる空に深呼吸  
 点と点つなぐと僕ができあがる  
 何がいいソーマンでいい夏が来た  
 時時は風呂で眠っていい気持ち  
 人生は戦弱音吐くなど父の激  
 欲望に地球の余力あと僅か  
 笑うしかないわ自分のあほかげん  
 仏様に返すいのちだ欲捨てる

ふうもん吟社(鳥取) 山下 凱柳報

息抜きに体育館でばえてこい  
 ばえくつた叱られ役はいつも爺  
 ばえるだろうなばえたいな三億円  
 赤い服子らに贈られればえる夜  
 (ばえる 因幡方言で騒ぐ、暴れる)

コロッケが昔ばなしに参加する  
 濁声は天に貰った君の武器  
 おやさしい言葉の裏を読んでいる  
 人生一度大きなジャンプしてみたい  
 ときめきも覚めて労働合う二人  
 常識を破ると見えてくる景色  
 法律に勝る田舎にあるルール  
 時計など気にせず自分らしく生き  
 やばいです免許返還する勇氣  
 八十路なかやばいな家系痴呆症  
 年寄って寒暖の差にやばくなる

弘子 力  
 直子  
 ルイ子  
 克己  
 紫  
 蕉子  
 楓楽

こりゃやばい孫が零点取ってきた  
 抜擢の椅子の行方は過労死だ  
 やばい手に地団駄ふんだ詰将棋  
 もう三日妻が家出のカップ麺  
 寝小便隠したパンツ今どこに  
 少子高齢化のやばくなる介護  
 何かある妻が正座をしているぞ  
 反省があつて家庭の灯が温い  
 今度こそ改心誓うダイエツト  
 反省の涙で赤い兎の目  
 母の日に来た改心のありがとう  
 改心の指は一本づつ洗う  
 改心をするなら今と神の声  
 馬の背に真つ青な海日本海  
 船移り跳びそこねたら日本海  
 真つ青な空へ真つ赤な夢を描く  
 真つ青な海原駆けた青春譜  
 真つ青な空それだけの母の里  
 真つ青な空しばしスマホのスイッチオン  
 改心も三日坊主の繰り返し

真理子  
 毅  
 一平  
 茶人  
 勲章  
 由紀女  
 稲佐嶽  
 (久)千代  
 みつ子  
 絃一  
 鐘旭  
 美知江  
 みゆき  
 頼太  
 蟹郎  
 白兎  
 洋子  
 舞  
 哲子  
 凱柳

寶石に無縁で生きてダイヤ婚  
 少々と隠れて飲んで酔っぱらう  
 少々のつもりがいつものめり込む  
 わけアリの品少々の傷見のがさず  
 ステテコのラベル大方チャイナ製  
 独りを生きたら少々きらい過ぎ  
 歌は好き楽器は苦手じいちゃんも  
 ギター胸にオッス手をあげ帰り船  
 寶石は田植えの指に要りません  
 知っている手を叩いたら楽器だよ  
 ランドセルに掛けた横笛うれしそう  
 フレイル予防に昭和のハーモニカ  
 税金を搾り取っては武器を買う  
 知恵絞り出してくる知恵は搾りかす  
 脳味噌を搾り生き方思索する  
 スポンジを搾ると垢と嘘が出た  
 内臓を絞り出したら黒い汁  
 搾られて滓になつても父と母  
 遠い目をして望郷の駅ピアノ

宏章  
 弘六  
 かおる  
 大鯨  
 楓花  
 弘子  
 瑞子  
 恒  
 蟹郎  
 草文  
 一平  
 静恵  
 孝子  
 文道  
 ゆたか  
 盛桜  
 すみれ  
 孔美子  
 完司

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報

稲やかに山の緑を海映す  
 横断歩道急かすな私高齢者  
 孫達よ宝石よりも夢掴め  
 宝石はないけど光る鍬がある

小鹿  
 茶子  
 延子  
 重忠

百年は明るい老後よく言うは  
 落ち込まず明るく過ごす手術あと  
 この子等が笑顔絶えない世を願う  
 星になる日を夢見てる明るい子  
 アナログは軟水のように味深い

ダン吉  
 フジ  
 ちづる  
 一文  
 冬のト

はびきの市民川柳会(大阪)藤原 大子報

決心を揺るがす様に水を差す

洪水も川のせせらぎ水は水

飲み水と稲作支え梅雨の雨

上高地夢から覚めた水の青

清らかな水をにこしている政治

水色のワルツに青春が踊る

言い勝つて心にできた水溜り

苦も楽も水に流せば身が軽い

性格は水と油で共白髪

吹き溜まり弱い子どうして庇いあい

デバ地下の試食に集まつてる庶民

名医です人づてにきき人は来る

アルミ缶集めて日日の糧として

集まつて葉の数を比べ合う

国会前怒る人々集まつた

集合に遅れる人は決まつてる

百万のデモを夢みる物価高

タイムセールへわつと集まり無駄を買う

人垣の一人になつて声を出す

賛成のふりして目だけ下を向き

川柳茶ばしら(愛知)

金子美千代報

弓張の影絵であらう碑は残る

プーチンの頭を冷やす風よ吹け

寝つくまで団扇あおつた子も親に

脳に良いらしいとガムをすぐに買い

ひとみ

庸郷

正義

かつ美

瑠美子

みつこ

扶美代

宏造

いさお

理恵

こみつ

千鶴子

勝久

洋一

雄太

さくら

一歩

憲彦

大子

専平

川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

目の前の山が決断せよと言う

程々のしつかりが良し嫁と姑

しつかりと役目をはたす落し蓋

合言葉は江戸の頃から山と川

しつかりといたたまますとありがとう

始まりは他人同士で街のカフェ

山深く縄文杉の息を聞く

しつかりと白寿の歩み学ばねば

他人にはとても優しいお父ちゃん

マイナンバー他人の薬飲まされる

興味あることは進んで参加する

乳飲み子は他人の子でも可愛いな

山や谷どうにか超えてきた昭和

下山後の達成感と露天風呂

他人事のように答弁岸田さん

低い山でも頂に立てば王様だ

他人事と聞けぬ介護の明日がある

盤上の駒進ませる王手取り

無視しても抵抗しても進む老い

まだ少し生きる覚悟で前進む

辞書の中言葉の山に遊ぶ刻

進化系先端技術学ぶ日々

長い人生亀の進みでいいんだよ

「新しい戦前」に戻らぬように

雅美

五月

宏造

まつお

芳香

志津子

ばっは

ふりこ

さくら

憲彦

満作

廣子

民子

里子

福貴子

シマ子

俊雄

真桜子

直子

万紗子

萌

龍

克己

勝弘

マイナカード他人とごっちゃかも知れん

しつかりと二足歩行をする白寿

真夜中にあの山越えて朝が来る

嫁さんに他人扱いされだした

親子より他人の情け身に染みる

富士裾野人は小さいものを知る

しつかりと足元を見て歩かねば

山ほどにお金があつて愛がない

楽しい日 時計の針が早よ進む

したい事山ほどあつてまだ死ぬぬ

五日居ないと山と積まれた台所

川柳de遊ぼう会(大阪) 石田 孝純報

息子から行けたら行くという返事

ただいまと夜が手ぶらでやつて来る

確か確かとあやふやな人が言う

酔うほどにさんから奴に名が変わり

ほろ酔いがほろ酔いに貸すくつすべり

犬の名に人名つけて乳母車

ヘルメット売り切れ鍋に紐つけて

初めての本音が聞ける通夜の夜

夜の闇自分に戻り息を吐く

恋ばなし不倫ばなしで姦しい

泥酔のかけた電話に責められる

先を行く妻の自転車千鳥足

寝苦しい夜のお供は蚊の羽音

篤

寿之

ゆみ子

裕之

敏明

比呂志

陽一

としお

広子

いさお

美籠

孝純報

康雄

和男

よしみ

えみこ

爽也

智恵子

はるみ

晋一

喜美子

晋一

喜美子

雅美

幸徳

(阪) 恵子

いろいろな想い抱えた深夜便  
 深夜二度トイレに立って句を拾う  
 うやむやにしたのは私だけですか  
 淋しさに溺れた夜の過食症  
 美智子  
 手土産と思いを乗せて夜行バス  
 満知子  
 酔う程に酔うほどに空広くなり  
 孝純

倉吉川柳会(鳥取) 大羽 雄大報

誰のせいでもない缶を蹴ってみる  
 智恵子抄東京の空灰色と  
 缶詰にされて認知のテスト受け  
 缶詰りの要る缶詰なんてもう古い  
 和やかな風がお隣まで来てる  
 ミスをした上司怒鳴られ天仰ぐ  
 熱出して桃缶食べた幼い日  
 由紀子  
 ヤブ医者が訳の分からぬことを言う  
 完司  
 何もない缶詰開けて食事する  
 酔芙蓉  
 気が付けば帰れぬ八十路坂登る  
 照彦  
 スランプを抜けて爽やか朝の風  
 龍枝  
 大空で貴方好きだと叫びたい  
 紀美恵  
 郷愁のハートに缶詰りかくれんば  
 節子  
 万歩計つけてさっそう若葉風  
 鬼一  
 大雪で缶詰されたバス旅行  
 重忠  
 洗濯物が青空を見て踊り出す  
 風露  
 説明が漠然として聞きづらい  
 さちこ  
 連休にたまった空き缶久しぶり  
 恵子

青空を見上げ感謝の深呼吸  
 台風一過あつげらんとしてくれた  
 智恵子 雄大  
 長柳会(大阪) 大島ともこ  
 ほろ苦さ連れ魅る青春譜  
 償いの気配すらなくまた戦  
 見栄も張り八十路を進むぎこちなさ  
 裁判長被告を論す言葉添え  
 いつからか守つた子等に見守られ  
 あやふやにされては困る九条を  
 赤紙を送るに便利マイナンバー  
 梅雨空にホタル火照らす清い川  
 償いに名もない花は地に還る  
 青春の思い出守るサユリスト  
 会社でもペコペコ家でもペコペコ  
 法の裏耕し探る抜け道を  
 針箱に亡母の人生詰まってる  
 気がつけばそっと見守る君が居た  
 ダイエット体重減つたシワ増えた  
 九条で平和守つて来た日本  
 欲捨てて今を生き抜く知恵捻る  
 手の内を洩らした悔いがつきまとう  
 ジェンダーが理解出来ない石頭  
 雨だれに恋の古傷うずき出す  
 あやふやな返事の夫「聞いてるの」  
 マスク無し自己責任でデイスタンス  
 孝代 孝

妻黙るその間が不気味正座する  
 AIを手の内にした功と罪  
 炎天下風蘭の鈴かき水  
 純風  
 和子  
 靖博  
 川柳ささやま(兵庫) 北澤 稠民報  
 地図のない人生だから面白い  
 気がつけば救急車の中でした  
 紫陽花が頭重いとお辞儀する  
 食事中お箸ちよくちよく床に落ち  
 いつからか袖を通さぬ服捨てる  
 しらぬ間に八十路も半ば身を正す  
 燈芯が揺れて新茶のご催促  
 尽きるまで嫁入りミシンと暮らし幸  
 配車して歩く道端花ばたけ  
 ああ風よ包んでくれてありがとう  
 ひとみ  
 六甲川柳会 糞谷 和郎報  
 AIもチャットもみんな他人ごと  
 ざりざりの選択だった狙撃犯  
 路郎忌や本社句会を盛り上げる  
 無理強いをされた酒より君に酔う  
 間に合うか合わないかもと走ってる  
 男手として夫の手と力  
 食レポを見てグルメ旅行をしたつもり  
 堂々と老いる勇気を模索する  
 近く人よ是非プーチンを道連れに  
 洋一

もうアカン何度か立つた崖つぶち  
 若いうちはいろんな知識植え込もう  
 真つ新な明日へやる気の靴を履く  
 スポンすそ下げて嬉しきニキビずら  
 珍百景ぎりぎりの線が無事でした  
 アボガドの種を植えたら芽が出たぞ  
 今日寄道せず帰るつもりです  
 ぎりぎりの返事迷った跡がある  
 別れの日手で切る豆腐生ぬるい  
 ガキの時植えつけられた苦勞症  
 挨拶は返しただけ知らん人  
 慈しむ心に植えつけする看護  
 外面を気にする彼の長財布  
 行くつもり幾度だまされアテにせず  
 平凡を植えた平凡な父母  
 肩書きより長寿を祝うクラス会  
 他人がやさしい俺はそんなに呆けたのか  
 他人ならもつと優しく出来たのに  
 通帳の中身は見せぬおしどりも  
 植樹した日から始まる物語  
 ネギシソは隣の庭に植えてある  
 孫のため植えたみかんのある空家  
 あの時そんなつもりでなかったの  
 身の阿房他人の涙に洗われて  
 気の合わぬ婿が呼び捨て娘の名前  
 青田風吹いてはかどる機械植え  
 清貧に生きると言えば様になる

健二 敦子 和郎 澄雄 克美 盛夫 勝弘 恭子 博史 祐一 崇史 道子 義博 義明 廣光 隆浩 弘 順子 禎之 千賀子 利子 狸月 忠志 洋次郎 次郎 迪 宏

空気より水より妻の有難さ  
 限界に是非に会いたい人がいる  
 鼻先のぎりぎりだけど勝てば良い  
 きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報  
 将棋セット多目に用意サントさん  
 マイナンバー右往左往と迷走だ  
 何げなく書けていた字がわからない  
 山の幸自然の恵み伯耆富士  
 上得意ではないけれど手紙来る  
 連休を寿司とビールで締めくくる  
 なるほどを入れて会話がやつと持つ  
 のぼせもん祭りが来ると血が踊る  
 何食わぬ態度に見えて顔に出る  
 CMがやま場山場でやつてくる  
 AIを作った後に知る怖さ  
 奮見る春には咲くと知らせてる  
 糸口が見つかり草の争奪戦  
 わかやま吟社 松原 壽子報

和宏 美恵子 芳江 美穂 宣子 雨奇 菜々 美緒 瑞枝 宏之 久直 ひろし 紀の治 俊久 治代 恵子

伝統に押し潰された若き獅子  
 すじ肉のエキス出るまで煮ています  
 煮凍りに滋養いっぱいコラーゲン  
 とろとろと過ごす自分に活入れる  
 とろとろと歩く余生の波静か  
 骨抜きにさせようとするの愛で  
 台風がゼッケン付けてやつてくる  
 ゼッケンの日の丸重代表団  
 ゼッケンで判るマラソン参加数  
 ゼッケンのない青春の迷い道  
 ゼッケンと共に気迫を縫いとめる  
 ゼッケンを外すフツの顔になる  
 認知症所番地を縫い付ける  
 岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

和宏 小雪 節子 よしこ 富美子 佳子 紀子 敦巳 光 八茶 里映 ダン吉 タカ子 恵子 義泰 節子 たか子 愛子 國代 世紀子 五十美 桃代 喜代志 和宏 信子

穏やかに生きてはいけぬ温暖化  
病室の友に笑顔で寄りそつて  
戦時下の母の涙は乾かない

ドンマイと落ち込む僕に缶ジュース  
温暖化時季のバランス崩れ出す

国政と民のバランスとれぬまま  
バランスを保ち今年でダイヤ婚

山坂を越えて夫婦の日向ほこ

ブラザ川柳(大阪)

藤塚

克三報

言い訳は窮地の時の常備薬  
こだわりの軍歌に父が蘇る

マイナンバー弁解釈明今日も又  
最高の身なりで出かけ風うける

腕組んで仲良く見立て杖代わり  
せつかちとおつとがなす夫婦愛

貧乏もええもんですと言いたい  
浪費家と締まり屋が住む一つ屋根

目鼻立ちアンバランスで三枚目  
政治家の世襲自民は50パー

ピニール傘速雷響き急ぎ足  
美人薄命えらいこつちやと言っておかめ

ほたる川柳同好会(大阪)水野

黒兎報

おいしいと言えば毎日豆ごはん  
婆ちゃん子自然に育つ豆知識

春代  
奈津子

あさ子  
規予子  
ふさゑ

恭子  
香代

和美  
珠子  
ひろ子

克三  
園子  
政夫

靖子  
悦夫

景子  
和代

一彌  
清乃

弘光  
正子

淳司

豆しほりキリツと巻いて夏祭  
恐竜になると多弁な豆博士  
下戸だつて枝豆食べてかまわない

夕風にジョッキ傾け夏を飲む  
法善寺傘傾けてごあいさつ

傾く陽今日の元気に手を合わす  
渋川に花火どんどん甦る

止めてくれ一日がめちやくちや早い  
裏が白いメモ用紙にと増える紙

八十代の七五三にもお祝いを  
七夕の願いはひとつ平和な世  
とにかくもお礼は早く手短かに

西宮北口川柳会(兵庫)

緒方美津子報

心地よく飛んで楽しい熱気球  
コウモリも横切り出した飛蚊症

一流の味より妻のお味噌汁  
ゴメンネで何とか乗り切る夫婦仲

古傷がズキズキ多分雨模様  
あけすけも遠慮しすぎもひびが入る

飛ばされてやつと分かった立ち位置  
墓仕舞い逡巡してるカタツムリ

上手よと誉めたらマイク放さない  
四捨五入すれば人生多分マル

後ろ指さされぬように生き終える  
タツチパネル孫がいないと困る寿司

順子  
篤

宏造  
蟻日路

直子  
黒兎

勝弘  
契子

則彦  
純子

一弥

神出鬼没ゼレンスキーは飛び回る  
八十路来て階段降りる辛さ知る  
階段で今日の調子を確かめる

枯れたつて男結びはほどけない  
早合点飛び出し用事何だった  
階段に手摺のついた気の配り

飛ぶ針も味のひとつとレコード派  
相槌に私が軽くなつていく  
あと二段辺りで転ぶ出世欲

多分嘘こんな私が好きなんて  
三兆円多分子供を増やせない  
夕やけこやけひたすら今日も生き抜いて

アドリブが飛び跳ねているジャズピアノ  
雨と月どつちが好きか西行師  
長崎の鐘は平和への階段

大声を出さなくなつた喉仏  
ほめ上手でなければならぬ教育者  
天下一品枝雀の芸に酔いました

糸切り歯怒つた時はちよつと伸び  
プライドを秘めてふわりと黒揚羽  
食べたいなあ思う牛丼ろう細工

散歩道可愛い雑草避けて行く  
雑草の顔して咲いているスマレ  
老いの教育雑学はまり日々豊か

川柳さんだ(兵庫)

酒井

健二報

勝弘  
富次  
宏

みよし  
迪

隆一  
ひとみ

敏子  
緑

洋次郎  
紀乃

邦男  
靖夫

千賀子  
敦子

宏造  
野薫

ゆきみ  
恵美子

美津子

喜久子  
紀恵

弘

触れてご覧名もない花が笑み返す  
 お金より愛情なんてそれは無理  
 特例は認めませんと我が家計  
 顔認証美女は特例フリーパス  
 常識があれば特例など要らぬ  
 我慢せず悲しい時は泣きましよう  
 おいおまえなんで俺より先に逝く  
 悲しくて出るにすられぬ映画館  
 悲しみの数だけ生きて来た誇り  
 成績で命失う競走馬  
 マンションにミサイル撃つて平気かよ  
 雷に打たれたようなアフロヘア  
 弁当から姿を消した卵焼き  
 妻名義にすれば不動産屋来る  
 分からないテレビCM増えてきた  
 ショックです何も無かったハネムーン  
 よろしくと句帳拝んでさあやろう  
 川柳を始めて命ながらえる  
 八十路前二度目の断捨離を始め  
 食べ始めるとストツツ利かぬ柿の種  
 初対面先ずは握手で値踏みする  
 闇バイト吊るべ落としの始まりだ  
 少子化の対策まずはナンパから  
 断捨離は百歳からでいと鶴  
 子や孫に心配無いとボケ始め  
 梅雨晴れ間平和に感謝友とお茶

哲夫 ひとみ 敏夫 おさむ 迪 義徳 雄太郎 宗鉄 武彦 千賀子 洋一 英秋 徹 洋次郎 正和 修平 耕治 野薫 勝弘 和郎 宏造 俊朗 万彩 美津子 健二 登志子

運転士連掌以外は皆スマホ  
 ラインより電話のようがうれしいの  
 五類でもワクチン打てと来る通知  
 翔平の記録に句読点がない  
 ボク歳なんば個人情報言えませぬ  
 緑風にいのち膨らむ遊歩道  
 花の輪(大阪) 川本 信子報  
 張り合つて応援大きく響く声  
 はいと呼ぶみえうるわしきかすれ声  
 かんかんでお日さま仕事絶好調  
 まぐれでも当選すれば元議員  
 かんかんに怒つてみても家の中  
 迂闊にもかんかん照りに傘忘れ  
 かんかんと命の音がする瓦礫  
 祈つても寿命は運と天の声  
 川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報  
 広島と長崎夏は忘れぬぞ  
 こんな吾頼つてくれる家族いる  
 大丈夫側に頼れる妻がいる  
 いざとなりや助けてくれる両隣  
 おばはんは頼る男の法善寺  
 願つてる子に頼らない老い自立  
 最近はランチ楽しむ老い仲間  
 チューブならしはつて切つてほじくつて

祐康 和子 雅尚 哲男 三ツ代 ヨシエ 亜成 笑子 正太郎 博泉 泰子 和織 信子 義朋 眞理子 新録 祐康 英坊 朝子 佐和子 和子

死ぬまでに一度食べたい値段時価  
 固い蕾ほどけるようにアマリリス  
 考えが古い固いとはじかれて  
 頑固だと言わず信念ほめておく  
 着火マン固くて困る高齢者  
 内緒だよ口の固さは豆腐なみ  
 固い口だんだん開く五合酒  
 信じた道固い決断ウクライナ  
 五世代と時代の波を共に生き  
 川の波人々のくらしのみ込んで  
 民主主義の波で戦争終らぬか  
 瀬戸内の波風涼かレモン色  
 本当のころ波打ち際で知る  
 初デート金波銀波に夢心地  
 波風が立つ汚染水の放出  
 妻昼寝ただ今波は静かです  
 着る度に何故か喪服は縮んでる  
 九十の母も離婚を口にする  
 あんたがぐずや駅でじいさん叱つてる  
 銃弾が闇を暴いて一周忌  
 免許返納頼れる足は健在だ  
 すげ笠の母が居そうな青田風  
 子が帰省テール見えぬ皿の数  
 目許きりり独りでゆくと決めた朝  
 川柳塔さかい(大阪) 内藤 憲彦報

修平 初音 照代 笙子 菊江 楓華 隆一 紀華 恵子 れい香 英秋 柳明 幸彦 和夫 勝弘 宏造 素子 ゆきみ 耕治 健二 正彦 雪菜 廣光

五月

山の中涼しさしみる滝の音

廣子

あつさりと語る背中に修羅の海

(米) 倅子

古い二人主張は譲りゆつくりと  
長年の主張小遣いあげてくれ

喜代子

地震でもぐつすり寝てる私です

舞夢

あつさりと叱ればすんなりとごめん

満知子

ハッキリと核兵器にはノーと言う

まつお

懸命に生きればいいと蟬の声

尚邦

酔うも良しめでたい日には鍋料理

和夫

頭数増えて嬉しい五七五

憲彦

最大の無駄だと思ふ核兵器

憲彦

酔うほどにめげず愚痴らず泣き見せず

いさお

じろじろ貴女をもっと知りたくて

さくら

無駄骨と知りつつトライする傘寿

ダン吉

世が変わり名物店の名が消える

素頓馬

嬉しい日お酒がいつもより旨い

いさお

無駄話聞いてうなずく親の前

満作

嫁はんは飯風呂寝るに慣らされる

憲

川柳藤井寺(大阪)

扶美代

無駄遣い言うがこの世の潤滑油

和織

世渡りの名人まさに七変化

さくら

川柳藤まつえ吟社(鳥根)清水美智子報

いさお

一杯生きたか八日目の蟬よ

有生

いちご大福しつかり主張包み込み

時雄

いつ着くかカレンダー見て指を折る

豊

あつさりと迫れぬ金婚の轍

恵子

おもらしてはしていませんと三歳は

比呂志

豪雨とも慈雨ともなつて気を揉ます

豊仙

別れよかあさいでつか右ひだり

敏治

正しいと思ふ事なら曲げません

志津子

雨模様吸い込まれゆく団子茶屋

とも子

あつさりと相談受けてあと難儀

清

お互いの主張は戦争やめる只一つ

シマ子

汗だくで絡むTシャツバタフライ

青帆

嫌なこと一夜明ければ忘れませ

ひさ子

大勢に逆らう主張勇気ある

ひろ子

魚だと言ひ張るリュウグウノツカイ

芳山

無駄でいい思い出さしがし歌にする

(西) 桂子

朝顔の蔓それぞれが自己主張

みつこ

船底でせせら笑いの小判鮫

塩子

分別の無さで気付いた無駄の山

恭子

お腹空いたら村度なしに泣く赤子

勝弘

海を恋う列も乱さず千イワシ

久枝

戦争で命を無駄にした遺影

ひろ子

一石を投じた青年の持論

ちづる

サイモンとガーフィンクルで雨の夜

アントン

なじめない折句は苦手時がたつ

(江) 勝弘

お腹空いたら世界の声が聞こえぬか

勝久

ネオン川四五軒ひよいと泳げてた

徳利

フードロス飢える子供の目を見たか

みつこ

主権なく日和見主義で世を渡る

かずお

スカイツリーダイビングする熱帯夜

美智子

やつと来たのに臨時休診の札

萌

プーチンの主張世界が呆れはて

倅子

豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報

正彦報

大谷のトレーニンングに無駄はない

(申) 佳子

人頼みしてたばかりに尻ぬぐい

満作

鱗雲政治は常に不透明

晴子

あつさりと出来たバズルがつまらない

扶美代

戦争やめる世界の声

ダン吉

朗報に軽いステップ気持ちだけ

英三

タラップを降りたら食べる海苔茶漬

美津子

主権なく日和見主義で世を渡る

正義

気が付けば友を無くしていた出世

多美子

あつさりと全没でした今日の句座

志津子

嬉しい時悲しい時も涙出る

瑠美子

北舟

あつさりと引き下がられて拍子抜け

玄也

空気みてあつさりがめん言うておく

万紗子

こっそりと食べたスイーツ期限切れ  
水じやない透明ウォッカ背筋伸び  
許したら私の心雪解水

地に還るまではしつかり生きてやる  
野 鶴

粗板の音は和解の合図だな  
まばたきで解つてくれる人がいる  
悶えなさいのたうちまわり痩せなさい  
休肝日一応決めていますけど  
竹落葉新芽避けつつそつと掃く  
ウクライナ何もできずに立見席  
出世とは無縁な人の縄のれん  
好奇心生きる意欲を掻きたてる  
さわやかな風が誤解の汗を消す  
夏と冬どちらにしようかな遺影  
むらさきの袱紗に義理が畏まる  
朝顔が咲けば子の事母の事

頼られる間は行けぬ黄泉の国  
軽薄な世を見直さずボランテア  
熨斗袋透明ならば見栄をはる  
一票が悔む居眠りする議席

がむしやらに声を張り上げタイガース  
何処へでも私夢見てついで行く  
がむしやらにやれば拓ける道もある  
がむしやらに支えた母が先に逝き  
がむしやらになつて見つけた光る石  
寢食を惜しみ手にしたノーベル賞  
あれ以来あなたと気持ちは空回り  
空回りそうともそれが青春だ  
心配を余計な事と叱られる  
論点がまたずれていく共白髪  
ヒロシマを見せても減らぬ核の数  
ヒット曲うっせえうっせえうっせえわ

秀 雄  
彰 一  
かずお  
正 靖  
祥 昭  
壽 峰  
銀 杏  
力  
千鶴子  
常 男  
楓 楽  
順 子  
賀 世子  
いさお  
千 賀  
欣 之  
武 人  
篤 篤  
鈍 甲  
玲 子  
高 志  
賢 子  
博 泉

健 二  
憲 央  
真理子  
時 子  
武 彦  
敏 昭  
肇

英 旺  
満 作  
満 子  
義 明  
和 織  
勝 弘  
則 彦  
眞 澄  
美津子  
いさお  
ひとみ  
哲 男  
武 人  
黒 兔  
ふりこ

郁 夫  
亜 成  
勝 弘  
泰 子  
博  
和 織  
朝 子  
あかり  
かすみ  
高 鷲  
信 子

肩書きを無くせば透けてくるわたし  
こっそりが好き失敗してもわからない  
混沌の世こそ問いたい生きる術  
磨いたのに鏡に山姥がうつる  
父の手を握ってやれぬガラス越し  
透明な心へ今日も組む座禅

梅雨晴れ間先ずは私の心干す  
雨くもり雨雨くもり雨くもり  
道聞けば私がナビになると言う  
鬱陶しいページ捲れば光る夏  
直線を時速五キロで走る老い  
うつつうしいがパスは出来ない政治欄  
憂き空に泰山木の花の品  
ノーという合図黙つて席を立つ  
言わずとも万事OK判つてる  
Vサインきつと良いことあつたのね  
合格の合図とわかり涌く家族

志 華 子  
理 恵  
桃 花  
富 子  
義 義  
ふりこ  
弘 子  
楓 楽  
弘 美  
眞 澄  
定 生

愛でられてすくすく育つプチトマト  
世話好きは二つ返事の軽い腰  
向かい風に反抗心が立ち上がる  
何故そんなせつちかなんだマイナナー

初正彦  
寿之  
廣光  
洋志

翠 洋 会(大阪) 原田すみ子報

お互いに半透明で長続き  
忍び逢う二人文春見逃さぬ

人生の黄昏ときも味なもの  
この猛暑だけ弾けるいいジョーク  
夏祭り童心戻るかき氷  
マイナカードのおぎま廃止にしましょうよ  
帰宅後にかぶつた猫の仮面脱ぐ  
へそくりもメロンも仏様は好き  
素面では言えそうもない愛してる

雀も喋ものぞきに来ますケアハウス  
寝つけない夜はひたすら母おもう  
残り火を燃やし明日の句を創る  
汗だくの顔して納涼盆おどり  
鎮守の森納涼大会鳴り響く  
人生の黄昏ときも味なもの  
この猛暑だけ弾けるいいジョーク  
夏祭り童心戻るかき氷  
マイナカードのおぎま廃止にしましょうよ  
帰宅後にかぶつた猫の仮面脱ぐ  
へそくりもメロンも仏様は好き  
素面では言えそうもない愛してる

お前だけ頼りだなんて手遅れよ  
ニンゲンよ頼りにするな核の傘

いさお  
ひとみ  
哲 男  
武 人  
黒 兔  
ふりこ

志 華 子  
理 恵  
桃 花  
富 子  
義 義  
ふりこ  
弘 子  
楓 楽  
弘 美  
眞 澄  
定 生

愛でられてすくすく育つプチトマト  
世話好きは二つ返事の軽い腰  
向かい風に反抗心が立ち上がる  
何故そんなせつちかなんだマイナナー

初正彦  
寿之  
廣光  
洋志

翠 洋 会(大阪) 原田すみ子報

お互いに半透明で長続き  
忍び逢う二人文春見逃さぬ

人生の黄昏ときも味なもの  
この猛暑だけ弾けるいいジョーク  
夏祭り童心戻るかき氷  
マイナカードのおぎま廃止にしましょうよ  
帰宅後にかぶつた猫の仮面脱ぐ  
へそくりもメロンも仏様は好き  
素面では言えそうもない愛してる

雀も喋ものぞきに来ますケアハウス  
寝つけない夜はひたすら母おもう  
残り火を燃やし明日の句を創る  
汗だくの顔して納涼盆おどり  
鎮守の森納涼大会鳴り響く  
人生の黄昏ときも味なもの  
この猛暑だけ弾けるいいジョーク  
夏祭り童心戻るかき氷  
マイナカードのおぎま廃止にしましょうよ  
帰宅後にかぶつた猫の仮面脱ぐ  
へそくりもメロンも仏様は好き  
素面では言えそうもない愛してる

お前だけ頼りだなんて手遅れよ  
ニンゲンよ頼りにするな核の傘

いさお  
ひとみ  
哲 男  
武 人  
黒 兔  
ふりこ

志 華 子  
理 恵  
桃 花  
富 子  
義 義  
ふりこ  
弘 子  
楓 楽  
弘 美  
眞 澄  
定 生

愛でられてすくすく育つプチトマト  
世話好きは二つ返事の軽い腰  
向かい風に反抗心が立ち上がる  
何故そんなせつちかなんだマイナナー

初正彦  
寿之  
廣光  
洋志

翠 洋 会(大阪) 原田すみ子報

お互いに半透明で長続き  
忍び逢う二人文春見逃さぬ

人生の黄昏ときも味なもの  
この猛暑だけ弾けるいいジョーク  
夏祭り童心戻るかき氷  
マイナカードのおぎま廃止にしましょうよ  
帰宅後にかぶつた猫の仮面脱ぐ  
へそくりもメロンも仏様は好き  
素面では言えそうもない愛してる

雀も喋ものぞきに来ますケアハウス  
寝つけない夜はひたすら母おもう  
残り火を燃やし明日の句を創る  
汗だくの顔して納涼盆おどり  
鎮守の森納涼大会鳴り響く  
人生の黄昏ときも味なもの  
この猛暑だけ弾けるいいジョーク  
夏祭り童心戻るかき氷  
マイナカードのおぎま廃止にしましょうよ  
帰宅後にかぶつた猫の仮面脱ぐ  
へそくりもメロンも仏様は好き  
素面では言えそうもない愛してる

お前だけ頼りだなんて手遅れよ  
ニンゲンよ頼りにするな核の傘

いさお  
ひとみ  
哲 男  
武 人  
黒 兔  
ふりこ

志 華 子  
理 恵  
桃 花  
富 子  
義 義  
ふりこ  
弘 子  
楓 楽  
弘 美  
眞 澄  
定 生

ダメ亭主コキ下ろし合うティータイム

ハツとした免許返上潮時か

家族より先に出かけてカギ持たず

ピアホール風と話と良い出合い

うちわ振り風送る子の得意顔

夫の面子傷つけぬよう介護する

庭の中水琴窟の良い音色

ひまわりの貴公子のごと凜と咲き

面相がよくなるようにえびす顔

イケ面が入社オフィスが喧しい

はるか遠くさらさら光る母の星

測るたび血圧上がり買い替える

夏祭り浴衣のうなじ涼しげに

大山滝句座(鳥取)

新家

完司報

大笑いも悲しい時もある涙

百歳の笑顔人生語ってる

奇跡です今日も揃って朝ご飯

人だけが神にもらった笑い顔

髪切ってビターな味のチョコ割る

人として地球に生きている奇跡

アルバムに奇跡のような二十代

プーチンに礼儀作法を教えたい

いちいちが身につまされる老介護

礼儀知らぬ人がどんどん増えてきた

和夫

行久

恵美子

蕉子

江里子

敬子

廣子

満作

大子

恭昌

舞夢

げんえい

すみ子

培った礼儀作法を小出しする

ウクライナ笑顔来る目を待っている

泣き笑いドラマが続くいつ終わる

梨作りお茶の時間は笑顔の輪

喧嘩する理由は若さ保つため

ジェームス・ティーン俺にもあった反抗期

気がかりは礼儀崩れて逝く形

ひまわりが礼儀正しくお辞儀する

カラスさん燕の巣には手を出さな

空が青いの理由などない岬

縁側でにこりにこりと爺と婆

太陽がアハハアハハと落ちていく

またやった笑うしかない物忘れ

理由など後からつける多数決

何億の中で結ばれ奇跡です

笑ってはくさいますな団子鼻

煎餅を頭を下げてもらう鹿

恐ろしい理由「殺したかっただけ」

川柳塔なら

長寿国兄妹みんな生きている

少子高齢老々介護の長寿国

高齢の母も日帰りドック行く

長寿国やはり平和と日本食

長寿国整骨院が大儲け

美ツ千

久子

希楽良

コスモス

ゆたか

芳山

余光

麦青

富隆

小鹿

石花菜

芳光

紀の治

みちを

清明

重忠

規雄

完司

入口構成逆三角生む悲劇

若者が支えられるか長寿国

年金が支えきれるか来る白寿

ロボットに介護を託す長寿国

仲人はスマホ卒寿のウエディング

無尽蔵再生エネで新未来

リサイクル私まだまだ嫁げます

リサイクル出来ないものかこのワタシ

柵を脱ぎ真っ白になる再生紙

前歴不問仕事は出来る再生紙

モロゾフのプリンのコップ使ってる

大海を見せて未練をリサイクル

バス停へ何度も行き来孫来る日

天か地か閻魔の前でそわそわと

新札で貰う昭和の給料日

マイカーに乗ろうとしてもドア開かぬ

地に足のつかぬ男の手を離す

そわそわのうきうき腹を蹴る内緒

端金抱いて迎えるこの長寿

今日の客お茶より酒が好きらしい

やつとキミらしくなったネさあ呑もう

彼らしい律儀なところが気に入られ

手配写真の顔はいかにもそれらしい

プーチンが撃たれたらしい知らんけど

独裁者もつともらしく嘘を説く

史郎

江里子

勝久

栄子

楓楽

和夫

すみれ

萌子

寿之

すみ子

勝弘

敬介

篤

行久

崇明

優

朝子

欣之

すみえ

一步

亜成

克己

眞澄

盛隆

敬子

富田林市民文化祭  
富柳会第73回川柳大会

と き 2023年9月23日(土) 正午開場  
(昼食は済ませてお越しく下さい。)

ところ 富田林すばるホール2F小ホール  
(近鉄長野線川西駅下車徒歩8分)

お 話 「川柳4サイクル」くんじろう氏

宿題と選者 各題2句 席題なし

「袖」	井澤 壽峰	選
「免 疫」	土田 欣之	選
「ショック」	栃尾 奏子	選
「下 心」	西澤 知子	選
「急 所」	松岡 篤	選
「パ ネ」	山野 寿之	選

出句締切 午後1時

会 費 1,500円

賞 秀句賞

問い合わせ先

山野寿之 (TEL 090-4308-8339)

主 催 富柳会・富田林市川柳会  
富田林市・同市教育委員会他

第74回 西宮市文化祭川柳大会

日 時 10月23日(月)10時30分開場  
12時出句締切

場 所 西宮市民会館4階

会 費 1500円(呈 作品集)

兼 題 (各題2句、欠席投句拝辞)

「白」	くんじろう	選
「ユニーク」	北村 紅絵	選
「本命」	中桐 徹	選
「満ちる」	鈴木 かこ	選
「比較」	八上 桐子	選
「勘 違 い」	梅澤 盛夫	選
「自由吟」	長島 敏子	選

賞 各題 三才に呈賞

事務局 川人 良種

電話・FAX 072-746-3556

主 催 甲子園川柳社

家計簿に妻の魔法があるらしい  
善人らしい顔で詐欺師が寄ってくる  
首相にも賞味期限があるらしい  
AIももたえららしい直木賞  
極楽も地獄も誰か見ましたか

翠 洋 会(大阪)(前月分)原田すみ子報

まさじ  
いさお  
定 生  
和 郎  
薫

指先の痺れりハビリするパズル  
長生きをしたなと思う三十五度  
ライバルの老いとゆつくり歩を合わす  
人生パズル解き方は無限なり  
黒塗りのパズルのような公文書  
誘われる田舎芝居も乙なもの  
よく遊んだ人らし機微をわきまえる  
ゆうゆうと暮らす老後を壊す孫  
便利な暮らし求めておきた温暖化  
取り合えずパズルの様に生きてゆく  
「しまった」から反省までの長い距離

志華子  
義  
富子  
満 作  
定 生  
惠美子  
楓 楽  
弘 子  
敬 子  
舞 夢  
澄

相手次第明暗分けた幸不幸  
人生もパズルのようでスリルある  
幼なじみ「ちゃん」で呼び合う傘寿達  
チャリンコ客悩みの種はヘルメット  
エレガント白寿の姿学ばねば  
解のないパズル人生迷い道  
とんとんで明暗分けたのは自信  
七夕に世界平和を短冊に  
ジグソーパズル静かな時を手に入れる  
人生はパズル終生解けぬまま  
ライバルにもならないままに時は過ぎ

江里子  
廣 子  
げんい  
和 夫  
ふりこ  
行 久  
大 子  
善 之  
蕉 子  
恭 昌  
すみ子

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳 たちばな	16日(土) 13時45分締切 席題・宿・返す・自由句	会場 東園田町総合会館 2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳塔 みちのく	16日(土) 17時締切 詫びる・内々・手袋	会場 - 未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川柳 藤井寺	17日(日) 14時締切 リハーサル・きつい	会場 パープルホール 4F 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南大阪 川柳会	18日(月) 14時締切 ひらめき・とはける・ゆっくり・雑詠	会場 大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊中 もくせい 川柳会	18日(月) 14時締切 微熱・保つ・ぼろぼろ・自由吟	会場 豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳 ねやがわ	19日(火) 13時締切 片づける・恩人・温泉・気配 自由吟	会場 寝屋川市産業振興センター 〒573-1104 枚方市楠葉丘1-9-13 藤村亜成
川柳 さんだ	19日(火) 13時30分締切 仕事・苦しい・ラベル 詫びる・自由吟	会場 キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1322 三田市すずかけ台3-4-1 E棟804 村田 博
川柳塔 すみよし	22日(金) 14時締切 煙・賭ける・わくわく	会場 住吉区民ホール集会室4 (図書館棟 2F) 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
岸和田 川柳会	22日(金) 14時締切 第71回市民川柳大会	会場 岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄岸和田駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-18-27 雪本珠子
川柳 とんだばやし 富柳会	23日(土) 14時締切 大 会	会場 富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
和歌山 三幸柳会	23日(土) 13時15分締切 年金・走る・笑う	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸柳会」宛
はびきの 市川柳会	24日(日) 14時締切 青・走る・エキストラ・席題	会場 陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 吟社	24日(日) 13時から 自由吟・尽くす・虫・交流 席題	会場 県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所 (06-6779-3490) へご連絡ください。  
★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

## 9 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
城北 川柳会	2日(土) 開場13時 締切14時 切ない・京都・珍味・自由吟	会場 旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
倉吉 川柳会	2日(土) 14時締切 舞台・冷・プライド・席題	会場 倉吉市明倫公民館 投句先 〒682-0722 東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1028-1 天野道春
川柳塔 まつえ社 吟	2日(土) 13時40分締切 窓・モデル・進・波	会場 雑貨公民館 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充
おりひめ☆ ひこほし 川柳会	7日(木) 消印有効 遠足・おいしい・本	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこほし川柳会』 藤田武人
あかつき 川柳会	8日(金) 展・旅行・もしや・時事吟	会場 大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F203会議室) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
川柳塔 な ら	8日(木) 13時50分締切 せっかち・ゴシップ・慎む	会場 奈良市中部公民館 近鉄奈良駅③番出口徒歩5分 奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
六甲 川柳会	9日(土) 14時締切 席題・水・その内・保つ 自由吟	会場 灘区民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町2-12-5 敏森廣光
川柳塔 打 吹	9日(土) 13時30分締切 谷・寄る・こりごり・席題	会場 倉吉市上灘町9 上灘コミュニティセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
川柳塔 わかやま 吟 社	10日(日) 14時10分締切 兼 題=自動・もりもり・ジュース 課題吟=箱	会場 和歌山県JAビル1 1階 兼 題 〒642-0024 海南市阪井652-14 小谷小雪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪町東2-208-5 楽原道夫
西宮北口 川柳会	11日(月) 13時30分締切 席題・手紙・配る・すっかり 自由吟	会場 西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
ほたる 川柳 同好会	12日(火) 13時30分締切 壁・近い・ひやり	会場 豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川柳塔 さ か い	12日(火) 14時締切 痛い・駄目押し 折句:ふ・よ・う	会場 東洋ビル2F (堺東駅北西改札口から2分) 欠席投句先 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 齋藤さくら
川柳 あまがさき	12日(火) 14時締切 ふくらむ・月(連記)・したたか 自由吟	会場 東園田町総合会館2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造

# 柳界展望

秀吟 辻内 次根

あの方が核のカバンを

持っている

鞆で拗ねているのは

お爺さん

★第68回今治・汐風川柳誌上大会。参加者288名。同人成績。

天位 黒田 茂代

麻酔から覚め息してる

生きている

★全日本川柳鳥取大会記念 第23回春はくろほこ川柳大会(誌上)。参加者308名。同人・誌友成績。

鳥取県教育委員会教育長賞・天位

平和への答えが違う万

国旗

鳥取市議会議長賞・天位

寛解の春ですネモフィ

ラが笑う

▽出版△

○小谷小雪さん(海南市)

が、『ここですつくり』(B

6判、96頁、1200円

▽訂正とお詫び△

八月号P2目次(2)、

三上大輪・川上大輪。P

54上段松井正義4句目、

梅雨空に北野・ミサイル

いきりたつ↓梅雨空に北の

＋税、新葉館出版)を出

版。

○平井美智子さん(大阪

市)が、『右上がり』(B

6判、96頁、1200円

＋税、新葉館出版)を出

版。

▽訂正とお詫び△

八月号P2目次(2)、

三上大輪・川上大輪。P

54上段松井正義4句目、

梅雨空に北野・ミサイル

いきりたつ↓梅雨空に北の

ミサイルいきりたつ。P

71上段12句目、原田すみ

こ↓原田すみ子。P106「ひ

とこと」欄「ころと生

まれるストーリー↓ふど

生まれるストーリー。P

102下段残暑見舞い左端

山本 加お里

◎同人名簿の訂正をお願

いします。

電話06-71831

0752

▽新誌友紹介△

東広島市 若野 茂青

紹介者 小島 蘭幸 次年度役員補充について

唐津市 坂本 良二 ②發送部長交代について

紹介者 前田 廣幸 ③「第29回川柳塔まつり」

丹波篠山市 内山 俊朗 の具体化④「100周年

紹介者 上田ひとみ 記念合同句集」ピラの作

江島谷勝弘 成⑤「同人総会」各部議

酒井 健二 案作成⑥「第12回春の川

芦屋市 小笠原淳子 柳塔まつり誌上大会」に

紹介者 穂谷 和郎 ついて⑦「2020年度

富田林市 米田利恵子 (令和4年度)会計収支

紹介者 蔵内 重俊 報告・速報」⑧同人・誌

大阪府 山野 寿之 友拡大について⑨定例確

福居 学 認事項。

▽常任理事会△ 次回常任理事会9月7日

8月10日。出席17名。① (木) AM10

## 新 同 人 紹 介

〒697-0061

貝塚市浦田71-1-801

吉 道 あかね

— 蘭幸・完司・大輪・朱夏推薦

〒669-1323

三田市あかしあ台2-16-8

松 下 英 秋

— 哲男・ひとみ推薦

# 第29回 川柳塔まつり

と き 2023年(令和5年)10月7日(土)

開場：午前11時 出句締切：正午 開会：午後1時

ところ ホテル・アウィーナ大阪 4階 金剛の間

大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12 (近鉄上本町・地下鉄谷町九丁目下車) 電話 06-6772-1441

《同人総会・議事》午前10時より

2022年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告

2023年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

《各賞表彰式・記念句会》

表彰式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞

おはなし フレイル予防のための「食」と「社会参加」

大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部教授 井 尻 吉 信 氏

兼 題 「刻 む」 川柳塔社 藤 井 智 史 選

「まっすぐ」 川柳塔社 藤 田 武 人 選

「揺れる」 川柳塔社 大久保 眞 澄 選

「未 来」 川柳塔社 榎 原 道 夫 選

「 笛 」 番傘川柳本社 片 岡 加 代 選

事前投句「自由吟」(8月31日必着) 川柳塔社 小 島 蘭 幸 選

◎各題2句・勝手ながら欠席投句は拝辞させていただきます

出句締切 正 午 (午後5時頃終了予定) ※各題の「天」位に賞呈

◎会 費 2,000円 (当日頂きます) ご昼食は各自でお済ませください

◎ 呈 記念品

《懇 親 宴》

と き 令和5年10月7日(土) 午後5時～7時

ところ ホテルアウィーナ大阪 3階 葛城の間

☆会 費 7,000円 先着申込み 130名様

\* 事前投句および懇親宴のお申込はチラシに刷りこみのハガキ(ご希望の方は事務所)にて8月31日(木)までに本社事務所宛、お送りください。

\* 会費は当日受付でお願いします。

\* 新型コロナウイルスの状況により中止せざるを得ないときはご容赦願います。

主 催 川 柳 塔 社

大阪市天王寺区大道1丁目14-17-201

〒543-0052 ☎・FAX 06-6779-3490

## 編集後記

★椎体骨折で6月28日に入院、8月3日退院した。

一月あまり入院したが、初めての経験ばかりであつという間に過ぎた。

★当初は床上安静だったので、自力では殆ど何も出来なかつた。入浴はストレッチャーに横たわつたまま体を洗って貰い、早朝時の痛みを和らげるために座薬を入れてもらうなど、お世話になりっぱなし。8月号の校正原稿も看護師さんが勤務帰りにこっそり投函してくださつた。

★食事も味付けは聞いていたほど薄くなく、毎食完食した。ただ、朝食は毎日食パン2枚とフルーツと牛乳だったので、あまたかと思つていた。が、二週間ほど経つと、温められた食パン(焼い

てはいない)にマーガリンをつけたのを美味しいと感じるようになっていたのには驚いた。

★退院はしたが、右脚に痛みが残っているため、杖を頼りに何とか歩いている状態。早く歩けるように願うばかり。

(道夫)

◆近隣に住む孫(中2男)は今年になって片頭痛で学校を休む事が多くなり、仕事を待つ娘に代わり私が付き添う日々。頭痛が起きた時は光線がダメで真つ暗にして痛み止めを飲んで眠るしかない。そばにいても何もしてあげられない。学校も友人も大好きなのに、部屋から出られない。私も句会にも参加できず、川柳を作る気にもなれず。

◆そんなある日、新聞で「片頭痛に画期的な新薬」という見出しをみつけ、その病院に、孫を車に寝

## ひとこと

ピアノ

ピアノを習い始めたのは五歳。きっかけは姉がしていたからなるとなく。練習しないでピアノ教室に行くので、ずいぶん先生と母に怒られた記憶がある。

そんな私が高校まで続けられたのは、教室でグランドピアノが弾けたから。アップライトとは違い重厚な音がとても好きだった。今は電子ピアノで好きな曲を弾

ウンロードして弾いている。音量が調整できるから便利だけど、物足りなく感じることもある。

この前、神戸で街角ピアノに出会った。それもグランドピアノ。いいなあ弾きたいなあ。でも私、楽譜がないと弾けないのだ。残念。一曲マスターするのに時間はかかるけど、これからも大人のピアノを楽しんでいこうと思う。

(近兼 敦子)

させたまま連れて行つた。そしてあらゆる検査の末、その新薬治療が始まった。一日と頭痛が和らぎ終業式には登校できた。

◆夏休みのピアノの発表会には、練習不足ながら出たいといい、坂本龍一の『戦場のメリークリスマス』を弾いた。その日、彼にとつても真夏のメリークリスマスになった。

(じゅん子)

◆「本社句会あれこれ」

前十時から川柳塔社の常任理事会を開いています。席者八十一名、投句者十名、合計九十一名でした。小島蘭幸主幹、新家完司理事長はそれぞれ遠方な名、「番傘」本社句会は、理事長はそれぞれ遠方な名、合計九十一名でした。車で出発、新幹線で大阪へ来られています。本社句会の受付は、近郊にお住いの同人の方にお願いしています。本社句会で、参加者が一番多かったのは二〇一七年七月路郎忠の出席者一四一名投句者一三名、合計一五四名でした。昨年

(勝弘)

川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙

種目「

」発表(11月号)

地名

市 都  
道  
府 県  
姓 雅 号

きりとりせん

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

## 「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から14時までにお願いたします。

# 檸檬抄投句用紙

「裂く」(9月15日締切)

11月号発表

川本真理子選 — 共選 — 鈴木いさお選

B A

--	--

地名

市都  
県道府  
姓雅号

B A

--	--

地名

市都  
県道府  
姓雅号

切らないで下さい

きりとりせん

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

左右に同じ句を書いて下さい



# 川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

氏名	住所	電話	紹介者
	〒 -	  	

○ ○	年 年	月から半年 月から一年	50000円 98000円
-----	-----	----------------	------------------

該当の方に○をつけて下さい

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201  
川柳塔社 (電話 06-6779-3490)

振替 00980-4-298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい



## 作品募集

11月号発表 (9月15日締切)

川柳塔 (8句)	小島蘭幸選
水煙抄 (8句)	川上大輪選
愛染帖 (2句)	新家完司選
檸檬抄「裂く」 (2句)	鈴木いさお共選
インスピレーション「ナビ」 (2句)	川本真理子選
一路集 (2句)	近藤泰世選
「スクラム」	近藤孝正選
「かりかり」	木見谷孝代選
初歩教室「カレンダー」 (3句)	平井美智子担当

初歩教室「カレンダー」は12月号発表

12月号  
檸檬抄「彩り」  
一路集「届く」「百」  
初歩教室「足」

## 本社9月句会

とき 9月7日(木) 13時開場・13時40分締切  
ところ アウイーナ大阪 3階 葛城の間  
天王寺区石ヶ辻町19-12 電06・6772・1441  
おはなし「2と3と4と5」

兼席題「使」  
「ぼんやり」  
「壊れる」  
「色色」  
「自由吟」

会費 1000円  
投句料 1000円(切手不可)

小島蘭幸選  
新家完司選  
藤井宏造選  
森松まつお選  
きとうこみつ選  
上田和宏選  
平井美智子氏

(各題2句以内)

本社10月句会は第29回川柳塔まつりとして、10月7日(土)に開催します。(本号のP.99を参照して下さい。)

## 本社句会欠席投句のお薦め

- \* 幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚に一句ずつを書き、裏面に題とお名前を記入のこと。
- \* 投句料1000円(切手不可)。
- \* 句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

〒543-0052  
大阪市天王寺区大道一丁目一四一七  
花野ビル201号室

定価 八百円(送料100円)  
半年分 五千円(送料共)  
一年分 九千八百円(同)

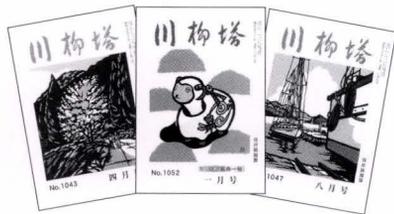
二〇一三年(令和五年)九月一日発行

発行人 小島和幸  
編集人 桑原道夫  
印刷所 美研アート

発行所 川柳塔社  
電話(06)六七七九一三四九〇番  
振替〇〇九八〇四二一九八四七九番

## 川柳・俳句・エッセイ・小説 新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



## 美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10  
TEL (06) 4800-3018  
FAX (06) 4800-3028  
Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp  
ホームページ <https://www.bikenart.com>

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし  
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

# 医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科  
緩和ケア（ホスピス）  
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>

## 川柳塔なら創立25周年記念川柳誌上大会

兼題と選者（各題2句）

「奈良」 大久保眞澄 謝選

「秋晴れ」 稲葉 良岩 選

「わくわく」 島岡美智子 選

「かける」 田中 薫 選

「競う」 土田 欣之 選

「アクティブ」 新家 完司 選

私の一句（自由吟）自作一句（既発表句も可）

締切 令和5年10月31日（火）必着

投句料 1000円（切手はご遠慮ください）

投句用紙 指定用紙（コピー可・便箋可）

投句先 〒636-0202

奈良県磯城郡川西町結崎四二一―六四

長谷川崇明 宛

（携帯）090-9548-9610

問い合わせ先 大久保眞澄

（TEL & FAX）0742-44-8425